

診療科

放射線科

1. 診療体制

- 外来診療について

鬼塚 英雄、野見山 圭太、田原 圭一郎の 3 人の常勤医師にて診療を行っています。

近隣の開業の先生からの紹介による CT、MRI の検査依頼を受け、検査を施行し、読影レポートを返信しています。

当院の外来および入院の患者さんの撮像された単純 X 線画像、CT、MRI に関しても、全例、読影レポートを作成しています。

- 入院診療について

放射線科の病棟はありません。

- カンファレンス・回診等について(学会発表/参加、講師派遣等を含む)

長年やってきた毎月 1 回、金曜朝 8 時からの画像カンファレンスは 9 月より廃止になりました。

技師の教育を主眼とした、放射線科のカンファレンスは、1~2 か月に 1 回のペースで行っています。

第 82 回 日本医学放射線学会総会(4/13~4/16):野見山 圭太 出席

第 59 回 日本医学放射線学会秋季臨床大会(9/15~9/17):田原 圭一郎 出席

佐賀大学放射線科関連病院勉強会(10/11):野見山 圭太 症例提示

2. 振り返りと今後の展望

今年は 7 月に洪水があり、放射線科の機器は全滅しました。12 月にはほぼ被災前の状態にまで回復し、通常の業務にもどっています。

常勤医師の体調不良による欠勤や土曜日の非常勤医師の欠勤(9 月から)による、業務負担増はありますが、どうにか滞りなく仕事はできている状態と思われます。2024 年 4 月からは土曜日の非常勤医師も確保され、ほぼ従来の状態にもどりそうです。

学会参加もできる限りおこない、研鑽したいと思います。

3. スタッフ

- ・ 常勤医師:鬼塚 英雄、野見山 圭太、田原 圭一郎
- ・ 非常勤医師:なし

(文責:野見山 圭太)

麻酔科

1. 診療体制

- 業務内容について

安全な麻酔環境の提供と、術後鎮痛対策を2本柱に行ってきました。

	2021年	2022年	2023年
麻酔総数	379	350	374
全身麻酔	118	78	89
脊椎くも膜下麻酔	72	80	89
局所麻酔	183	165	177
神経ブロック等	6	7	19

- カンファレンス・回診等について(学会発表/参加、講師派遣等を含む)

カンファレンス

手術室スタッフとの症例検討を必要時適宜行い、症例固有の問題点を共有し、安全な麻酔管理を行い快適な手術環境の提供に努めてきました。

術後鎮痛対策を行っている病棟スタッフに対し術後鎮痛勉強会を開催し、スタッフの知識のブラッシュアップに貢献しました。

学会参加:2023年6月1日～3日日本麻酔科学会第70回学術集会に参加し最新知見の習得に励みました。

2. 振り返りと今後の展望

2023年4月院内業務システムの新規変更に伴い、麻酔チャートシステム、手術管理システム等も新たなものに変更になりました。当初は扱い辛い面が目立ちましたが、徐々に使い勝手のいいものになっています。

7月水害の際は手術室も多大な被害を出し、約1ヶ月の業務停止を余儀なくされています。手術、麻酔が再開できた日の事は忘れられない思い出となっています。

今後、病棟、手術室スタッフと密と連携し、術前、術中、術後の切れ間ない患者様の安全、改善を確保に努めていく為、体温、鎮痛等の勉強会を開催したいと思っています。

3. スタッフ

- ・ 常勤医師:辻井 健二

(文責:辻井 健二)

一般内科(総合内科)

1. 診療体制

- 外来診療について

常勤医として、月曜日午前 水曜日午後 土曜日午前 担当させていただいておりましたが、10 月より負担軽減で月曜日午前のみ担当させていただいております。その分、体力に余裕のある若い内科系常勤の先生方や非常勤の先生方に頑張ってもらって、より充実した診療体制となっております。

- 入院診療について

循環器内科 呼吸器内科 などの各専門内科のすき間をうめる形で内科的な症状や疾患の患者様の診療に従事させて頂いております。ただ、そのような患者様の入院治療に際しましては、非常勤の様々の各専門内科の先生方に相談させていただく機会がありますので、当院での充実した画像検査体制と併せまして、診断並びに治療面におきまして安心して頂けるものと自負(トラの威を借りるキツネ状態)しております。

2. 振り返りと今後の展望

- 7 月の水害により、外来、入院診療面で大きなダメージを被り、皆様方へも大変なご迷惑をお掛けしましたが、お陰様で無事に立ち直ることができています。令和 6 年には常勤内科医のさらなる充実が図られる予定ですのでこれまで以上に安心して医療サービスを提供させていただける見込みです。

3. スタッフ

- ① 常勤医師:恒吉 豪

(文責:恒吉 豪)

外科・消化器外科

1. 診療体制

- 外来診療について

月曜日から金曜日の午前中に外来診療業務を行っています。業務内容は、創傷(褥瘡含む)・熱傷の治療、術後患者のフォローアップ、消化器がんの化学療法、がんの緩和ケア、胃瘻カテーテル交換など様々です。外科的処置を必要とする方が、午後から緊急で来院される場合もありますが、その際も可能な限り対応しています。

- 入院診療について

外科全般における診療および、内科系・整形外科・皮膚科・泌尿器科、緩和ケアなどの診療も要請に応じて行っています。手術は消化器・一般外科を中心に行っています。その他に 経皮的内視鏡下胃瘻造設術も外科で行っています。2023年の手術実績は、総手術件数117例、内訳としては全身麻酔 51 例、脊椎麻酔 14 例、局所麻酔(経皮的内視鏡下胃瘻造設術を除く) 20 例、経皮的内視鏡下胃瘻造設術 32 例でした。

- カンファレンス・回診等について(学会発表/参加、講師派遣等を含む)

毎週月曜日に内科との合同カンファレンスをおこなっています。

第 20 回日本褥瘡学会 九州・沖縄地方会 学術集会参加

2. 振り返りと今後の展望

- ・ 7月10日田主丸地区の豪雨災害で手術室が浸水し1ヶ月程度手術不能の状態に陥りました
- ・ 手術室復旧後もすぐには手術件数が伸びず、9月頃から漸く従来のペースに戻りました
- ・ 結果、手術件数は全体で117例と前年の148例と比較して31例の大幅減少となりました
- ・ 今後の展望として、地域的に高齢者が多く、相対的に手術リスクが高い症例が多いですが、術後の合併症を極力減らして、早期離床・早期退院に結びつけたいと考えています。

3. スタッフ

- ・ 常勤医師:野田 祐司、篠崎 広嗣、緒方 峰夫
- ・ 非常勤医師:中村 幸暉、高木 克明

(文責:野田 祐司)

感染症内科

1. 診療体制

- 外来診療について
実施なし

- 入院診療について

各主治医からの感染症相談に応じています。起因菌の同定や、適正な抗菌薬使用について助言しています。

抗菌薬適正使用支援チーム(AST; Antimicrobial Stewardship Team)の一員として活動しています。

- カンファレンス・回診等について(学会発表／参加、講師派遣等を含む)

抗菌薬適正使用支援チームとして、薬剤師、感染管理認定看護師、検査技師などと毎週一回カンファレンスを実施し、広域抗菌薬など届出制になっている抗菌薬を使用している入院患者さんの状況をチェックしています。

・講演：八女筑後医師会、小郡医師会、一般社団法人日本感染管理ネットワーク、博多インフェクションコントロール、鹿児島市感染対策講演会、久留米筑後移植医療推進財団主催市民公開講座

2. 振り返りと今後の展望

感染症内科として入院患者さまに対する抗菌薬の適正使用に関わってきたが、時間的(人員的)問題もあり十分に対応できなかった。届出制の抗菌薬についてはチェックできているが、それ以外の抗菌薬について殆ど介入できていません。また、抗真菌薬についても介入できていません。

今後は、時間的な余裕の無いなかで、いかに効率的に介入できるかを検討していく予定です。また感染症患者の治療予後に関する知見を得られるようなデータ収集と分析を実施したいと考えています。

3. スタッフ

- ・ 常勤医師：本田 順一

(文責：本田 順一)

眼科

1. 診療体制

- 外来診療について
外来業務(月～土)
- 入院診療について
手術後の診察等
- カンファレンス・回診等について(学会発表／参加、講師派遣等を含む)
他院との連携

2. 振り返りと今後の展望

業績

2023 年の対応患者数

新入院患者 80 人 退院患者 80 人 外来患者延数 4,023 人

	2021年	2022年	2023年
白内障手術	72	80	85
アイリーア硝子体 注射	18	11	8

白内障手術を 2 回/月のペースで行っています

(2024 年からは白内障手術待ち患者様の増加のため、手術日を増加する予定)

3. スタッフ

泉 仁

手術応援:指原 裕之(聖マリア病院眼科部長)

(文責:泉 仁)

歯科・口腔外科

1. 診療体制

- 外来診療について
う食処置(根管治療など)
歯周治療
補綴治療(インレー、クラウン、義歯)
抜歯(連携歯科医院より紹介)
粘膜疾患(口内炎、カンジダ症、舌痛症、白板症、悪性腫瘍など)
※適時に大学紹介
顎関節症
- 入院診療について
特記事項なし
- カンファレンス・回診等について(学会発表／参加、講師派遣等を含む)
特記事項なし

2. 振り返りと今後の展望

7月の水害被害により、患者様対応にご迷惑をおかけしました。10月より新ユニットを設置し、今までよりも快適に治療を行える設備が整いました。今後は患者様の「健口」が「健康」につながるように、より一層努力していこうと思います。

3. スタッフ

常勤医師:伊藤 達郎

非常勤医師:拝形 祐登

(文責:伊藤 達郎)

1. 診療体制

外来業務診療について

外来においては主として循環器疾患を持つ患者様の管理を行っています。久留米大学心臓血管内科からの派遣医師の協力もあり、月曜日から土曜日まで循環器内科外来2枠と木曜日を除く月曜から土曜日までの総合内科外来1枠を担当しています。第1、3週木曜日には不整脈担当医師が派遣されペースメーカ外来を担っています。外来心臓リハビリテーションもリハビリテーション部スタッフと協力して、積極的に行っています。外来で施行可能な専門的検査 24時間心電図、(呼気ガス分析)多段階運動負荷試験、薬物負荷心筋シンチグラフィ、冠動脈CTも施行しています。外来受診数は新規/再来 2019年1663/10473、2020年1643/9992、2021年1704/10870、2022年2989/10957であったが2023年は1476/9677と減少しました。これは7月の水害の影響と考えられ、2024年は増加するよう努めたいです。

入院診療について

入院については循環器疾患を中心に肺炎、尿路感染症などのコモディティーズから不明熱、腎臓病、膠原病、血液疾患、消化器疾患などの一般内科診療、さらには癌などの緩和治療も各専門診療科にコンサルトしながら行っています。入院が必要な侵襲的循環器内科領域の検査および治療としては、心臓カテーテル検査、経皮的冠動脈形成術、下肢動脈形成術、下大静脈フィルター、一時的および恒久的心臓ペースング、IABPやECMOなどの循環補助デバイス挿入管理等、ほとんどすべての循環器内科検査治療を施行しています。さらに心臓リハビリテーションもほぼ全例に行っている。入院患者数は、2019年869、2020年800、2021年722、2022年706、2023年808であり、水害の影響はあったがコロナの影響があったこの数年に比べると増加しました。心臓カテーテル検査については、検査数/治療数 2019年60/21、2020年75/69、2021年82/71、2022年48/44、2023年27/29と水害によりシネアンギオ装置が7月-12月中旬まで使用不可だった影響を受け減少しました。2024年度は大幅に増加させる予定です。

カンファレンス・回診等について(学会発表/参加、講師派遣等含む)

毎週金曜日に総回診(院長または上野医師、島松医師)、火曜日に病棟回診(加藤)を行っています。また金曜日には心臓カテーテル症例の検討会を行っています。

学会については、日本内科学会、日本循環器学会、日本心血管カテーテル治療学会、日本心臓リハビリテーション学会等積極的に参加しています。

2.振り返りと今後の展望

4 月からは加藤が循環器内科部長として、10 月からは上野高史医師が院長顧問としてスタッフに加わりました。今年度は 7 月の水害の影響が大きく、外来患者数が減少しました。循環器内科としても主要な検査治療である心臓カテーテル検査治療も 12 月中旬まで施行不能であり症例数が大幅に減少しました。当院では 2024 年 4 月からロータブレードによる冠動脈形成術が施行可能となります。また今後不整脈に対するカテーテル治療も本格導入予定であり、2024 年度は症例数を増加させ病院に貢献したいと考えています。文末になりますが、当科診療に関与しているスタッフの方々に感謝し年次報告とします。

3.スタッフ

常勤医師	鬼塚一郎、島松淳一郎、加藤宏司、荒木翔太、香月太郎、 岩橋秀明、福田由香
非常勤医師	上野高史、古賀義則、板家直樹、佐々木雅浩、力武美子、 光武良亮、山路和伯、山川 礼

(文責:加藤宏司)

整形外科

1. 診療体制

- 外来診療について

常勤医師 2 名、非常勤医師 4 名で一般外傷、四肢の骨折、脊髄・関節の変性疾患、骨粗鬆症等整形外科全般の診療をおこなっています。各種画像検査により脊髄や四肢関節の状態、骨粗鬆症診断や治療経過を正確に患者様に説明提供できるようになっています。また手指の骨折や腱鞘炎に対して外来手術もおこなっております。近隣の開業医の先生からの紹介やリハビリ通院依頼等新患者数は増加傾向にあるようです。

- 入院診療について

転倒等による骨折や脊椎や下肢関節の変性疾患の増悪等により自宅(施設等)での生活が困難となられた方がおもに入院となっております。

疾患名としては大腿骨近位部骨折、脊椎圧迫骨折、骨盤(恥骨・坐骨・仙骨)骨折、変形性腰椎・膝関節症が多いです。保存加療、手術加療いずれにしても早期社会復帰を目標とし、リハビリ加療を開始しています。ただし高齢者の方のほとんどで治療やリハビリに制限や限界があり自宅退院でなく施設入所となる方も少なくないのが現状です。

2. 振り返りと今後の展望

- 超高齢化社会を迎え、高齢者の身体機能はいっそう低下しADL自立がより困難となり結果的に転倒、骨折が増加しています。また、合併症の多様化、複雑化も伴い、前述のごとく、手術加療のみならず保存加療にも限界を感じるが多くなってきています。今後の展望としては従来の外来・入院・手術加療の治す医療だけでなく、治療後の運動器の維持(関節痛や神経痛の軽減)や転倒・再転倒の予防に向けた介入、環境改善の対策等にも目をむけていき、検討していきたいです。

3. スタッフ

常勤医師:橋詰 隆弘、吉野 啓四郎

		調査期間：各1月～12月		
項目		2021	2022	2023
新入院患者数(人)		247	239	302
退院患者数(人)		326	308	335
外来患者延数(人)		4,498	4,723	4,056
手術件数 (件) 総件数→		126	113	133
①骨折観血的手術		85	76	94
②人工骨頭挿入術		16	13	18
③関節切開術		10	7	8
④骨内異物除去		10	5	9
⑤その他		5	12	4
①～④：主な術式と件数を		●2023年3月までの入院患者数は、夜間/休日などは 当直医師の診療科に計上されている。		
⑤：①～④以外の件数を		●SSI移行後は算出定義が若干異なる可能性があります。		
		●手術件数はオペ室のデータをもとに集計		

(文責:橋詰 隆弘)

1. 診療体制

- 外来診療について

外来診療は、一般精神科外来(火曜午前、水曜午前、木曜午前、土曜午前)、もの忘れ外来(月曜午後)を行なっています。一般精神科外来は非常勤医師が担当、もの忘れ外来は光安が担当しています。

デイケアは、精神科デイケア「かれん」、および、重度認知症デイケア「さんぼ」を月曜から土曜まで実施しています。

リエゾン・コンサルテーションは、精神科以外の入院患者を対象に、月～土に他科医師からの依頼に応じて精神症状や問題行動への対応に協力しています。特に、認知症の BPSD、せん妄の相談が中心です。

- 入院診療について

精神科病棟は北3階で閉鎖病棟(46床、うち隔離室4床)です。精神科医師、看護師による精神的治療やケアだけではなく、精神科作業療法士のもとで精神科作業療法を実施しています。身体疾患の合併やADL低下の患者さんも多く、他科の医師、栄養士、理学療法士や言語聴覚士などの協力により身体的治療・ケアも実施しています。治療により状態が安定していけば、精神保健福祉士を中心に患者・家族に対して退院の援助を行います。

認知症ケアサポートチームは、毎週火曜と金曜に他のチームメンバー(老人看護専門看護師、PSW)とともに対象病棟を回診して、各患者について病棟スタッフとともにカンファレンスを行なっています。

緩和ケアチームでは、常勤精神科医(光安)が緩和ケアチームのメンバーであり、おもに当院入院中の癌患者さんの身体的・精神的苦痛、社会的な困難などに対して、チームカンファレンスに参加してサポートしています。

- カンファレンス・回診(学会発表／参加、講師派遣など)

- 学会発表(ポスター)

大橋 綾子、光安 博志、他：臓器移植前精神科面接に関する診療録後方視調査、第36回日本総合病院精神医学会総会、仙台

- 学会参加

第119回日本精神神経学会学術総会、横浜

第36回日本総合病院精神医学会総会、仙台

第59回日本移植学会総会、京都

講演

光安 博志：第167回 健康教室『知っていますか？心の病気 ～高齢者の認知症、不眠、うつ～』、サン・ライフ聖峰、2023年10月28日

2.振り返りと今後の展望

2023年の新入院患者数は49名(平均年齢76.5歳)でした。入院経路は外来23名、転院6名、転科20名でした。入院形態は、任意入院25名、医療保護入院24名でした。精神科診断の内訳は、F0 31名、F2 8名、F3 5名、F4 2名、F7 1名、G40 2名でした。退院患者数は44名(平均年齢78.6歳)でした。退院先は、施設3名、死亡21名、自宅11名、転院9名でした。

認知症サポートチームは、対象病棟を週1回回診して、各患者についてカンファレンスを行ないました。

外来患者数は延べ9209名、実患者数は327名でした。診断別(重複を含む)では、F0 17.9%、F1 1.2%、F2 24.6%、F3 29.4%、F4 18.3%、F5 1.8%、F6 0.5%、F7 4.8%、F8 1.5%でした。

デイケア「かれん」の利用者は延べ1662名、「さんぼ」は延べ4901名でした。

リエゾン・コンサルテーションの診察回数は386件(32.1件/月)、実患者数は138名(診察回数平均2.8回/名)でした。

今後の展望としては、高齢者の入院が多いこともあり、認知症のBPSDや器質性・症状性精神障害と身体疾患を併存する患者さんで、精神症状の対応・管理が優先される状態の患者さんの入院が増えていくことが予想されます。

3.スタッフ

- 常勤医：光安 博志
- 非常勤医師：安元 眞吾、阿部 公信、金子 和樹、林田 哲尚、鮫島 健輔、佐賀大学精神科派遣医師(土曜)

(光安 博志)

脳神経外科

1. 診療体制

● 外来診療について

外来診療は月曜から土曜までの毎日です。

脳梗塞をはじめとする成人の脳神経疾患一般及び脊髄疾患に関して診療を行っています。常勤医師は後藤と西原、非常勤医師としては、月曜に上瀧、火曜に伊香、水曜に松本、金曜に花田が、土曜には松本・橋川・上瀧が交代で、外来診療を担当しています。夜間・休日においても、当直医と連携をとりつつ、断らない医療を実践すべく、対応に臨んでいます。実際に、深夜や休日などは当直医から転送された検査画像を常勤医師が評価しアドバイスできる体制としており、当院で対応困難な場合は二次・三次救急病院へ移送しています。

● 入院診療について

一年間の脳神経外科の新入院数は 217 名。主な疾患は脳梗塞、種々の程度の頭部外傷、末梢性めまいとなっています。重症の血管障害や腫瘍、外傷といった外科的処置を要する疾患の他、外科的処置を要さない感染性疾患や変性疾患等に対しても、神経内科など他科と協力しつつ、診療に当たっています。

● カンファレンス・回診等について

新入院患者に対するカンファレンスを週 2 回、リハビリテーションに関する検討を週 1 回おこなっています。理学療法士や看護スタッフのみならず、検査技師や栄養士や社会福祉士などと連携し、チームで対応しています。久留米大学病院や聖マリア病院からの研修医に対する実習指導もおこなっています。

2. 振り返りと今後の展望

当科の入院は多くは通常の診療時間以外あるいは救急によるものです。今年度の新入院数は 217 名、総手術件数は減少し過去最少の 18 件にとどまりました。重症の(時間外)救急患者の搬入減少が一因と考えています。今後は少しずつ体制を強化し、時間外の対応を拡大していくことを検討しています。

3. スタッフ

- ・ 常勤医師 後藤 伸、西原 功
- ・ 非常勤医師 松本 佳久、花田 迅貫、橋川 拓郎、伊香 稔、上瀧 善邦

(文責: 後藤・西原)

呼吸器内科

1. 診療体制

- 外来診療について

呼吸器内科一般診療、睡眠時無呼吸症候群の管理、喫煙外来を実施しています。

- 入院診療について

主に、呼吸器感染症に対する治療、呼吸不全に対する呼吸管理を行っています。

当院に於いて最も多い嚥下性肺炎患者に対し、STによる嚥下評価、嚥下訓練を行っています。また慢性肺疾患に対する呼吸器リハビリテーションの積極導入も行っています。

新型コロナウイルス感染症の治療については、他科と協力し対応治療を行っています。

- カンファレンス・回診等について(学会発表/参加、講師派遣等を含む)

1 回/週 の医局カンファレンスとは別に、1 回/週 呼吸器カンファレンスを行い、看護師、薬剤師、PTとともに多職種での症例検討を行っています。

2. 振り返りと今後の展望

業績報告

新規入院患者数 377 人 退院患者数 413 人 外来患者延べ数 3,347 人

項目	2020	2021	2022	2023
新入院患者数	103	229	249	377
退院患者数	148	276	345	413
外来患者延数	4,535	5,298	4,664	3,347
睡眠時無呼吸症候群(1次)	13	23	25	20
睡眠時無呼吸症候群(2次)	17	10	11	15
禁煙外来	18	11	-	-
PCR 検査	1,419	3,922	8,933	192
コロナ入院患者	13	89	169	237

※2023年3月までは、夜間/休日などは当直医師の診療科に計上されています。

※SSI 移行後は算出定義が若干異なる可能性があります。

※コロナ入院患者数の定義がわからなかったため、2022-2023は「在院期間中にCOVID-19の病名が登録された患者」にて算出しています。

※PCR検査の定義が不明なため、電子カルテ検査結果より件数を出力しています

久留米大学病院呼吸器内科の協力の下、毎日外来診療を行っています。

令和6年3月からはマリン病院呼吸器内科にも協力をしていただき、診療を行います。

3.スタッフ

常勤医師：光武 良幸 力丸 徹 松永 和子

非常勤医師：富岡 竜介 森渕 肅斗 矢野 稜 安藤 みや

(文責：松永 和子)

診療技術部

1. 業務内容・活動内容

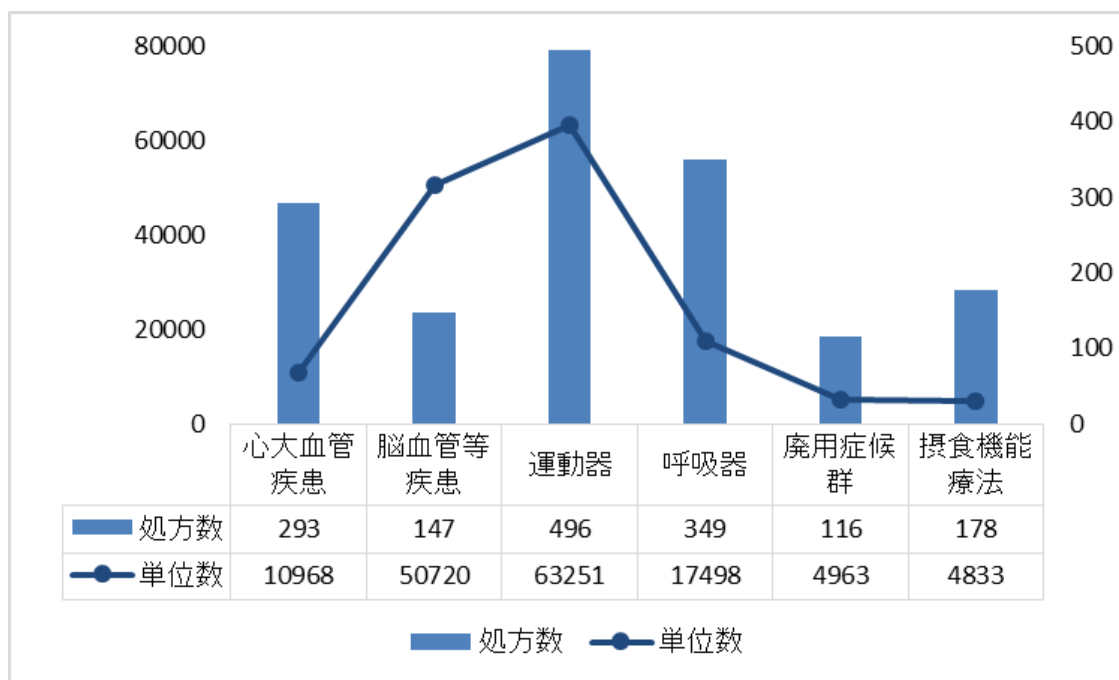
- ・ 全ての診療科の依頼を受け、各疾患別リハビリテーション(以下、リハ)の実施
対象疾患:心臓・脳血管障害・運動器・呼吸器・廃用症候群
- ・ 老人保健施設サンライフ、パワーデイケア、サンヘルスへ出向の継続
- ・ 2011年4月より回復期リハ病棟を対象に365日リハ対応の継続
- ・ 2013年10月より緩和ケア病棟において「在宅復帰を支援する癌リハ」として自宅復帰の支援や生活の質向上を目指し快適な療養生活のサポートの継続
- ・ 2014年7月地域包括ケア病棟開設。在宅復帰支援のため全患者対象にリハ評価を行い、必要性に応じた疾患別リハと補完代替リハの継続
- ・ 2019年より地域に向けた取り組みとして医師会 PT/OT/ST 部会参加の継続
- ・ 2020年9月より COVID-19 病棟において呼吸器リハの継続
- ・ 2023年4月よりうきは市地域支援事業等業務委託へ出向

2. 2023年の目標

- ・ 電子カルテ更新に伴うDX化の促進
スマートフォン活用による業務整理
- ・ スタッフが持つ能力やスキルの一元管理
疾患別チーム編成と管理:主任・リーダー・中堅・新人スタッフ
- ・ 学会発表や資格取得などによる自己研鑽
演題発表を年間1題励行
- ・ 地域包括ケアシステムの構築
地域住民の健康寿命の延伸

3. 実績

<処方数>



4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 第9回地域包括ケア病棟研究大会 演題発表
「地域包括ケア病棟入棟時のリハビリテーション対応患者の特徴」

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 心電図検定3級:村山 莉栄
- ・ 生活行為向上マネージメント指導者:桐谷 茂希
- ・ 介護予防推進リーダー:徳永 知朗
- ・ 透析時運動指導等加算:山下 美智恵、山崎 卓也
- ・ 和温療法:山下 美智恵
- ・ 臨床実習指導者:高倉 信、碓井 可奈、柴田 和哉、

6. 実習指導

- ・ 西九州大学
2023年2月13日～2023年2月18日:見学実習(3日間)
- ・ 緑生館
2023年2月27日～2023年3月4日:見学実習(1週間)
- ・ 西九州大学
2023年6月19日～2023年8月12日:臨床実習(8週間)
- ・ 久留米リハビリテーション学院
2023年7月10日～2023年9月2日:臨床実習(8週間)
- ・ 柳川リハビリテーション学院
2023年7月18日～2023年9月9日:臨床実習(8週間)
- ・ 麻生リハビリテーション大学校
2023年8月21日～2023年9月9日:臨床実習(3週間)
- ・ 国際医療福祉大学
2023年12月4日～2023年12月16日:評価実習(2週間)

7. 振り返りと今後の展望

今年を振り返り、忘れられないことは7月10日の豪雨災害です。リハビリテーション科は1階に配置されているため床上浸水被害を受け、器具類も支障が出ました。しかし復興に向けてスタッフ一丸となり、被災から4日目にベッドサイドリハを開始。5日目には独歩可能な患者様対象でしたが、リハ室にて訓練が可能になり、スタッフの底力とチームワークの素晴らしさを確信しました。また、ボランティアとして協力頂いた地域の方々の優しさに感謝する出来事になりました。

新しい取り組みとしては、うきは市へ地域支援事業等業務委託を受け、出向者を出させて頂いたことです。これにより当院から退院された患者様が地域でどのような生活を送られているのか更に深く考える機会が得られたと思います。

今後の課題としてはこのようなサービス事業の社会資源をスタッフ間で広めていき、よりよいサービスを地域に還元できる部署になりたいと思います。

(文責:糸田 竜彦)



1. 業務内容・活動内容

- | | |
|------------------|-------------------|
| (ア)臨床工学科 | (イ)透析センター |
| (a)医療機器管理 | (a)透析業務一般 |
| (b)病棟内設置・操作・動作確認 | (b)透析関連機器管理 |
| (c)心臓カテーテル業務 | (c)シャント管理業務 |
| (d)内視鏡センター業務 | (シャントエコー、シャントPTA) |
| (e)病棟ラウンド | (d)水質管理 |
| (f)医療ガス点検 | (e)物品管理 |
| (g)麻酔器始業点検 | |
| (h)医療機器の消耗品の管理 | |

2. 2023年の目標

看護部との連携をますます強化し、医療機器を安全に使用できる環境を整え、医療機器関連の事故ゼロを目指します

3. 実績

(ア)院内修理依頼業務

2023年には合計70件の修理・点検依頼がありました。その内80%を院内での修理・点検でまかなうことができ、修理費用の削減、機器修理期間滞在の減少に貢献出来ております。

(イ)医療機器稼働率

- (a)人工呼吸器
- (b)NPPV稼働率グラフ
- (c)輸液ポンプ稼働率グラフ
- (d)シリンジポンプ稼働率グラフ ※(a)～(d)のグラフは別紙参照

(ウ)シャントエコー及びシャントPTA件数

適切なシャント管理(緊急PTA回避)を目的に、イベント(穿刺困難、止血に時間を要する等)が発生した患者様に対し、シャントエコーを実施し評価を当科スタッフが実施しています。

実績 シャントエコー件数:140件

シャントPTA件数:135件

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

5月:新人看護師勉強会 ～医療ガス・酸素ボンベ～

～輸液・シリンジポンプ～

6月 : 低圧持続吸引器勉強会 ～ドレナージの原理～

10月 : 人工呼吸器勉強会 ～モードと設定～

4～8月: 第5回医療機器テスト

(対象機種: 輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、NPPV、酸素ボンベ)

(対象者: 全看護師)

10～12月: 第6回医療機器テスト

(対象機種: 酸素ボンベ、輸液ポンプ、シリンジポンプ)

(対象者: テスト結果によって分類しているゴールドランク以外の看護師)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

2023年5月～2023年6月: 日本文理大学医療専門学校より1名受入れ

内容: 医療機器管理業務、心臓カテーテル業務、透析業務、シャント管理業務

7. 振り返りと今後の展望

医療安全の観点から当法人内のマリン病院で使用中の医療機器(人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動器、低圧持続吸引器、生体情報モニタ)の定期点検及び勉強会を開催し、安全面向上を図っております。

また当院では、看護師に対する医療機器テストを継続実施することにより、教育面を強化しております。

今後は、機器管理方法や作業記録方法等の見直しを図りつつ、今まで以上の安全管理体制の確立に努めてまいります。

透析センターにおいても、透析通信システム(Future Net Web)及び全自動型透析装置を活用し業務効率化をはじめ、ヒューマンエラーの減少、安全面の向上に努めています。

(文責: 高浪 公通)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 一般撮影:胸部、腹部、整形全般、乳腺、骨密度測定、その他
- ・ CT 検査:頭部、躯幹部、四肢、心臓、その他
- ・ MRI 検査:頭部、躯幹部、四肢、その他
- ・ 透視検査:胃透視、大腸透視、ERCP その他
- ・ 核医学検査:心筋シンチ、骨シンチ、脳シンチ、腫瘍シンチ、その他
- ・ 血管造影検査:心臓、透析シャント、その他

2. 2023 年の目標

- ・ 知識・技術の習得及び業務への活用
- ・ 各機器の円滑な稼働
- ・ 機器購入・保守の計画的な導入・見直し

3. 実績

- (1) 各種検査件数、(2)放射線科勉強会(共に別表参照)

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- 2023/01/20 DLB の臨床と画像診断(松野)
- 2023/01/25 心不全診療トピックス(松野)
- 2023/02/08 Nuclear Image Training Course(松本)
- 2023/02/14 日本心臓核医学研修会(松野)
- 2023/03/06 死亡時画像診断(Ai)研修会(角野 薩本)
- 2023/03/08 第1回 DET CONNECT -Image で決める PCI 戦略-(井出)
- 2023/04/20 熊本ジャイロ Web(松野)
- 2023/04/27 ニュータウンカンファレンス(松本)
- 2023/05/11 心筋 SPECT 読影道場(松本)
- 2023/05/12 核医学教育特別講演会(松本)
- 2023/05/13 小倉 LIVE 2023(薩本)
- 2023/06/22 熊本ジャイロ Web -乳房-(松野 横井)
- 2023/06/26 DCB バルーンについて(井出)
- 2023/07/01 Kyushu MRI Basic Seminar(副島 栗原)
- 2023/09/05 MRI 安全性講習会(副島)
- 2023/09/ MRI 安全性講習会(松野)
- 2023/09/24 心不全を極める #23(薩本)

2023/09.30 乳腺画像症例解説セミナー(井出)
2023/10/15 ジャパン・マンモグラフィー・サンデー(井出 溝口)
2023/11/10 筑後有明 CT・MRI(栗原 井出)
2023/11/29 DET CLUB in SAGA -ボストン-(石橋)
2023/11/24 乳癌検診学会(井出)
2023/12/11 心筋 SPECT 読影道場(富田 松本)

5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 診療放射線技師法改正に伴う告示研修:佐藤 真衣子、横井 風羽、諏訪田 真弘
井出 喜子、副島 めぐみ
- ・ 検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師免許:福田 さよ

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

今年は7月の水害により検査機器の大半が使用不可になりましたが、徐々に装置も稼働していき、10 月にはすべての検査が行えるようになりました。CT 車を貸していただいた白鳳会東京曳舟病院様には感謝するばかりです。

診療放射線技師法改正に伴う告示研修にも 5 名が参加し資格を得ています。

10 月に開催したジャパン・マンモグラフィー・サンデーは当初水害の影響で開催が危ぶまれていましたが、関係部署の協力もあり無事終了することができました。

また、新たに 1 名検診マンモグラフィ撮影認定放射線技師免許を取得することができました。来年は、マンモグラフィ検診 施設・画像認定の更新に向けて準備しており、認定画像が提供できるよう努力してまいります。

今後も知識・技術の向上に努め、地域の方々に最新の検査・画像情報を発信してまいります。

(文責:角野 浩一)

1. 業務内容・活動内容
 - ・ 給食管理(食事変更・食数・経管栄養剤)
 - ・ 栄養管理(栄養管理計画書・評価)
 - ・ 栄養指導(入院・外来・糖尿病教室)
 - ・ チーム医療(NST・緩和ケア・多職種カンファレンス)
 - ・ 非常災害用備蓄の管理
 - ・ 健康増進の啓蒙活動
 - ・ 食事基準及び食種の見直し

2. 2023年の目標
 - ・ 新電子カルテと部門システムの導入及び円滑な運用
 - ・ 食事基準及び食種の見直しとシステムへの反映
 - ・ QC活動「外来透析患者様の栄養指導の見直し」
 - ・ チーム医療の強化
 - ・ 地域活動(ボランティア・講演など)

3. 実績

【栄養指導状況】

(件)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
個別	外来	102	107	102	84	94	92	60	95	100	100	96	98	1,130
	入院	111	133	145	95	121	104	43	110	87	114	135	130	1,328
合計		213	240	247	179	215	196	103	205	187	214	231	228	2,458

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
 - ・ 久留米市田主丸町地域婦人会連絡協議会がん征圧研修会
2023.1.18 講師派遣 がんと食～免疫力を高めるために～
5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格
 - ・ 「該当なし」

6. 実習指導

- ・ 「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

本年は、電子カルテ変更に伴い部門システムの導入にあたり、食種の見直しを行い、システムへの反映と円滑な運用に努めました。

また QC 活動として、「外来透析患者様の栄養指導の見直し」について取り組みを行いました。

栄養ニュース「Smile」については、発行を継続しており健康増進の啓蒙活動に繋げることができています。その他、7月に豪雨による浸水災害を受け、栄養科では厨房内が使用できずライフラインが止まる状況となりました。そのため非常災害用食品の支援を受けたり、当院の備蓄食品を使用しましたので、入れ替え作業や厨房内環境整備なども行いました。

今後は、非常災害に備えより良い環境整備や訓練などに取り組みたいと思います。

さらに、早期介入による患者様の栄養状態や ADL 改善に向け、多職種と情報共有を行い、連携強化にも力をいれていきたいと考えます。

(文責:刈茅 靖子)

1. 業務内容・活動内容
 - ・ 注射調剤・内服調剤業務
 - ・ TDM 業務
 - ・ 抗癌剤無菌調製業務
 - ・ 持参薬鑑別業務
 - ・ 病棟服薬指導業務
 - ・ 各種委員会参加
2. 2023 年の目標
 - ・ 初期研修・中期研修プログラムを構築し薬学教育の標準化を目指す
 - ・ 病棟担当のローテーション、新規配置を行い、幅広い服薬指導を行う
 - ・ 冷所高額医薬品の廃棄量を減少させる
3. 実績
 - ・ 初期研修プログラムの作成は終了し、新卒薬剤師に対して実践していった。
 - ・ キュービックスシステムをモニター契約し、冷所高額医薬品を返品・交換できるシステムを導入した。
 - ・ 処方変更、特に退院処方に伴う導線を変更することにより、廃棄薬剤量を大幅に減少させた。
4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
 - ・ 第 20 回プライマリケア学会 生涯教育セミナー
 - ・ 第 38 回日本臨床栄養代謝学会学術集会
 - ・ 第 39 回日本臨床栄養代謝学会学術集会
 - ・ 日本病院薬剤師会感染専門認定薬剤師講習会
 - ・ 第 82 回九州山口薬学会
 - ・ 第 71 回化学療法学会
 - ・ 第一薬科大学 講師
5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格
 - ・ 福岡県筑後糖尿病療養指導士:阿部 諒
6. 実習指導
 - ・ 該当なし
7. 振り返りと今後の展望

2023 年は途中水害の影響で、初期研修プログラムは実践できましたが、中期研修プログラムの実践までには至りませんでした。今後は、初期研修プログラム・中期研修プログラムが完成した後、毎年ルーチンで実践し、教育システムの標準化を目指します。

また、病棟担当者も定期的に配置転換し、地域包括ケアに関わるジェネラリストの育成を行います。

来年以降は当直業務を再開し、24 時間対応できる薬剤科の組織づくりを構築していきます。そして、ゆくゆくはメディカル部門としての薬剤部を組織し、医薬品の取り扱い・情報の取り扱いをここで集約し・発信していく組織へ変革し、地域医療へ貢献していきたいです。

(文責:橋口 亮)

診療技術部 検査科

1. 業務内容・活動内容

- ・ 生理機能検査(心電図、長時間心電図、呼吸機能、脳波、聴力、ABI、超音波検査、他)
- ・ 検体検査(生化学、血液学検査、輸血検査、感染症検査、尿・便検査、他)
- ・ 細菌検査(一般細菌培養検査、感受性検査、抗酸菌塗抹検査、他)

2. 2023年の目標

- ・ 免疫検査装置更新に伴う院内肝炎検査の実施
- ・ 品質保証施設認証制度申請に向けた準備の実施
- ・ 検査室内環境整備と機器配置の見直し
- ・ 資格取得

3. 実績

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
胸腹部エコー	140	105	148	127	126	166	107	172	163	158	176	182	1770
心エコー	137	150	173	128	150	156	89	130	156	155	196	176	1796
頸動脈エコー	26	25	22	15	12	18	9	13	19	18	25	25	238
心電図	743	929	972	680	1028	1003	653	865	797	1050	819	1040	10579
生化学	335 6	345 4	375 9	3281	352 8	366 9	204 3	288 5	327 7	368 4	352 8	3651	40115
検血	241 6	254 5	271 0	235 8	2601	2615	1945	258 2	247 0	258 9	252 2	265 5	30008
凝固	352	396	397	357	410	383	219	363	385	387	378	389	4416
免疫(10ヶ合)	151 8	116 3	123 0	929	865	850	739	1236	1036	892	889	1352	12067
尿・便・一般	131 7	157 4	160 6	1039	1305	1652	1179	1597	1513	1734	1802	1817	18135
細菌検査	243	244	292	276	339	321	263	384	388	326	311	297	3684
輸血(単位)	90	96	80	74	90	42	38	92	40	54	54	84	834
病理・細胞診	76	86	65	42	85	66	37	76	60	102	100	82	877

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 6～10月:タスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣指定実技講習参加
- ・ 6月:学童心電図検診 技師派遣
- ・ 9月:感染管理相互ラウンド(日田済生会病院)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

昨年から今年3月まで電子カルテ変更に伴う多くの作業を行ってきました。

そして、2023年4月より新電子カルテが稼働しましたが、稼働時点ではまだまだ改善すべき点が多く、使用しながら不備が見つければ改善する事を繰り返し、今後もこの作業は継続していく必要があります。

5月より新型コロナがインフルエンザと同様の5類感染症に分類されたことにより濃厚接触者の検査実施数が激減しました。今まで感度の良い遺伝子検査が推奨されていましたが、より簡便な抗原検査が主流となり、検査体制を大きく変えることになりました。

7月10日に水害に見舞われ、生理検査室と生化学検査室の多くの装置が浸水による被害を受け、生理検査、検体検査共に多くの機器を更新することになりました。

自動分析装置更新時には今後の浸水に備え、床を30cm上げる工事を行ったうえで機器を搬入しました。生理検査においては各メーカーより代替機を提供頂き、早期に通常業務が実施できるよう体制を整えました。

また、生化学自動分析装置が使用できない期間は、検査センターより提供頂いた代替機及び東京曳舟病院様より提供頂いた非常時用のトラックにて検査を実施しました。

この間、日々変わっていく検査運営に検査科スタッフ一丸となり対応してきました。これまでに全く経験のない苦境にも立たされましたが、検査科全員の努力と対応力にて乗り越えることが出来たと実感しています。

このような状況にありましたが、今年目標であった院内肝炎検査の実施、品質保証施設認証制度申請、検査室内環境整備と機器配置の見直しにも取り組み、また、新しく始まったAST活動に参加したり、耳鼻科検査への取り組みも始めています。

2024年度からは新しいスタッフも増えることになっています。今後もスタッフ一丸となり、検査科の存在意義を高めるべく邁進してまいります。



東京曳舟病院様よりご提供頂いた医療用車両【メディカル・コネクス】

(文責:樋口 昭子)

看護部

看護部 手術室

1. 業務内容・活動内容

対象診療科目：一般外科、脳・神経外科、整形外科、心血管外科、眼科、循環器内科、形成外科、麻酔科

麻酔科医：常勤医：1名

手術室・中央材料室：看護師：6名

手術1症例ごと担当看護師2名(器械出し、外回り)体制

緊急心臓カテーテル検査・緊急手術(夜間)：看護師2名のオンコール体制

予定手術スケジュール調整(時間と人員)

手術材料・医療機器の手配と調整

外科治療目的の周手術期(術前・術中・術後)の治療介助及び看護

麻酔介助と管理

診療報酬請求伝票の記載(術式、麻酔管理、使用材料・薬品)

医療安全の推進(患者誤認防止対策、体内遺残防止対策)、事故防止対策検討

感染管理(予防含む)

手術器械・鋼製小物等洗浄とメンテナンス

手術器械・鋼製小物等の既滅菌物保管管理(滅菌切れ等の確認)

各部署鋼製小物等既滅菌物保管管理の点検と指導

医療機器等の法定点検、定期点検、メンテナンス調整

環境整備(5Sの推進)

相談会1回/月(適宜 臨時開催)

手術マニュアルの改訂(適時)と手術室勉強会1回/月回開催

心臓カテーテル検査の看護業務

放射線看護業務

2. 2023年の目標

患者と共に入室

手術室災害発生時の訓練の実施

適切なコスト管理

ムダ・ムラ・ムリの削減

院内外研修参加(専門性の知識の向上)

3. 実績 手術総数

<手術総数>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
手術総数	24	34	36	33	29	36	12	19	31	38	44	38	374

<診療科別手術件数>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
外科	6	4	10	8	8	12	1	6	6	9	10	7	87
整形外科	10	15	13	14	12	10	3	7	8	12	14	15	133
脳・神経外科	0	1	1	2	1	1	0	0	2	6	2	2	18
眼科	7	7	8	8	4	8	4	3	8	7	12	8	84
循環器内科	0	2	1	0	1	0	1	1	1	0	0	2	9
形成外科	0	3	2	1	1	5	3	1	5	1	5	1	28
その他 (心血管外科含む)	1	2	1	0	1	0	0	1	1	3	1	1	12

<麻酔科別手術件数>

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総数
全身麻酔	3	7	11	10	7	9	2	3	9	12	12	12	97
脊椎麻酔・硬膜外麻酔	5	9	8	9	8	11	0	7	3	8	9	9	86
局部麻酔	13	16	15	12	12	16	9	8	18	18	23	17	177
その他(神経ブロック)	3	2	2	2	2	0	1	1	1	0	0	0	14

4.2023年に新たに取得した専門・認定資格

ACLS プロバイダー 財津早紀 / 荒巻瞳 / 恵良海紗希

5.実習指導

該当なし

6.振り返りと今後の展望

今年は独歩・車いすで入室される患者様を対象に「病棟までお迎えに行き、一緒に入室する」という取り組みを実施しました。術前から患者様と関わる時間を積極的に持つことで、患者様の表情の変化や不安の表出へ繋がり、退院時アンケートでは患者様からの手術室スタッフへの感謝の言葉をいただきました。

今後は対象を全患者様へ拡大し取り組んでいきたいです。

また、業者さんと協力し部署内勉強会を計画的に実施しました。さらに、水害があったため、災害時の勉強会も実施しました。

今後も周術期の看護をより充実させるため、コミュニケーションを円滑に情報共有に努め、看護実践能力の向上を図っていきます。

また、心臓カテーテル検査にも対応しているため、専門的な知識の向上に努めていきたいです。

(文責:田中智哉子)

看護部 精神科専門療法科

1. 業務内容・活動内容

精神科コメディカル室は精神科病棟(北3階病棟)での精神科リハビリテーションを精神科作業療法士、看護師、公認心理師にて実施しました。

(上記以外に病棟看護師・栄養科スタッフのチームでアプローチを実施)

精神科デイケアかれんは精神科における中間施設として精神科作業療法士、看護師、公認心理師にて外来患者(利用者)様への対応を行いました。

重度認知症デイケアは精神科作業療法士、看護師、精神保健福祉士、介護福祉士、ケアワーカー、公認心理師にて精神状態及び異常行動の著しい認知症患者(利用者)様の対応を行いました。

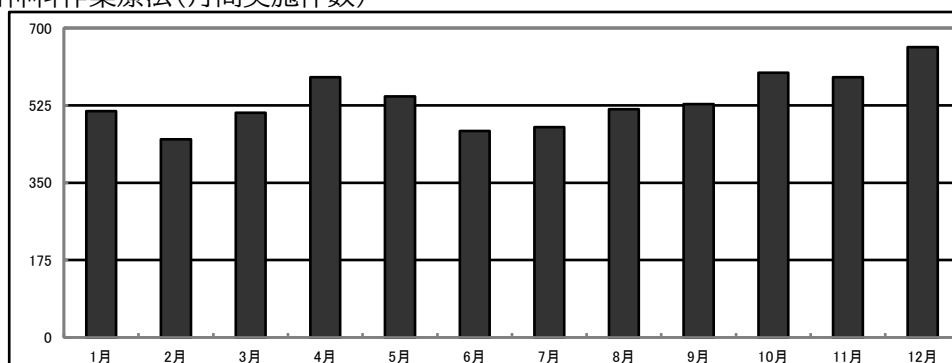
2. 2023年の目標

精神科専門療法科には多職種のスタッフによって成り立っています。

職種としては看護師、精神科作業療法士、公認心理師、介護福祉士、ケアワーカーといったそれぞれの専門があり、考え方、手技もさまざまです。今後、患者様、ゲストの治療目的、目標を明確化し、その専門性を活かしてチームでアプローチすることの出来る体制作りを継続し行なっていきます。

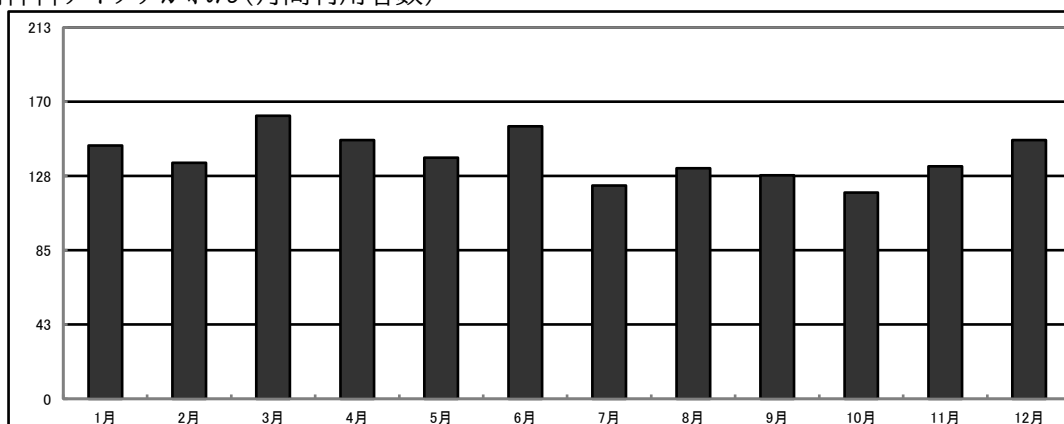
3. 実績

精神科作業療法(月間実施件数)



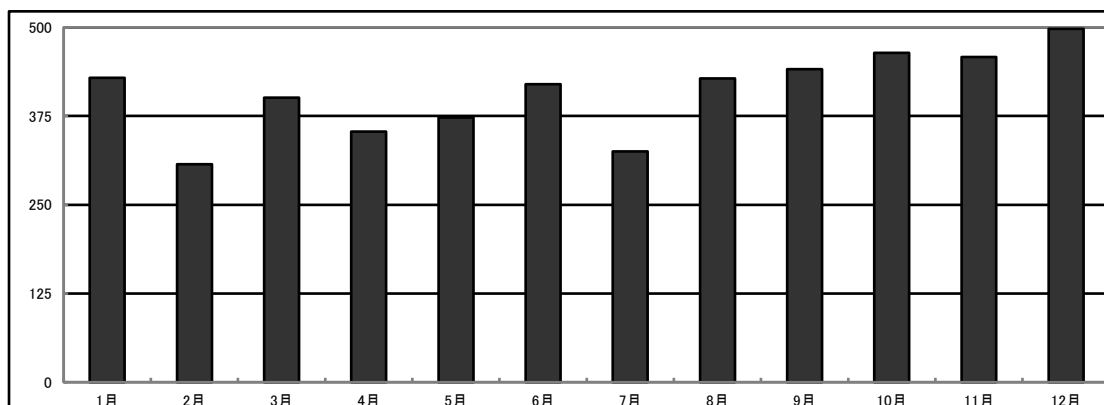
精神科作業療法(精神科作業療法 1日1回 2200)2200円

精神科デイケアかれん(月間利用者数)



精神科デイケア小規模(精神科デイケア料 5900・再診料 730(早期加算 50 一年未満))6630円

重度認知症デイケアさんぽ(月間利用者数)



重度認知症デイケア(重度認知症デイケア実施 10400・再診料 730)11130 円

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
 - ・電話相談「心の相談ちくご」1ヶ月/1回(公認心理師 是永 陽子)
5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格
 - 該当なし
6. 実習指導
 - 医療福祉専門学校緑生館 見学実習1名 評価実習1名

7. 振り返りと今後の展望

・精神科コメディカル室

精神科作業療法は精神科一般病棟(北3階病棟)における、精神科作業療法を実施。活動内容は創作活動(手芸・木工・絵画・イラスト等)や運動療法、レクリエーションなど、15～20の活動を継続し行いました。又年間行事、月別季節行事といった行事(年間12回)も企画し実施しました。心理は病棟・外来にてカウンセリング、検査を積極的に行いました。

・精神科デイケアかれん

精神科作業デイケアは当院の精神科中間施設として入院から退院、社会復帰の支援を目標にあげ、多職種(医師・看護師・公認心理師・精神科作業療法士)で連携しアプローチを行ないました。特に精神面だけでなく身体面でのフォローを充実させることで利用者様の安心感を与えよりどころとして機能しています。今後も利用者様が作り上げるデイケアとして、プログラム・行事を利用者様、スタッフとで話し合い、ニーズに沿った内容へ移行していきたいです。

・重度認知症デイケアさんぽ

重度認知症デイケアさんぽでは、利用者様がいかに快適に過ごせるのか、又ご家族は何を望んでおられ、生活では何が問題となっているのかを明確化し、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、公認心理師、介護福祉士、ケアワーカーが協力し医療、介護の両側面からのアプローチを実施しました。今後も活動、レクリエーション等によりほどよい刺激を与え認知症進行予防と、すこやかな生活を利用者様が送れるようにしていきます。

(文責:城野 誠)

看護部 北1階病棟

1. 業務内容・活動内容

- ・主に循環器内科・呼吸器内科・一般内科・脳神経疾患の患者様が入院され、急性期看護を担っている病棟です。
- ・心筋梗塞・脳梗塞・肺炎の急性期看護、心臓カテーテル検査及び治療後の看護、在宅酸素導入の教育・指導などを行っています。
- ・入院や検査で不安を持つ患者様、ご家族が安心して入院生活を送る事が出来るように業務改善や自己研鑽を行っています。

2. 2023年の目標

- ・効果的な業務改善を行い、時間を有効活用する
- ・病床を有効活用し病床使用率の維持と向上を目指す
- ・学会、院外研修会の掲示、参加(ZOOM参加)

3. 実績

新入院患者数 月平均

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新入院患者数	40	82	99	80	78	83	49	90	75	83	78	95

病床稼働率 平均稼働率

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
稼働率%	84.1	103.6	106.5	99.8	101.1	98.5	65.6	88.3	99	101.2	101	101.3

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・認知症看護実践力向上研修(石橋)
- ・'23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修(吉川 與賀田 隅田)
- ・福岡県医師会看護師卒後研修会看【看護管理(総論)研修】(小柳)
- ・'23「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修(與賀田 吉川 隅田)
- ・小倉ライブ 2023 ZOOM(小柳 吉川)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・特定行為看護師(正式名称):吉田 あゆ美

6. 実習指導

精華女子高等学校看護専攻科 9月25日～10月12日 10月16～11月1日
 麻生看護大学 看護通信課程科 11月7日～11月10日 12月5日～12月8日

7. 振り返りと今後の展望

循環器、呼吸器、脳神経外科の重症患者様の受け入れの際は、看護師のスキル向上のため病棟勉強会の開催を行った。COVID-19 疑いのある患者様を受け入れる病床の確保により、感染管理の徹底をおこなっています。

今後は、新人看護師を受け入れて人員の確保を行ったうえで、新人教育の徹底、安全・安楽な医

療の提供が行えるよう知識・技術の向上に努めたいと考えます。
更に、病床管理・他部署との連携をさらに強め効率的な病棟運営を行うとともに、スタッフの教育
継続により質の向上を目指したいと考えています。

(文責:小柳 敬)

看護部 北3階病棟

1. 業務内容・活動内容

- ① 精神科病棟は北3階で閉鎖病棟(46床、うち隔離室4床)です。精神科医師、看護師による精神科的治療やケアだけではなく、精神科作業療法士のもとで精神科作業療法を実施しています。
- ② 身体疾患の合併や ADL 低下の患者さんも多く、他科の医師、栄養士、理学療法士や言語聴覚士などの協力により身体的治療・ケアも実施しています。治療により状態が安定していけば、精神保健福祉士を中心に患者様やご家族に対して退院の援助を行います。
- ③ 「精神保健福祉法」に基づき、患者さんの尊厳を守りつつ、安心かつ安全な入院治療を提供するため、他職種との連携を図り、行動制限を最小限に抑える取り組みを行っています。

2. 2023年の目標

- ・ 患者さま・ご家族・職員への優しい声かけ、明るい笑顔を心がけましょう。

3. 実績

- ・ 令和6年4月 改正精神保健福祉法に関する情報収集
- ・ 精神障害者福祉に関する法律の遵守
- ・ 精神病院における虐待防止に向けた取組の一層の推進
(虐待防止・対応マニュアル作成 第一版 2023年5月29日)
虐待防止対策研修会実施
- ・ 開放処遇への取り組み(毎月 行動制限最小化委員会)
- ・ 感染対策を徹底し、感染の拡大を防止(感染アウトブレイク ゼロ)
精神科作業療法 レクリエーション 年中行事実施



文化祭

夏祭り

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 精神科特定行為研修受講
- ・ 日本看護協会 職能委員会 I
- ・ 筑後地区看護部長会及び研修会

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- 該当なし
- ・ 実習指導 2023年4月～2023年7月:精神看護学実習(あさくら看護学校)
- ・ 2023年9月～2023年10月:精神看護学実習(精華女子高等学校)

6. 振り返りと今後の展望

入院患者の中で、主に統合失調症とうつ病が最も見られ、その割合は60%に達しています。地域の特性から高齢化が進み、それに伴い認知症患者様も増加しています。精神疾患患者と認知症患者が同じ環境で生活するように調整し、より質の高い治療環境を提供するために、多職種で協力してチーム医療を強化しています。

2年前の精神科病棟における感染管理の問題から学び、標準的な予防策を厳格に実施しています。月1回の病棟懇談会では、看護管理者が感染症に関する説明を患者様に対して行い、手

洗い方法などを教育し、感染アウトブレイクをゼロに抑えました。今後も「持ち込まない、広げない文化」を確立するため、標準予防策の基本から徹底的に対応していきます。

光安医師(常勤精神科医師<精神科指定医>)の着任以来、非常勤精神科医師との連携により積極的な入院受け入れが実現し、昨年の病床利用率は 81%から 89%に向上しました。今後は他の職種との連携を一段と強化し、入院患者様の 90%以上を目指して、質の高い精神科病棟を築いていく計画です。

将来的には高齢者の入院が増加し、認知症の BPSD や器質性・症状性精神障害と身体疾患を併存する患者様が増える見通しです。2024 年では、非常勤医師の勤務体制が一部縮小される予定であり、医師の補充が必要な状況となっています。精神科チームは協力し、取り組んでいきます。

(文責:大熊 俊洋)

1.業務内容・活動内容

- ・ 緩和ケア病棟 13 床全室個室、特室1床のみ
- ・ 看護師14名 ケアワーカー1名 緩和ケア病棟入院の施設基準 1
- ・ がん患者様が専門的な緩和ケアを受けられるよう症状緩和を主体とした穏やかな入院生活を提供しています。また、そのご家族のケアも行っています。
 - ①がんによる身体的、精神的症状のコントロール
 - ②毎月のレクリエーション
 - ③ご家族のケア
 - ④希望に応じた療養先の支援
 - ⑤レスパイト入院(ご家族が介護できない時の臨時の入院)
 - ⑥ 遺族ケア

2.2023 年の目標

- ・ 患者様、ご家族に寄り添い緩和ケアの質の向上に努めます。
- ・ 多職種でチーム一丸となり、生活の質の向上に努めます。
- ・ 適切な病棟運営に努めます。
- ・ 緩和ケア病棟における人材育成に努めます。

3.実績

患者様やご家族に病気の事、その他心配な事などを日々伺い、カンファレンスや多職種カンファレンスでどのように寄り添いケアを行っていくか検討し、実践に活かしています。在宅や外出、外泊のご希望の際は、多職種でカンファレンスを行い、ご自宅で安楽に過ごせるよう準備を整えます。

痛みに対しては、毎日疼痛の評価を実施したり、疼痛のコントロールを行って保清に努め、マッサージや散歩などで気分転換を図りながら、毎月季節を感じていただけるようにレクリエーションを実施しています。

ご家族への日々のケアも行っておりますが、患者様がお亡くなりになった後のケアとして、年1回ご遺族会を開催し、ご家族と共に患者様を忍ばせていただきながら、ご家族の心のケアをさせていただきます。

緩和ケア病棟では、教育委員、緩和ケア認定看護師の協力のもと、病棟勉強会を実施し病棟スタッフの看護の質向上に努めています。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 日本緩和医療学会 学術大会参加 6 月 30 日、7 月 1 日
- ・ 日本死の臨床研究学会ポスター発表 11 月 25 日
- ・ エンド・オブ・ライフケアセミナー研修参加。

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

「該当なし」

6.実習指導

「該当なし」

7.振り返りと今後の展望

患者様、ご家族のお気持ちを傾聴し寄り添ったケアを心がけていますが、難しいこともあ

り、スタッフ一人一人のスキルアップと情報の共有がさらに必要であり、それを踏まえた勉強会にも取り組んでいきます。

北 4 階病棟では、患者様が少しでも穏やかに過ごしていただいているように、緩和ケアの質の向上に取り組んでいます。患者様、ご家族へアンケートを取っていますので次は、これを評価しどのようにより良いケアに繋げていくかが課題です。

毎月のレクレーションでは、感染リクスなどもあり思う様にボランティアを受け入れることが出来ませんでしたが今後は、もっとボランティアをお願いし楽しい時間を過ごしていただけるよう取り組んでいきます。

(文責:畑 晶子)

看護部 透析センター

1.業務内容・活動内容

- ・血液透析療法 81 名(血液透析濾過 29.6%)
- ・体重管理指導、服薬管理指導、食事管理指導、シャント管理は定期的にシャントエコー実施と異常時は緊急に PTA 実施。他院からのシャント PTA に対応(主に臨床工学技士)
- ・足病変に対するフットケアに努め「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」の算定。外来維持透析患者へ年に一回の身体定期検査(腹部エコー・上部内視鏡・心臓エコー・頸動脈エコー・ABI・骨塩定量 etc)を実施
- ・他院からの緊急透析や入院透析などの受け入れ
- ・今年度より「透析中運動指導等加算」の算定開始。外来透析患者 66 名に対し延べ 30 名に透析中運動指導を実施しています

2.2023 年の目標

- ・安心・安全な透析医療を目指し質の良い看護・技術を提供する。
 - ①災害・停電時の訓練を計画的に実施して、緊急時に行動できるようになる
 - ②患者様の足を守る。足病変の早期発見に努める
 - ③良い看護を提供する為に、仕事と生活の調和を図る
 - ④ 地域の方々に信頼を得る為に、専門職として常に自己啓発を図る

3.実績

1 年間の平均透析患者数:81 名

透析センター内にて各 1 名ずつの主催による勉強会を実施(合計 7 回)

透析安全管理委員会を 1 回/月を実施(必要時は適宜に開催)

患者様に安心して安全な透析療法を提供する為、『最新医療機器・透析機器の導入』『透析液の安全管理』『医療安全対策』『院内感染対策』『災害対策』など様々な取り組みを行うことにより日常生活における『生活の質』の改善と向上、維持に努めた。

『医療安全対策』として認知症患者の透析中における抜針事故防止への取り組みをおこなった。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

地域包括ケア病棟研究会・学会 2023/7/8~9 開催

「リハビリ分野において透析中運動指導等に関する効果について」発表

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

該当者なし

6.実習指導

該当者なし

7. 振り返りと今後の展望

看護師と臨床工学技士が協力し合い患者様の状態把握に努めています。体重管理及び食事指導やフットケアや定期検査の予定管理、合併症予防や早期発見など多岐にわたり業務を熟しております。シャント管理にも注力し、脱血不良や静脈圧が高値状態の場合は医師との相談の上、PTA を実施しています。また、引き続きインフルエンザや COVID-19 感染拡大防止や感染発生時には対応出来る体制の構築をスタッフ一丸となって努めていきます。今後も「下肢末梢動脈疾患指導管理加算」、「透析中運動指導等加算」の算定に努めつつ、看護スタッフと ME スタッフとの協力体制のさらなる強化により部署目標に近づけて行くよう目指します。

(文責:上原 辰則)

看護部 中 2 階病棟

1.業務内容・活動内容

- ・ 一般急性期病棟
- ・ 主に整形外科・消化器外科・内科・一般内科の患者さんが入院され、急性期看護を担っている病棟
- ・ 看護実習生の教育指導を行い未来の看護師の養成をしています

2.2023 年の目標

- ・ セル看護の導入

3.実績

セル看護は、導入前にコアメンバーを立ち上げ勉強会を行いました。そして、7月27日から開始しました。

水害の影響を受け業務が煩雑となったこと、また、看護師が退職したため継続困難となり 10月30日中止となりました。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・第40回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会 参加 谷口るみ
- ・令和5年度福岡県総合防災訓練 参加 国武朱美
- ・第33回九州ストーマリハビリテーション講習会 参加 谷口るみ
- ・特定行為研修 谷口るみ
- ・『重症度、医療・看護必要度』院内指導者研修 堀 鈴寧 平田直子
- ・介護福祉士実務者研修 王 彪 何 岳松

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

「該当なし」

6.実習指導

精華女子高等学校 看護臨地実習 統合・成人看護実習

7.振り返りと今後の展望

消化器内科の常勤医が退職されたため、大腸ポリープ切除術の患者さんの受け入れが減少する可能性がありましたが、外科の常勤医と消化器内科の非常勤医の協力で減少幅が最小限で済みました。

7月10日の水害により北1階病棟が浸水しました。その為、内科系患者さんの入院を多く受け入れました。病棟の役割が変化したためスタッフに戸惑いがありましたが、事故が起きないように声を掛け合い、一人ひとりの気づきを大切に支え合いました。

しかし、水害の影響で疲労感を感じたスタッフが多く8月～12月までに6人の看護師の離職となりました。更に、2月までに看護師3人が離職予定であり、離職しない環境作りが今後の課題となります。

(文責:江藤由美)

1.業務内容・活動内容

- ・ 障害者病棟での一般看護・介護

2.2023年の目標

- ・ 患者様の権利を尊重し、思いやりの心を持って愛護ある看護・介護を提供します
- ・ 感染防止と事故防止に取り組み、安全で安心できる看護・介護を提供します
- ・ 専門職として能力向上に努め、看護の役割と責任を果たします

3.実績

専門職として、常に患者様の立場にたち、看護・介護を提供できるよう努力を行ってきました。勉強会の開催などを行い、自己のスキルアップを目指し、よりよい看護・介護が提供できるようスキルアップにも努めました。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ なし

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 特定行為研修修了看護師:庄山 徹

6.実習指導

- ・ 2023年5月～2023年5月 精華女子高等学校看護専攻科 老年看護臨地実習

7.振り返りと今後の展望

障害者病棟であり、自ら動くことや訴える事が出来ない患者様が約9割占めており、日々の看護の中で、表情や顔色の変化に気付き早期より介入する事で重症化する事を予防する事が出来ています。

今後はフィジカルアセスメント力を更にスキルアップする事で、今後の看護に更に役立てたいと思います。

また、特定行為研修修了看護師がいることで、少しでもタスクシフトできたらと考えます。

(文責:井手 由理恵)

1.業務内容・活動内容

地域包括ケア病棟の役割は①急性期治療を経過した患者様の受け入れ(自院・他院ともに)②在宅で療養を行っている患者様等の緊急又は予約入院の受け入れなど、いわゆるサブアキュート③在宅復帰支援です。患者様の生活視点を捉え、病院と在宅を一体とした切れ目ない地域医療介護福祉を提供できるように、医療・看護・介護・栄養・リハビリのマネジメントをリハビリ・MSW・DST・入退院支援看護師と連携しています。

2.2023年の目標

- ・ ①電子カルテが変更後にトラブルが起きない
- ・ ②新入職者が離職しない

3.実績

研修を受けたスタッフに伝達研修をしてもらいました。電子カルテの操作マニュアルを作成することでわからないことで時間外となることもなくスムーズに移行する事が出来ました。また、新入職員3名は健康状態に問題もなく勤務することが出来ました。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・第20回日本褥瘡学会九州沖縄地方会 学術集会 参加 江藤由美
WEB研修 スタッフ全員
- ・第9回地域包括ケア病棟研究会 発表 江藤由美
- ・看護実習指導者講習 熊谷あゆみ
- ・認知症の理解とケア WEB研修 伊藤知子
- ・本人の意向を尊重した意思決定のための相談員研修 高橋由紀子

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6.実習指導

- 2023年9月26日～10月12日 精華女子高等学校 統合実習
- 2023年10月17日～11月1日 精華女子高等学校 統合実習
- 2023年9月21日～22日 麻生看護大学校看護科通信課程 基礎看護実習
- 11月7日～8日 麻生看護大学校看護科通信課程 成人看護実習
- 12月5日～6日 麻生看護大学校看護科通信課程 老年看護実習

7.振り返りと今後の展望

昨年は COVID-19 感染が蔓延したため、今年度は感染対策を強化しました。流行期には談話室を閉鎖し患者さんへの感染拡大を防ぎました。また、手洗いが出来ない患者さんへは飲食時にスタッフが擦式消毒薬にて手指消毒を行いました。その結果、感染蔓延なく経過しました。

前年度は12月に COVID-19 のクラスターにより2週間以上の病棟閉鎖となり自院の一般病棟から転棟した患者さんの割合が81.5%となった為、今年1月2月で転入割合を30%台まで落とし3カ月の平均をクリアできました。

今後も新興感染症が起こる可能性を考え、転棟割合を基準ギリギリよりも余裕をもってベッドコントロールを行う必要があると思われます。

4月に電子カルテがCSIのMIRAIからSSIのNEWTON2へ変更となりました。

3月に研修を受けたスタッフに伝達研修をしていただき、スムーズに移行する事が出来まし

た。

7/10 九州北部豪雨にて病院が浸水し機能停止に至りました。当病棟への被害はなかったものの、緊急時の報連相が脆弱でした。災害時の体制の構築が今後の課題です。

(文責:江藤由美)

看護部 南3階療養病棟

1.業務内容・活動内容

- ・医師・リハビリ(セラピスト)・MSW と連携を図り、ADL 向上や生活環境を整え在宅復帰を目指す。
- ・在宅ケアが困難な場合は施設やデイサービス等の利用を早期に調整行い、地域と密着した看護ケアに取り組む。

2.2023 年の目標

- ・病棟勉強会を年 6 回以上開催し全員受講できる。
- ・病床利用率 95%以上を維持
- ・療養医療区分・ADL 区分 80%以上を維持

3.実績

2023 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均
病床利用率	85.2	95.4	97	98	99	98.4	67	83.5	97.6	99.1	97.5	98.2	93

2023 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	平均
療養医療区分 ADL 区分	96	95	97	93	90	89	94	100	94	94	97	97	94.6

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

「該当なし」

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

「該当なし」

6.実習指導

「該当なし」

7.振り返りと今後の展望

急性期での治療が終了し症状緩和後も在宅復帰ができない方、他病棟で期限内に退院できない方の継続療養を行っています。入棟判定会議以外でも他病棟の師長や退院支援看護師と連携し日々転入調整することで、病棟利用率平均 93%と目標は達成できました。

病院内の部署間受け入れをスムーズに行うため、平均在院日数 4 か月以内を目指し退院支援を行なっていますが、平均在院日数 226 日と難航しています。在院日数の延長の原因として、使用している薬価が高い、他疾患を持ち専門医師の受診や処方が必要など考えられます。なかでも、難治性の創処置・重度褥瘡・維持透析が必要な方は入院期間が長くなり、療養病棟の在院日数を伸ばした原因でありました。

年 6 回の病棟勉強会を実施することを目標に取り組み、他職種の協力を得ながら 8 回開催し、全員参加することができました。来年度もスタッフのレベル向上を目的に継続していけるように計画、スタッフ全員で協力しより良い看護が提供できるよう取り組んでいきます。

(文責:村田 修一)

1.業務内容・活動内容

回復期リハビリテーション病棟定数数:47床

看護基準:13対1看護(変則チームナーシング+一部機能別看護)

- ・環境整備(5Sの徹底)と事故防止、感染防止の強化
- ・業務の効率化
- ・適切なコスト管理
- ・身体拘束解除への取り組み
- ・省エネ対策
- ・適切な病床管理

2.2023年の目標

- ・患者様が1日でも早く疾病・障害により発生した問題を解決し、その方らしい生活を送ることができるように支援します
- ・各部署と連携を図り、患者様・ご家族様が安心して退院できるように環境調整に努めます
- ・患者様の日常生活動作の向上を目指し、明るく・暖かい心のこもったケアを提供します

3.実績

毎日の環境整備をスタッフが協力しながら実施し、生活環境を整えることで転倒などの事故防止に努めています。院内感染防止目的でも積極的に実施しました。

環境整備の不備で転倒に至ったケースは有りませんでした。COVID-19感染が病棟内で数名発生しました。

業務の効率化では、リアルタイム記録を心掛けて業務を遂行するようにしていたが、不慣れな点があることから、まだまだ効率よく業務ができていません。

週1回土曜日に業務カンファレンス、月曜日から土曜日まではADLカンファレンス 毎週水曜日には離床センサー等の評価、火曜・木曜日はリハビリカンファレンスを多職種で開催し、連携強化を行いながら業務の効率化を図っています。

コスト管理では、まだまだスタッフのコスト削減意識が統一できていないため、一部のストックが多いなどの管理不足が生じていました。

身体拘束解除への取り組みとしては、毎週水曜日にチーム毎にセンサー、3点柵等の評価を行い、記録とともに解除の検討を行っています。

省エネ対策としては、節電を各個人が実践できるように、日頃から必要ない場所の電気や換気扇等を切るように声かけを行っていった結果、以前よりも節電を心掛けてきています。

適切な病床管理として、リハビリ医師、セラピスト、MSW、管理栄養士、看護師による多職種において、週2回リハビリカンファレンスを行い、退院時の目標や目処を設定している。カンファレンス内容を家族や本人に説明し、退院時のイメージを持っていただくことで、スムーズな退院調整を行うことができるように努めています。

実績指数:基準 40 以上

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実績指数	31.22	48.38	45.49	52.76	38.79	58.15	26.37	36.60	39.85	48.52	48.35	52.08
病床利用率	88.7%	83.5%	96.1%	95.7%	93.6%	99.1%	83.7%	81.0%	99.0%	99.3%	100.1%	99.3%

在宅復帰率:基準 70%以上 入棟患者の重症患者率:基準 40%以上
退院時の重症患者の改善率:基準 3割以上が FIM16 点以上改善

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
在宅復帰率	90.0%	90.0%	80.0%	72.7%	100.0%	86.7%	95.0%	87.5%	83.3%
重症患者率	61.5%	63.3%	38.5%	50.0%	56.7%	68.4%	52.4%	46.7%	52.2%
重症患者改善率	71.4%	76.5%	66.7%	63.6%	71.4%	40.0%	80.0%	75.0%	77.8%

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 8月28日～29日 認知症看護実践力向上研修 IV: 平河 浩美、倉富 綾子

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

2023年5月・6月:精華女子高等学校看護専攻科

7. 振り返りと今後の展望

病床利用率について、常に100%を目指すべきであったが、できませんでした。回復期病棟に転入となる患者様は殆どが80～90歳代でお元気ですが、独居の方が多くなっています。その為、また元の生活に戻っていただく為に、リハビリは欠かせず重要なものです。施設ではなく自宅に退院できるように多職種で関わっていくことは非常に大切と思います。

今後も患者のよりよい退院支援につなげられるように、多職種との連携を図り患者が安心して快適な日常生活が送れるよう支援していきたいです。

(文責:国武 朱美)

1.業務内容・活動内容

	2023年/月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	前年比
心臓	CAG	0	2	7	4	6	5	0	0	0	0	0	3	27	-33
	PCI	1	4	2	3	8	4	1	0	0	0	0	6	29	-20
	その他	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	4	-3
脳血管		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
シャントPTA		11	12	21	8	18	16	3	4	6	7	10	18	134	-17
下肢PTA		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	-1
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		12	18	33	16	33	25	4	4	6	7	10	28	196	-74
総数		12	30	63	79	112	137	141	145	151	158	168	196		

- ・ 心臓疾患の検査.治療(冠動脈造影.経皮的冠動脈インターベンション.体外式ペースメイキング.カテーテル心筋焼灼術など)
- ・ 人工透析シャントの治療(シャントPTA)
- ・ 脳疾患の検査.治療(脳動脈造影.脳動脈血栓回収術など)
- ・ その他(下肢PTAなど)

2.2023年の目標

- ・ 症例数の増加
- ・ 緊急検査への迅速な対応

3.実績

2023年1月から12月の症例数

■水害により2023年7月10日から12月10日の期間は血管造影装置が稼働停止となる。
機器を更新し、2024年12月11日より血管造影装置が稼働となる。

(8月12日から12月10日の期間は手術室にて外科用イメージを使用してシャントPTAのみ施行する)

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 5/13.14 小倉 LIVE2023 参加(放射線科|薩本)
- ・ 6/26 Deep Dive into DCB オンライン研修参加(放射線科|井出)
- ・ 11/29 DET CLUB in SAGA オンライン研修参加(放射線科|石橋)

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6.実習指導

該当なし

7.振り返りと今後の展望

2023年は7月10日の水害により、約5ヵ月間、血管造影室が使用できない時期がありました。その後、血管造影装置が更新(Alphenix sky+/キャノンメディカル社製)され、12月11日より稼働しています。

循環器内科の勤務医が、4月より加藤宏司医師(循環器内科部長・血管造影センター長) 11月より上野高史医師(理事長補佐)が着任され、より充実した診療体制が整いました。

今後、特に循環器内科領域において、症例数の増加や新しい機器使用に向けて取り組んでまいります。

(文責:石橋 英紀)

1.業務内容・活動内容

- ・ 急性期から回復期までの病気のお子さまの保育・看護
- ・ 病児保育への理解と周知の為のお便り作成、配布(毎月1回)、ホームページ更新
- ・ 保護者の方への子育てに関する不安や悩みを傾聴し、また症状にあわせた看護の方法を伝える。
- ・ 季節に合わせた壁画作成
- ・ 年齢や症状に合わせた遊びの実施(歌、ボール、ごっこ遊び、粘土、制作など)
- ・ 病児保育予約や問い合わせの対応、部屋割り、人員配置

2.2023年の目標

- ・ お子さまが安心して体を休めることができ、楽しく過ごすことができるよう努める。
- ・ 保護者の方の気持ちに寄り添い安心してお子さまを預けられる環境を整える。

3.実績

利用者数 192人(1月～12月)

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

該当なし

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6.実習指導

該当なし

7.振り返りと今後の展望

4月から始まった病児保育無償化に伴い、ご利用者が急増し、スタッフ不足と部屋割り困難なことからお断りすることが増えました。以前からのリピーターのお子さまが利用できない程、初めて利用されたい方々の予約問い合わせで業務はひっ迫、さらにスタッフ不足もあり、予約の半分弱しか病児を受け入れることができませんでした。

新型コロナ感染症が5類になり通常の生活に戻りつつある中、様々な感染症が蔓延し、それに伴い病児保育の利用者も増えました。

今後も子育て支援の一環として病児保育は重要な事業であります。専任の病児保育士が常駐したことで、今後は室内環境を整え、地域の子育て世帯が安心して、安全にお預かりできるよう改善していきたいです。

(文責:樋口 里美)

看護部 総合外来

1.業務内容・活動内容

- ・コロナ禍明けての感染症患者の管理
- ・救急室、点滴室での個別的看護を実践するために看護技術向上と記録の充実と教育
- ・糖尿病患者への指導を行い患者の健康増進に努める
(糖尿病チームによるフットチェックと個別指導実施)
- ・外来看護業務マニュアルの改訂、新規作成の継続実施
- ・医療安全の推進(インシデント報告)
- ・接遇の向上(挨拶、笑顔と患者への声かけ)
- ・外来化学療法の看護実践
- ・病床満床時、点滴室での経過観察と看護実践
- ・救急救命士の業務拡大(救急対応、患者搬送、問診、患者対応など)

2.2023年の目標

- ・ 総合外来での感染症によるクラスターを起こすことなく診療継続
- ・ 救急搬入数 1800人/年

3.実績

今年度は5月より新型コロナ感染症が5類へと変更され、患者様対応の変化が必要な年となりました。5類となったことで院内での診療を開始しましたが、感染力の変化があるわけではないため感染予防策を行いながらの対応を行い院内感染防止に努めました。

当院ではAI問診(Ubie)にアクセスして問診に答えて頂き受診して頂いています。事前にAI問診を行い不足した情報を問診することで待ち時間短縮とスタッフの業務効率化は継続できていると考えます。

また、外来職員の感染は近親者感染後の発症のみであったことから、事前にAI問診を行うことが患者との接触時間を最小限にでき、職員の新型コロナウイルスやインフルエンザウイルス等の感染リスクの低減にもつながったと考えます。

2023年1月～12月 救急搬入患者数 単位(名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
人数	163	106	156	131	140	123	144	226	146	171	137	138	1781

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 福岡救急医学会参加(2023.09.16)

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ AMAT 隊員養成研修 : 香月 大歩
- ・ JPTEC プロバイダー : 鳥巢 はるか
- ・ JNTEC プロバイダー : 辻村 睦子

6.実習指導

- ・ 2023.12 : 救急救命士再教育病院実習 2名受け入れ(各2週間)
- ・ 2023.1～12 : 久留米大学医学部学生受け入れ

7.振り返りと今後の展望

この1年、院内での新型コロナウイルス感染症クラスターにより入院制限がかかったことで病床の逼迫した時期と7月の水害時に救急受け入れ困難となりました。しかし、可能な限りの受け入れを継続することで、昨年同等の救急搬入数となりました。

コロナ禍からは脱したものの、対応時の感染症予防と発熱患者の対応は継続しており、適正な対応に努め、今後も地域のために、断らない医療、患者の立場にたった思いやりのある看護を提供していきたいと考えます。

(文責:平山 顕行)

看護部 内視鏡センター

1.業務内容・活動内容

- ・ 上部内視鏡(健診、検査及び診断)、内視鏡治療、胃瘻増設術
- ・ 下部内視鏡(健診、検査及び診断)、ポリペクトミー(日帰り、1泊入院)
- ・ 上部、下部内視鏡的止血治療、他
消化器内視鏡検査(上部):月～土曜日 (下部):月～金曜日
内視鏡治療:月～金曜日

2.2023年の目標

- ・ 上部内視鏡検査 2,100 件/年、下部内視鏡 400 件/年
- ・ 内視鏡センター内での感染症クラスターが起きない

3.実績

2023年上部・下部内視鏡

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
上部	166	197	207	91	140	196	95	160	163	192	190	206
下部	25	34	29	30	24	32	21	30	25	44	33	32

内視鏡センターでの感染症クラスターなく診療継続できた。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 該当なし

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6.実習指導

- ・ 該当なし

7.振り返りと今後の展望

常勤医師退職後、非常勤医師の内視鏡検査のみで対応している状況ですが、外科医師が入院主治医として協力して頂くことで治療後の入院加療が可能となり、消化器内科での入院獲得もできている。

また、日帰りのポリペクトミーも非常勤医師により維持できています。今年は昨年より150例ほど少なかったが、水害の影響で7月の症例が120例ほど減少していたことが原因です。7月以外は常勤医師不在の状況の中、上下部内視鏡の検査数も維持できました。

感染管理に関しては、5月まで新型コロナ禍の中での処置・治療であり、全員が感染防止に努めながら業務し、内視鏡センターで感染症を発生することなく経過できたと考えます。常勤医師勤務の予定がない中でも検査数・治療数を増加できるよう、スタッフ全員のスキルアップに努めるとともに内視鏡業務のタスクシフトを行いたいと考えます。

(文責:平山 顕行)

病院事務部

秘書課

1. 業務内容・活動内容
 - ・ 役員・医師のスケジュール調整
 - ・ 役員・医師の事務処理代行
 - ・ 常勤医師・非常勤医師の給与データ作成
 - ・ 診療に関わる諸連絡
 - ・ 医局・MR 対応
 - ・ 研修医・実習生カリキュラム作成、受入対応
 - ・ 各種指定の新規申請・更新申請の手続き
2. 2023 年の目標
後進の育成
3. 実績
前任者異動後、後任者の入職なし
4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
2023 年 7 月 8 日開催「地域包括ケア病棟研究大会」に事務局と連携して開催・運営準備から当日の司会進行まで関わりました。
5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格
該当なし
6. 実習指導
該当なし
7. 振り返りと今後の展望
コロナワクチン接種実施に当たり、準備、当日の当番など、業務負荷が大きかったです。後進の育成を目指していますが、人員の配置が遅れており、通常業務も滞りがちです。可能な限りデジタルツールを使用し、更なる業務改善を目指し、後進の育成に努めます。
(文責：手柴 佐千子)

医事課

1. 業務内容・活動内容

- ① 外来受付及び会計業務
- ① 入院受付及び会計業務
- ① 外来及び入院診療報酬請求業務
- ① 自賠責、労災、自費診療費請求業務
- ① 公費負担医療業務
- ① DPC関連業務(データ提出等)
- ① 査定減、返戻処理業務
- ① 医事統計業務
- ① 施設基準届出管理業務
- ① 未収金督促回収業務
- ① 医事システム業務
- ① 苦情相談業務
- ① フロア案内業務
- ① その他の医事関連業務

2. 2023年の目標

- ① 優秀な人材の確保と育成を行います
- ① 職務内容の見直しとタスクシフト、タスクシェアを推進します
- ① ICTや医療DXに対応します
- ① 経営分析の強化と経営へのフィードバックを行います
- ① 適切なコスト管理を行います
- ① 適正な診療報酬点数請求を行います

3. 実績

- ① 院内内業務運用や様式等の見直しを行いました。特に電子カルテ入れ替え時には、関係部門と共同しながら効率的な運用を心がけ円滑な移行に寄与出来ました。
- ① 再来受付機の導入、顔認証資格確認システム利用促進、キャッシュレス決済の推進など積極的なICTの活用を行いました。
- ① 関係部署と協議し大幅に入退院支援加算1の算定率を向上させる事出来ました。
30%台→60%台へ
- ① 電子カルテ入れ替え後、時間外が大幅に減少しました。査定減も平均以下での推移を維持しています。また、未収金も医療保証会社を採用し業務負担を大幅に軽減する事が出来ました。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

特出する活動はありません

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ① 該当なし

6. 実習指導

2023年11月～2023年11月:内容 福岡医療福祉専門学校 1名 外来・入院窓口業務とフロア業務の理解と体験を行っていただきました。

7. 振り返りと今後の展望

今年度は、電子カルテの入れ替え水害、コロナ対応の1年だったと思います。

電子カルテ入れ替えでは、各部署とのすり合わせを何回も行い新システムに替わってもスムーズに請求業務が行えるように準備することが出来ました。

水害では、職員が一体となり復旧に努めました。コロナ対応も同様に5類に移行するに当たり様々な変更点を確認し適切に対処する事ができました。

今後は、対外活動や資格取得に向けた取組を強化して行きたいと考えています。また、機能評価の更新、診療報酬改定、施設基準届出など重要な項目が続きますので、今まで以上に各部署との関わりを密に対応して行きたいと考えております。

(文責:宮竹 優)

医療情報部

1. 業務内容・活動内容

医療情報管理室

- ・ 情報管理業務
- ・ 院内の様々な医療情報の統合・分析

医療クラーク室

- ・ 外来診療陪席、病棟診療補助
- ・ 診断書作成補助

情報システム室

- ・ 中央病院及び介護事業所のシステム・ネットワークの管理、調整、不具合対応
- ・ 新規システムの導入支援
- ・ 業務改善の支援

2. 2023年の目標

- ・ 既存の成果を逸することなく、電子カルテの更新を円滑に行うこと
- ・ 新たな電子カルテ環境への早期の適応
- ・ 残業時間1割減

3. 実績

<医療情報管理室>

DPC 登録/様式1 登録数(単位:件)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
310	323	312	310	309	289	308	326	311	309	321	377	3805

がん登録届出数(単位:件)2022年起算(2023年12月届出分)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
11	5	7	7	20	15	5	11	8	8	5	10	112

2週間以内退院サマリー作成率(単位:%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
100	100	97.2	95.6	95.6	96.6	97.5	93.0	96.0	92.9	97.4	92.6	96.1

DPC 詳細不明・部位不明コード使用率(単位:%)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
4.41	4.03	4.32	3.51	4.08	6.59	3.66	4.09	3.70	3.87	6.06	4.43	4.43

<医療クラーク室>

各種診断書作成件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	総計
279	272	319	242	303	345	273	240	301	275	289	269	3407

<情報システム室>

◆電子カルテの更新対応

- ・電子カルテの導入対応
- ・電子カルテに合わせたネットワーク更新対応
- ・電子カルテに合わせた新規システム導入準備(部門システム/モバイル関連 ほか)

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 第 49 回 日本診療情報管理学会学術大会:3 演題発表

5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 医療情報技師:1 名

6. 実習指導

- ・ 2023 年 2 月～2023 年 3 月:診療情報管理(フチガミ医療福祉専門学校)
- ・ 2023 年 7 月～2023 年 8 月:診療情報管理(大原保育医療福祉専門学校)

7. 振り返りと今後の展望

・医療情報管理室

電子カルテ環境における業務のあり方を見直し、従来業務の整理を行いました。また、新たにデータ抽出業務を多く受けることとなり院内のデータ活用が推進出来ました。データ活用の一環として、業務を自動化するツールの構築など継続中です。

・医療クラーク室

電子カルテの更新後、業務の変更がありましたが、現在では安定稼働しています。既存の業務にも慣れてきたため、今後は業務改善を行っていきます。

・情報システム室

電子カルテ等システム更新への対応とネットワークの更新を行いました。7 月の水害では多くの機器が水没し、入れ替え対応を行いました。

当課残業時間は、電子カルテ更新時(3-4 月)に増加しましたが、その他の期間では前年比 3 割減少しました。

(文責:水谷駿介)

1.業務内容・活動内容

●地域医療連携室(前方支援)

- ・医療機関、介護事業所、行政との連携業務
- ・地域医療支援病院としての業績のまとめ
- ・入退院支援
- ・電話交換業務
- ・連携講演会の開催(渉外課と協働)

●医療相談室(後方支援)

- ・各種患者相談、制度紹介、患者サポート
- ・入退院支援
- ・代理行為

●連携クラーク室

- ・受付業務 :リハビリテーションセンター、放射線科、生理検査室、内視鏡室
- ・業務支援 :薬剤科、総合質管理部、医療クラーク室、地域医療支援課前方支援

2.2023年の目標

- ・ 紹介率 50%以上 逆紹介率 70%以上
- ・ 地域医療支援病院運営委員会の実施 4回
- ・ 地域医療支援病院連携講演会の実施 12回
- ・ 介護医療院開設準備
- ・ 残業前年比 10%減
- ・ 一人三役制度の継続

3.実績

●地域医療連携室

- ・紹介率 56.4% 逆紹介率 80.3%
- ・運営委員会、4回、講演会 12回実施

●医療相談室

- ・入院 + 外来 のべ相談件数 10,137件 (自宅訪問、代理行為含む)

●連携クラーク室

- ・各スタッフが、3部署以上の業務を遂行しており、支援体制が充実

<全体>

- ・残業 10%減:18名中 11名達成、うち5名は 0時間達成

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・医師会、行政、職能団体のワーキンググループへ参加 :羽野宏美、木村知子
- ・水害ボランティア:小西裕也
- ・障害支援区分認定審査会:羽野宏美
- ・精神医療審査会:羽野宏美
- ・要介護認定審査会:木村知子
- ・講師派遣:木村知子(高尾看護専門学校)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・両立支援コーディネーター:小林都世子
- ・社会福祉士実習指導者講習会:四ヶ所はるか
- ・看護管理者セカンドレベル:大崎真由美

6. 実習指導

- ・麻生医療福祉専門学校(精神保健福祉士)
- ・九州医療専門学校(精神保健福祉士)

7. 振り返りと今後の展望

紹介率・逆紹介率の目標達成は、地域医療支援病院として必須の項目であり、各部署一致団結して取り組んだ成果と思います。今後も引き続き逆紹介に注力し、関係部署にも働き掛けていきます。

残業については水害の影響もあり、全員は達成できていませんので、次年度に申し送りします。医療相談については、病欠者が出ましたが、スタッフ全員でカバーし、相談件数も1万件を超え多忙だったことがうかがえます。この件数は高い病床稼働率に寄与していると考えます。

今後も患者家族様、登録医の皆様、3次医療機関、介護事業所、法人内の各部署に喜んでいただける支援を実践していきます。

(文責:木村知子)

総合質管理部 (TQM部)

総合質管理部がん化学療法課

1. 業務内容・活動内容

- (1)安心・安全ながん薬物療法の実施の推進
- (2)がん薬物療法に関する情報収集と情報発信
- (3)職員の教育・研修計画と実施
- (4)職業性曝露対策指針の立案
- (5)会議体の運営及び事務局業務

化学療法運営委員会、レジメン承認委員会、化学療法作業部会

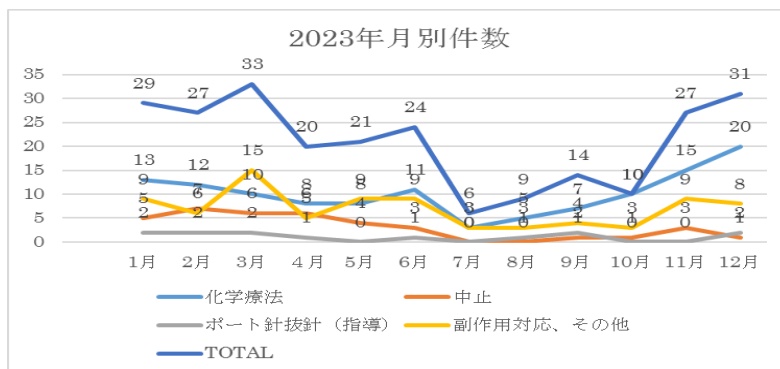
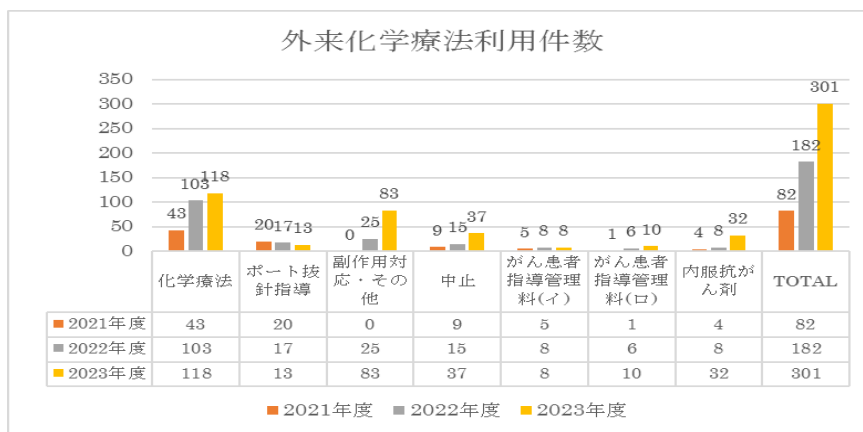
2023年の目標

- (1)安全な職場環境の提供及び体制の整備
がん薬物療法における職業性曝露対策の指針・手順の作成
- (2)安心、安全な医療の提供
新電子カルテ導入による抗がん剤プロトコールのセット化
- (3)専門的な看護の提供による患者の満足度向上
医師の説明時に同席し、がん患者の意思決定支援を行う

2. 実績

(1)外来化学療法室実績

・2023年1月～12月までの外来化学療法利用件数

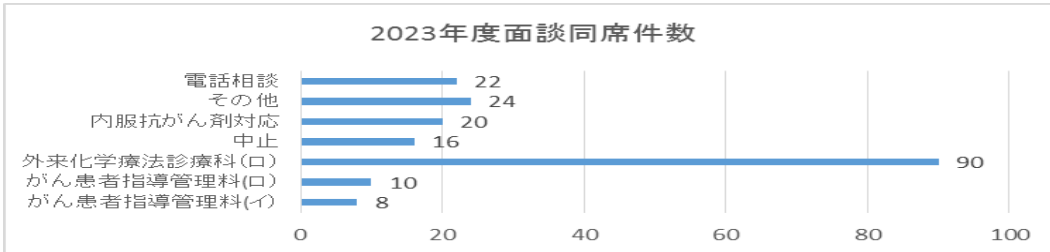


(2)職業曝露対策

- ・がん薬物療法による曝露対策の現状調査をし、院内の指針、対策の計画立案中
- ・CSTD(閉鎖式薬物移送システム)導入に向け準備中

(3)がん患者の意思決定支援

- ・面談介入件数 190 件（治療方針、治療変更、情緒的サポート、付加的情報の提供）



(4)スタッフ教育

- ・ 外来化学療法担当スタッフへの投与管理指導
- ・ 2023/3/9 看護部ラダー研修、2023/6/22 外来勉強会「職業曝露対策」講師

(5)委員会活動

がん化学療法運営委員会、レジメン承認委員会、化学療法 WG の開催

(6)その他

- ・ 新電子カルテ導入による抗がん剤プロトコール登録と運用
19 レジメン登録あり、各レジメン毎に採血項目、副作用入力システム、支持療法等をセット化し運用上の問題点に対し作業部会、WG を中心に対処しました

3. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 学会・研究会参加
2023/2/25 第 37 回がん看護学会 2023/3/16 ~18 第 20 回日本臨床腫瘍学会
2023/10/28 第 67 回筑後ブロック看護生涯教育研修会
- ・ 講師派遣
2023/11/21「福岡県在宅医療提供体制充実強化事業」講演会

4. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格

- ・がん化学療法看護認定看護師 更新(3 回目):佐藤 絵美

5. 実習指導

- ・ 該当なし

6. 振り返りと今後の展望

外来化学療法室の安全な運用を中心に、新電子カルテへの移行に向け抗がん剤プロトコールの整備と職業曝露対策についての活動を行いました。2022 年度の血液内科患者の継続治療の受け入れにより、外来化学療法件数増加傾向にあります。

来年度の診療報酬改定に伴い施設基準等の見直しを行っていきます。また、今年度は職業性曝露の CSTD(閉鎖式薬物移送システム)導入までは至りませんでしたので、次年度第一課題として進めて参ります。

がん患者の意思決定支援として引き続き活動し、量的評価とともに質的評価し、ニーズに合わせた医療を提供するよう努めます。

(文責:佐藤 絵美)

TQM 部認知症ケア課

1. 主な業務内容・活動内容

- ・ 認知症ケアに関するガイドラインの確認やマニュアルの見直し
- ・ 身体拘束廃止に関するガイドラインの確認やマニュアルの見直し
- ・ 病棟巡回にて認知症ケア状況を把握し、ケアの成功事例を共有
- ・ 院内認知症ケアに関わる職員向けの定期講習会の開催
- ・ リンクナース活動推進(情報提供、教育、ケアの質向上取組み等)

2. 2023 年の目標

- 1) 認知症高齢者の行動を理解し、ケアできる
- 2) 認知症高齢者の退院後に訪問指導を実施できる

3. 実績

1) 認知症ケアの教育と実践

① 高齢者看護及び認知症ケアの教育

- ・ 看護研修(看護ラダーレベル別)
- ・ 全体研修:せん妄研修 DVD 作成
- ・ 身体拘束率:27.25%

② 認知症ケア加算1およびせん妄ハイリスク加算算定

認知症ケア加算・せん妄ハイリスク加算実績

項目	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
認知症ケア加算1(14日以内)(160点)	47,040	53,280	60,800	44,960	39,360	43,840	36,480	67,840	49,280	35,840	37,440	42,080
件数	347	335	383	281	246	274	228	424	308	224	234	263
認知症ケア加算1(14日以内)身体拘束あり(96点)	11,520	6,624	5,856	3,840	6,816	9,312	5,184	7,584	2,592	6,528	3,264	7,680
件数	141	70	61	40	71	97	54	79	27	68	34	80
認知症ケア加算1(15日以上)(30点)	23,520	26,790	27,840	28,740	29,760	27,870	18,360	19,920	17,760	26,730	24,540	23,040
件数	983	897	934	949	992	929	612	664	582	891	818	768
認知症ケア加算1(15日以上)身体拘束あり(18点)	8,568	5,580	7,578	8,028	8,010	7,992	4,752	6,858	4,410	4,806	4,986	5,130
件数	587	310	421	446	445	444	264	381	245	267	277	285
身体拘束/認知症ケア加算(件数計) 割合	35.37%	23.57%	26.79%	28.32%	29.42%	31.02%	27.46%	29.72%	23.21%	23.10%	22.82%	26.15%
計 件数	2,058	1,612	1,799	1,716	1,754	1,744	1,158	1,548	1,172	1,450	1,363	1,396
計 算定(点×10) 円	906,480	922,740	1,020,740	855,680	839,460	890,140	647,760	1,022,020	740,420	739,040	702,300	779,300
計 実人数	105	99	96	81	88	98	92	93	91	71	76	85
新入院	145	208	198	183	195	186	170	267	189	190	199	226
退院	162	183	216	183	180	205	201	215	198	184	192	231
在院患者	420	466	416	438	452	454	415	482	459	449	463	499

項目	R5.1	R5.2	R5.3	R5.4	R5.5	R5.6	R5.7	R5.8	R5.9	R5.10	R5.11	R5.12
せん妄ハイリスク加算(100点) 円	7,900	13,100	12,500	9,900	10,900	10,300	8,700	15,800	11,800	10,700	12,300	13,800
実人数	105	154	141	97	104	101	88	158	118	104	118	136
件数	111	160	144	99	109	108	91	158	119	107	123	138
計算定(点×10)	79,000	131,000	125,000	99,000	109,000	103,000	87,000	158,000	118,000	107,000	123,000	138,000
N1 在院実患者	87	119	144	128	130	128	93	117	118	127	111	121
M2 在院実患者	125	107	121	104	119	108	109	157	133	106	105	119
合計 認知症ケア加算・せん妄加算実績 円	914,380	935,840	1,033,240	865,580	850,360	900,440	656,460	1,037,820	752,220	749,740	714,600	793,100

2) 認知症患者に対する退院後訪問指導の運用と実施

認知症退院後訪問実績

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
自宅等退院数	16	15	21	11	14	18	14	24	12	14	21	22
訪問者数	1	1	4	0	0	2	1	2	2	1	0	2
訪問回数	1	1	5	0	0	6	1	2	2	1	0	3

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

講師・授業派遣

- ・令和5年度福岡県看護職員認知症対応力向上研修(管理者対象)
- ・日本老年看護学会 生涯学習支援研修(基礎編)
- ・老年看護学会九州沖縄基礎研修
- ・久留米大学院老人看護専門看護師課程
- ・医療福祉専門学校緑生館看護専攻科2年 老年看護学
- ・あさくら看護学校2年 老年看護学

学会等・研究発表

- ・第9回地域包括ケア病棟研究大会発表
「認知症高齢者の退院後訪問指導が必要な患者要件の検証」

アウトリーチ・コンサルテーション

- ・公立八女総合病院 認知症サポートチームの視察
- ・介護老人保健施設サンライフ聖峰 2023年6月開始、2回/月
アウトリーチ(事例検討、入所時情報用紙作成等)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

老人看護専門看護師(2013年認定) 更新認定

6. 実習指導

「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

DST チームと病棟リンクナースチーム(DST)が連携し、全てのスタッフが認知症患者に適切な看護が実践できるように活動しています。研修や DST ラウンドを通して、病棟スタッフとのカンファレンスの機会をつくり、BPSD とせん妄の違いの理解を深めたりケア方法を検討しました。また、退院後訪問指導では、運用や記録の遵守に努めました。その方の入院前の生活や現在、今後の生き方について連続して考えられる看護師を増やしていきたいです。

(文責:福嶺 初美)

総合質管理部スキンケア課

1. 業務内容・活動内容

- ・ スキンケア及び褥瘡対策の推進
- ・ 院内のスキンケア及び褥瘡対策に関する情報収集と情報発信
- ・ 職員の教育・研修計画と実施
- ・ 在宅医療、介護連携
- ・ 会議体の運営及び事務局業務

2. 2023年の目標

- ・ WOCに関連する教育ツールを作成しスキンケアに関心をもつスタッフを増やす。
- ・ 褥瘡発生者数、発生率、スキンケア発生率を低下させる。

3. 実績

●総介入件数(創傷、ストーマ、失禁、フットケア) 1183件

*褥瘡回診、形成外科診療は除く

	失禁	フットケア	ストーマ	創傷	計
病棟	37	24	51	509	621
外来	1	205	152	204	562
計	38	229	203	713	1183

- 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 3件
- 退院前・退院後訪問 9件
- 専門性の高い看護師による同行訪問 34件
- 在宅療養指導管理料 64件

●褥瘡に関する内容

- 新規褥瘡発生者数 31名(2021年89名、2022年55名)
- 新規褥瘡発生率 0.05%(2021年0.06%、0.05%)

●その他

- 教育ツールの作成:動画3本、褥瘡対策用具に関するリーフレット等

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 2023年2月15日 特定行為研修の運営におけるベストプラクティスの共有
- ・ 2023年2月24日～2月25日 日本ストーマ排泄リハビリテーション学会 参加
- ・ 2023年5月2日 新人看護師集合研修 講師(院内・皮膚・排泄ケア分野)
- ・ 2023年5月20日 日本褥瘡学会九州・沖縄地方会 参加
- ・ 2023年12月15日 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 第18回ブラッシュアップセミナー

受講

- ・ 2023年9月1日～9月2日 日本褥瘡学会学術集会 参加
- ・ 2023年10月28日 第67回筑後ブロック看護生涯教育研修会受講
- ・ 2023年11月17日 第33回九州ストーマリハビリテーション講習会 講師
- ・ 2023年11月29日 認定看護師を対象としたキャリアアップ研修 受講
- ・ 2023年12月3日 公益社団法人 日本オストミー協会 福岡県支部 社会適応訓練事業 講師
- ・ 2023年6月～12月 ラダー研修講師(皮膚・排泄ケア分野)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

なし

6. 実習指導

- ・ 2023年6月～2024年3月:特定行為研修指導

7. 振り返りと今後の展望

2023年度は、総合質管理部としてスタートした1年でしたが、電子カルテの変更対応や水害のため、目標に沿った活動が計画的に実施しづらい状況でした。

しかし、そのような状況の中でも教育ツールの作成や認定看護師の役割である実践・指導・相談を行いスタッフ育成に努めました。

特に褥瘡ケアはポジショニング指導に力を入れ、病棟看護師、ケアワーカーと理学療法士、作業療法士、言語療法士へ実技試験を行いました。その結果、知識の習得や自己の振り返りにつながり、褥瘡発生率を低下させる誘因の一つとなりました。

次年度は、マニュアルの見直しや教育ツールの作成を継続し、作成したツールを活用しながら実践、指導を行うことで、より具体的で実践的な教育を行うように努力したいと思います。

文責:横山 絵麻

1. 業務内容・活動内容

- ・出来事報告書(医療事故・ヒヤリハット)の整理と分析、情報発信
- ・部署での出来事分析、対策立案カンファレンスのサポート
- ・医療安全に関するマニュアルの見直し、改訂
- ・医療安全に関する研修の企画、運営
- ・院内医療安全管理体制確認を目的として巡回、点検等

2. 2023年の目標

- ・委員会を活用した安全活動の再構築
- ・レベル0報告の活用(レベル0報告書の増加を目指し、分析・対策立案に繋ぐ)
- ・院内の説明書、同意書の統一
- ・活動内容の評価と安全管理者のスキルアップ(学会発表)

3. 実績

- ・出来事報告の確認と状況確認、分析と対策検討
- ・セーフティマネージャー会の見直し、部署で発生した出来事分析と報告のサポート、業務改善計画書作成及び実施状況評価ラウンド
- ・5S活動の推進を目的とした「5S推進会」の立ち上げを行い、活動報告のサポートと5S実施状況評価ラウンド
- ・レベル0報告から改善に繋がった数が多い部署、5S活動が進んだ優良部署の表彰
- ・身体拘束同意書の見直し
- ・学会発表を目的としたデータ収集と分析
- ・医療安全地域連携相互ラウンド実施 加算1連携(23.3月)加算2連携(23.2月)
- ・医療安全研修 2回/年(6月・11月実施)テーマ:患者誤認防止(参加率:100%)
 - ・職種別:新人全体研修(4月)
 - ・看護部新人研修(4月・6月)・ラダー研修(clover1.2:9月)・全体(12月)
 - ・医局勉強会(6月)
- ・マニュアル、医療材料に関する見直し
 - ・超音波、赤外線センサーマニュアル(23.2)
 - ・出来事報告書入力マニュアル(24.3)
 - ・末梢静脈ラインロック(24.6)
 - ・禁忌登録(アレルギー情報)入力手順(23.6)
 - ・末梢静脈確保フロー作成(23.9)
 - ・リストバンド未装着者マニュアル(23.10)
 - ・輸液ライン変更(23.12)

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 医療安全管理体制相互評価者養成講習会【運用編】2023年8月5日・6日
- ・ 意思決定支援における倫理 2023年10月28日
- ・ リスクに気づき転倒・転落を予防する(2023)2023年11月9日
- ・ 医療事故調査制度 2023年11月11日
- ・ 九州厚生局 医療安全ワークショップ 2023年11月29日

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 「該当なし」

6. 実習指導

- ・ 「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

23.4月より、安全管理体制の見直しを行い、各部署より報告された出来事(医療事故・インシデント)の分析・ディスカッション方法も見直しました。部署毎で検討した対策と、セーフティマネージャー会にて意見が挙がった対策を加味して分析状況や対策内容を再検討することが出来、委員会を活用した安全活動の再構築に繋がったと考えます。各部署のセーフティマネージャーとも事例分析や対策検討の為に密に関わることが出来ましたので、今後も継続する為に報告書の提出を促していこうと思います。

院内説明書、同意書の統一に関して、分析と新たな対策検討に時間を要し、取り掛かりが遅く見直しを開始したのみとなりました。また、スキンテア予防の一環として、病衣の変更後の発生数の推移を確認し学会発表を考えておりましたが、報告システム変更後の現状把握が十分ではなく、来年へ持ち越して学会発表を考えております。

(文責:今村 里美)

1. 業務内容・活動内容

・感染症発生の報告、感染対策に関するコンサルテーション、アウトブレイク対応、薬剤耐性菌検出把握、針刺し・切創、粘膜曝露事故発生状況の把握、データ分析、再発予防検討、リンクスタッフ活動支援、ICT活動、院内感染対策委員会の運営、感染症対策、院内感染防止に関する教育、抗菌薬適正使用回診(抗菌薬適正使用支援チーム:AST)

2. 2023年の目標

①CRBSI(中心静脈カテーテル関連血流感染)、PLABSI(末梢静脈カテーテル関連血流感染)の発生率が低減する

②血液培養採取手技の向上

③介護施設での感染対策スキル向上 手指消毒剤の使用回数が増加

④学会発表

3. 実績

① CRBSI、PLABSI の発生率が低減する

・CRBSI サーベイランスを実施。感染率低減に向けた取り組みを実施し、評価は4月～9月、10月～2024年1月で感染率、使用比を比較した。結果、急性期、慢性期とも感染率は低減した。急性期の使用比は横ばいだったが慢性期は増加しました。

・PLABSI の発生率低減に関しては、今年は原因分析を行いました。リスク因子をもとに症例対象研究を行った結果、いずれも有意差は得られずカテーテル関連のリスク因子を特定することは出来ませんでした。9月から改めて前向きコホート研究を開始したが、現在分析途中です。

② 血液培養採取手技の向上

2023年1月～7月の病棟、外来での血液培養コンタミネーション率は、平均8.33%でした。9月よりコンタミ率低減に向けた取り組みを開始。9月～12月までのコンタミ率の結果は平均8.2%で低下は認めませんでした。外来のみでのコンタミ率は、当直医による鼠径部からの採取時にコンタミが発生する件数が多かったです。引き続き採取手技の向上のための教育を続けます。

③介護施設での感染対策スキル向上 手指消毒剤の使用回数が増加

聖峰会の介護施設関連に向けて感染対策のスキル向上を目指したミーティングを年4回開始。参加施設数は約18施設。

主なミーティング内容は、標準予防策の理解や手指消毒の必要性、コロナ対策などを含めた感染対策の質疑応答などを行っています。来年も介護施設関連とは連携体制をとり、施設側が困った場合はいつでも相談できるように関わっていきます。

③ 学会発表

今年は学会発表が出来ませんでした。理由は学会発表をする準備(データ収集や分析など)が出来ませんでした。7月の水害を受け、水害後の環境消毒の是非について環境培地をとり通常清掃の重要性が分かりました。その件に関しては2024年7月環境感染学会にて発表予定です。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

【学会参加】ICNJ 学会 環境感染学会

【講師派遣】他院感染対策指導 1件 特定行為研修講師 1件 感染対策講演会 6件

【研修参加】看護師特定行為研修指導者講習会受講 ACP 関連 1件 他3件

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格 なし

6. 実習指導 なし

7. 振り返りと今後の展望

2023年は血液培養コンタミネーション率の低下に向けた手技向上は全病棟で密に関われました。特に外来では鼠径部からのコンタミが多かったため、清潔手技の遵守率を確認するためプロセスサーベイランスを開始しました。結果コンタミ率の低減までは繋がらなかった。しかし教育や勉強会を行ったことやフィードバックを続けていることで清潔操作の意識は上がったと考えます。CVカテ、末梢カテの感染に関しては手技の標準化を目的に感染マニュアル作成できた事はよかったです。次年は引き続き血液培養採取手技の向上、血流感染予防に取り組みます。

介護施設関連に関しては、施設においてもコロナも含め標準予防策の理解、実施は重要であり、今後も当院の役割として相談や教育などに応じていき感染対策の向上に努めたいと思います。学会発表に関しては、目的が明確に定まらず発表までは出来ませんでした。来年は積極的(計画的)に準備、発表を行う予定です。

この1年はコロナクラスター、水害による環境清掃の重要性、CVカテ感染、CDIアウトブレイクなどの院内感染を経験しました。その中で見えた課題として標準予防策、接触予防策の理解と実践が結びついていない場面が多々ありました。2024年はICT、感染リンクと協働し職員一人ひとりが感染対策を考えて行動できるような教育的関りを行う予定です。

(文責:右田 早苗)

総合室管理部 緩和ケア課

1. 業務内容・活動内容

- ・ 緩和ケア提供体制の整備
- ・ 緩和ケアの看護業務支援
- ・ 意思決定支援、ACP提供体制の整備
- ・ 緩和ケアの普及、啓発活動
- ・ 会議体の運営及び事務局業務

2. 2023年の目標

- ・ 各病棟スタッフが統一された看取りケアを提供できる
- ・ 南3階包括ケア病棟で ACP カンファレンスが実施出来る
- ・ うきは地区市民へ向けての ACP の啓発活動が出来る
- ・ 当院緩和ケア病棟の家族ケアの質を把握できる

3. 実績

1)緩和ケアチーム活動

緩和ケア加算および個別栄養食事管理加算算定実績:20 件/9200 点

(介入件数 22 件/非加算 2 件)

2)緩和外来活動

がん疼痛緩和指導管理料算定実績:19 件/3800 点

がん患者指導管理料(末期悪性腫瘍の患者に対して):2 件/1000 点

3)ACP 普及活動

生き方ノート回収率:南 3 階包括ケア病棟 43.8%

南 4 階病棟 36.8%

外来(10~12 月) 24.2%

透析(4 月) 35.4%

4)院内研修

ラダー研修:6 月 14 日 看取りケア (クローバー2.3.4)

8 月 9 日 エンゼルケア (クローバー2.3.4)

11 月 8 日 ACP (クローバー2.3)

病棟内研修:5 月 10、24 日 南 4 階病棟 ACP

7 月 12、19 日 北 3 階病棟 看取りケア

5)その他

緩和ケアマニュアル整備

ACP 関連マニュアル整備

看護技術マニュアル(麻薬調剤と管理業務、逝去時の対応及び看護)整備

緩和ケア病棟実習要綱作成

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 3月16日 うきは市介護支援専門員研修 講師
「ACP 意思決定支援について」
- ・ 6月30日、7月1日 第28回日本緩和医療学会学術大会 参加
- ・ 7月9日 第9回地域包括ケア病棟研究会 演題発表
「地域包括ケア病棟での ACP 活動再構築から見えた課題」
- ・ 11月26日 第44回死の臨床研究会 ポスター発表(共同演者)
「認知症状により障害受容への関わりが困難だった事例」

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

今年度は、麻薬・逝去時・ターミナルケアに関するマニュアル改訂を行い、院内で統一されたケアが提供できるよう整備を進めてまいりました。来年度の病院機能評価に向けて、医療・看護の質の向上に努めていきたいと考えております。

ACP 活動では、わたしの生き方ノートの外来での普及と、将来の医療・ケアに関する ACP カンファレンスを南 3 階包括ケア病棟で行いました。将来の医療・ケアの選好を意思決定支援に反映していきたいと考えております。また、健康教室で ACP を採り上げる予定としていましたが、スケジュール調整のため、2024年5月に行う予定です。

当院緩和ケア病棟のケアの質の評価のために、遺族調査を行いました。コロナ禍の面会制限の中、ケア内容が十分把握できない状況であったと思われませんが、良くして頂いたという評価をいただきました。これからも、病棟スタッフ一同より良い看護を提供していきたいと思っております。

(文責:新川 恵美)

地域保健センター

健診部 地域保健センター

地域保健センターでは、主に企業労働者や地域住民を中心に、健康の保持増進、疾病の予防および早期発見を目的とした健康診断全般、人間ドックを実施しています。

また、保健師による特定保健指導や健診車による巡回健診も行っています。

聖峰会においては、保健および予防医療の領域を担い、サンヘルズ聖峰とも協働しながら、健康増進の切り口より聖峰会ユーザーの獲得に力を入れています。

1. 業務内容・活動内容

(1)各種健診

ア 法定健康診断(労安法に基づく健康診断)

- ・一般健康診断(雇入時健康診断、定期健康診断、特定業務従事者健康診断、海外派遣労働者の健康診断、結核健康診断、給食従業員の検便)
- ・特殊健康診断(有機溶剤健診、特定化学物質健診等)
- ・健診車による院外健診(うきは市・久留米市教職員健診、商工会健診、各企業の集団健診)

イ 生活習慣病予防健診(協会けんぽ)

ウ 人間ドック(日帰り)

エ 特定健診(各健康保険組合、久留米市・うきは市等国民健康保険)

オ 後期高齢者健診

カ 久留米市各種がん検診

キ 日曜日乳がん検診 10月実施

ク 就学時健診や婦人科検診など、個人希望の健診

ケ 学校保健法に基づく健診(久留米市・うきは市小・中学校尿検査)

コ 児童福祉法に基づく健診(久留米市・うきは市保育所尿)

サ 聖峰会職員健康診断(生活習慣病予防健診、定期健康診断、入職時健診等)約 800 名 年 2 回

(2)特定保健指導の動機付け支援・積極的支援(各健康保険組合、久留米市国民健康保険)

(3)産業医出務(鬼塚俊一医師、鬼塚英雄医師、清川医師)

(4)企業への予防接種

インフルエンザ予防接種

(5)ストレスチェック

2. 2023年の目標

- ・ 新システム習熟による効率的な運用
- ・ 地域住民への健診の促進

- ・ 特定保健指導の再構築による、実施率の向上
- ・ 労務管理の効率化による時間外業務の減少
- 3. 実績(主要な健診のみ記載 新システムの為 4月～12月実績)
 - ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診・・・1,495件
 - ・ 労安法に基づく健診(雇用時、定期、深夜等)・・・2,398件 院外
 - ・ 労安法に基づく健診(特殊健診)・・・272件
 - ・ 人間ドック・・・43件
 - ・ 特定健診(久留米市、うきは市、支払基金)・・・179件
 - ・ 後期高齢者健診・・・67件
 - ・ 久留米市がん検診・・・386件
 - ・ 腎臓病検診(学校、保育所)・・・6,070件
 - ・ 特定保健指導・・・130件
- 4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
 - 無し
- 5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格
 - 該当なし
- 6. 実習指導
 - 該当なし
- 7. 振り返りと今後の展望

新しい健診システムが導入されましたので、効率的に運用する事により、スムーズな予約及び健診実施が出来る様努めてきました。

また、保健師が充足されたことにより、特定保健指導の実施実績を大幅に伸ばすことが出来、収入増にも繋がっています。

適切な売上回収の取り組みとして、新規取引の企業様においては契約書の確実な取り交しを行いました。

今後の課題としては、地域住民の方々への積極的な健診の周知が不十分であったため、来年度は、渉外課にも協力を仰ぎ、周知を徹底させることにより、地域の受診者の増加に努めたいと思います。

(文責:矢野 雄一)

総務部

総務部 総務課

1. 業務内容・活動内容
 - ・ 月例給与/賞与/昇給/年末調整
 - ・ 社会保険(健康保険/厚生年金/雇用保険)、労災保険
 - ・ 労務関連(入退職手続/職員寮管理/雇用契約書管理)
 - ・ ユニフォーム管理
 - ・ リネン管理(寝具・病衣)、洗濯業務
2. 2023年の目標
 - ・ 社会保険諸手続きの完全電子化(e-Gov 申請/政府が運営する行政情報ポータルサイト)
 - ・ 一人三役運動の進展
 - ・ リネン類の適正管理(在庫を把握し、必要数以上置かない)
 - ・ 納入された洗濯物の速やかな仕上げ対応
3. 実績
 - ・ 社会保険諸手続きの完全電子化については対応完了(一部訂正届は紙対応)
 - ・ 一人三役運動は実施継続中
 - ・ リネン類は病棟の在庫を確認把握した上で発注し、適正数で管理を行っている
 - ・ 洗濯物は素材や汚れを考慮し、速やかに仕上げている
4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
久留米市内での豪雨災害に対して、対外ボランティアの企画(3回、合計16名が参加)
5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格
該当なし
6. 実習指導
該当なし
7. 振り返りと今後の展望
 - <振り返り>
 - ・入寮者の減少に対応するため、職員寮の整理(1棟解約)を行った。
 - ・ユニフォーム・・・
 - ・7月10日の豪雨災害では、事務局のメンバーとして救援物資やボランティアの受付対応にあたった。更に、豪雨により被災した家屋や農地復旧のためのボランティア(久留米市主催)に法人としての参加を企画した。
 - <今後の展望>
 - ・今年マンナンバーカード普及が進み、来年末にはマンナンバーカードの健康保険証利用(健康保険証の廃止)が予定されている。社会保険の手続き、税務関係の届出等を含め、これまで以上に個人番号の適正な管理が必要となるため、総務担当者として「個人情報管理士」取得に向けて、「マイナンバー実務検定1級」取得を目標とする。
(個人情報管理士受験の為にはマイナンバー実務検定1級の取得が必須である)

(文責:高山 由紀子)

総務部人事・広報課

1. 業務内容・活動内容

(人事)

- ・ 採用業務
(新卒採用、中途採用、高卒採用、外国人採用、アスリート採用)
- ・ 人事管理
(職員情報、職員面談、人事考課、昇進昇格、人事異動、ハラスメント)
- ・ 労務管理
(給与、賞与、昇給、時間外労働(36 協定)、有給休暇取得義務、職員健康診断、職員予防接種、ストレスチェック、労働災害、雇用契約、免許・資格、行政等の事務対応)
- ・ 企画運営
(入職式、研修、内部制度(職位等級制度、介護技術評価制度)の運用、福利厚生)

(広報)

- ・ 広報に係る各種規約やガイドライン等の策定及び改定
- ・ メディアリレーション
- ・ ホームページ・SNS(Facebook、Instagram、LINE)運営・管理
- ・ コンテンツ(広報誌・記念誌・広告・動画・パンフレット・ポスター・グッズ等)制作・更新
- ・ イベント企画・実施
- ・ 法人内外イベント・研修等の写真及び動画撮影
- ・ 70 周年記念誌制作プロジェクト立ち上げ及び運営
- ・ ホームページ経由の問合せ対応
- ・ 広報委員会企画・運営・管理

2. 2023 年の目標

- ・ 人材確保と離職防止
- ・ 戦略的かつ効率的な組織運営
- ・ 労務管理の効率化
- ・ 広報活動の充実

3. 実績

(人事)

- ・ 採用職種(看護師、准看護師、介護福祉士、介護職員、薬剤師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、臨床心理士、事務職員、介護支援専門員、診療放射線技師、臨床工学技士、管理栄養士、労務、救急救命士、保育士)
- ・ 外国人採用(介護職員):12 名(特定技能 1 号)
- ・ アスリート採用(介護職員):7 名(ラグビー)
- ・ 外国人職員の親睦会の実施(大宰府天満宮観光、食事会)
- ・ 外国人職員に対する職員からの提供による防寒用品提供の実施
- ・ リファラル採用の拡充
- ・ 就労条件(福利厚生)の拡充として育児休業早期復帰者に対する休日の配慮
- ・ 退職された方の再就職を助成する制度「ジョブリターン制度」の実施

(広報)

- ・ ホームページリニューアル
- ・ イベント企画・実施:健康教室 1 回、特設展示コーナー設置 1 回
- ・ メディアリレーション:取材対応 33 件、プレスリリース発信 1 回
- ・ 広告出稿(協賛広告・看板・デジタルサイネージ等含):23 件
- ・ 各種動画作成および再作成:4 件
- ・ 広報誌発行:発行回数 1 回(8 月)

- ・ ホームページにおける新着情報発信:129 件
- ・ SNS:更新回数 153 回、LINE 配信回数 3 回
- ・ Google クチコミ管理:対応数 15 件
- ・ 広報委員会主催:11 回

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
該当なし

5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格
該当なし

6. 実習指導
該当なし

7. 振り返りと今後の展望
(人事)

2023 年は人材不足の対策として、外国人の採用に加えて、地域のラグビーチームに所属する選手を雇入れるアスリート採用を開始しました。また、リファラル採用を強化することで、信頼性のある中途採用を実施しています。離職に関して人材の流出防止に注力し、入職者に対する定期面談の実施、休日の見直し、福利厚生の見直しなどを実施継続中です。

今後においても、人材不足はより顕著になり採用は困難を強いられることが予想されるため、既存の採用形態の見直しおよび新しい採用手法の考案に取り組んでいきたいと考えています

また、外国人およびアスリート採用を継続して実施するうえで、就労や学習に関して有意義となる研修制度を考案し、受け入れ態勢の確立を図りたいと考えています。

(広報)

広報活動の充実に向け、2023 年は商業施設への広告出稿や Instagram 開設、関連グッズの制作、各種規約やガイドラインの整備などの新たな取り組みを行いました。

「コンテンツの品質保持」および「業務効率化」を目的とし、ホームページや各種パンフレット・動画等のリニューアル、既存パンフレットの再校閲、各種ガイドラインの策定などを行い、各コンテンツの品質を保つことで、法人の社会的信頼性の向上を図るとともに、より伝わり易い、効果的な広報活動に努めました。

また、病院のホームページについては、6 月にリニューアルを行っていたことにより 7 月の豪雨災害の際にはホームページを介してタイムリーに情報発信を行うことが可能となり、必要物資やボランティア募集など様々な場面で活用することができました。

その他、業務の属人化を解消し、効率的に業務を行えるよう、業務手順の整備、業務依頼書の導入などの仕組み化や関連会議の統廃合を行いました。加えて、これまで山積していた広報関連のデータやマテリアルの整理を実施しました。

今後も、より伝わり易い広報を心がけながら、ホームページの情報充実や水害を踏まえた危機管理広報の強化、インナーブランディング、整然とした施設環境の構築などに取り組んでいきたいと考えています。

(文責:金堀 知広)

総務課 病院内保育所

1. 業務内容・活動内容
 - ・職員が安心して働ける環境を提供できるよう、日々の保育に努めている。
 - ・早出や遅出、休日開所など、必要に応じた保育士の配置を行い、安全性を重視した業務運営を徹底しています。
2. 2023年の目標
 - ・ 安全な保育所運営構築
 - ・ 2, 子育て支援
 - ・ 3, 保育士スキルアップ
3. 実績
 - ・身体測定(毎月)
 - ・健康診断(11月)
 - ・おたより配布(毎月)
 - ・連絡帳の活用(利用者様とのコミュニケーションの活性化)
 - ・設定保育の実施(ダンス・歌・製作等)
 - ・季節に合った壁面構成(毎月)
 - ・誕生者へのカード配布
 - ・火災や地震、不審者対策訓練(毎月)
 - ・行事の実施(七夕・クリスマス・節分・遠足)
 - ・水害時に空いた寮を使った保育の実施
4. 对外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
特になし
5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格
特になし
6. 実習指導
該当なし
7. 振り返りと今後の展望
保育士欠員状況が続く、院内保育・病児保育業務ともに運営が難しい状況でありました。
更に、4月から病児保育無償化が始まりましたが、スタッフ数や施設の問題で円滑な受け入れが出来ず、利用者増には繋がりませんでした。
また、7月の浸水被害では約2ヶ月別場所で保育を運営することになりましたが、保護者の協力・スタッフの連携により、無難に終えることが出来ました。
今後の展望としては、感染対策や業務の多様化を考慮しながら、保育士の配置や業務内容を臨機応変に変更することが更に必要になると思います。

(文責:今村 美智代)

総務部管財課

1. 業務内容・活動内容

- ・医療材料の全般的な管理業務
- ・一般消耗品の全般的な管理業務
- ・新型コロナウイルス感染症の予防医材仕入等業務
- ・医療機器、病院・介護系の備品購買業務、保守・リース契約の管理業務
- ・薬価改定に伴う妥結率の交渉
- ・行政届出業務
- ・医療材料検討委員会幹事

2. 2023年の目標

- ・ネットの有効活用
- ・NHA 共同購入品への切替推進

3. 実績

ネット購入及びNHA 共同購入品への切替により、経費削減を行いました。
病衣の見直しにより、伸縮性病衣を導入しました。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・NHA 地域病院との意見交換会

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

2023年7月の豪雨により、医療機器や医療材料等病院内のあらゆる物品が被害を受けました。

あらゆる物品の廃棄処理や購入により、病院の早期復旧に向けて取り組んで参りました。
今後、病院経営の安定化に向け、より一層のコスト削減と災害時の必要物資の確保に努めて参ります。

(文責 山本 和希)

総務部 渉外課

1. 業務内容・活動内容

- ・ 地域医療連携講演会 12 回以上/年度実施による共催メーカーへ打診
- ・ 地域保健センターでの外部活動へのサポート
- ・ 常勤医師と登録医院への表敬訪問の実施
- ・ 登録医院・うきは医師会への定期訪問による情報収集・提供
- ・ モニター会 1 回/年実施 企業及び地域住民の健康と福祉に関する情報交換
- ・ 病院全体での院外活動へのサポート・ヘルプ・フォローの実施

2. 2023 年の目標

- ・ 地域医療連携講演会 基準クリアー
- ・ モニター会開催

3. 実績

- ・ 地域医療連携講演会 予定実施回数 完了
- ・ モニター会実施(10 月 5 日)
- ・ 新任常勤医師との登録医院 挨拶訪問実施
- ・ 登録医院 64 施設への挨拶廻り

4. 対外活動(学会発表・参加・講師派遣などを含む)

「該当なし」

5. 2023 年に新たに所得下した専門・認定資格

「該当なし」

6. 実習指導

「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

地域医療連携講演会は年度で実施回数が決まっていますが、昨今は基準をクリアするのは非常に難易度が高くなっています。早期から次回・新年度での実施予約を製薬メーカー様に依頼・打診することが重要になりました。

今後は院外での医療・介護に重点をおいての渉外(営業)活動が多くなると思います。

ケアマネジャー・ソーシャルワーカー・各事業所所長・館長・サンヘルス主任・パワーデイケア燦ふらわー主任・健康増進施設課長との連携が非常に重要になります。

引き続き情報提供・ご指導の程、宜しくお願い致します。

活動が最終的に当院の利益向上に繋がっていければと思います。

(文責:町田 高史)

総務部施設課

1. 業務内容・活動内容

- ・ 電気設備、給排水設備、空調設備、医療ガス設備、ボイラー設備等の維持管理
- ・ 建物営繕
- ・ エネルギー管理
- ・ 施設の環境衛生に関すること
- ・ 災害訓練
- ・ 送迎業務

2. 2023年の目標

- ・ 建築設備を良好な状態に維持し、安全で安心して過ごしていただける環境を提供
- ・ 電力使用量を前年度から1%以上削減して、CO2排出量を抑制
- ・ 災害に強い法人への取り組み

3. 実績

- ・ 7月10日に発生した水害により、病院の建物及びライフライン設備に甚大な被害を受けましたが、地元業者の方々の協力のもと、建築設備を復旧させ早期診療再開に寄与することができました。
- ・ 電気使用量を前年度から5%削減し、CO2排出量を抑制することができました。
- ・ 夜間想定防火訓練及び地震想定防災訓練を企画し実施しました。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 筑後川マラソン大会に救護員として参加しました。

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ ボイラー取扱技能(第14130号):稲富 巧児

6. 実習指導

- ・ 2023年 3月11日:防火訓練(夜間想定)
- ・ 2023年11月 7日:防災訓練(地震想定)

7. 振り返りと今後の展望

7月10日に発生した水害時に、病院1階の患者様を全員無事に上階に避難させることができたのは、定期的に行っている防災訓練の成果だと考えています。

今後の水害対策として、病院外周に防水壁を設置し、ライフライン設備を高所に移設するために機械棟を新設する計画が進行中です。

災害拠点病院として、災害時においても継続して医療を提供できる体制を整備するため施設課の役割を果たしていきたいと思っております。

(文責:魚谷 和夫)

総務部財務課

1. 業務内容・活動内容

- ・ 勘定および会計帳簿の作成
- ・ 棚卸資産
- ・ 債権・債務
- ・ 固定資産
- ・ 決算
- ・ 予算

2. 2023年の目標

- ・ 長期的なキャッシュフローの作成
- ・ 社会医療法人に向けての準備
- ・ インボイス制度の導入

3. 実績

令和5年10月から開始するインボイス制度に対応するため当法人の適格請求書発行事業者の登録が完了した。同時に取引業者へ登録番号の確認文書を発行し確認が完了。会計ソフトへの対応もスムーズに完了し、顧問税理士事務所と密に連絡をとりあった結果問題なくインボイス制度の導入が完了した。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 特になし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

日常業務を2名体制で行っている為、多数の仕事を兼任しながら日々業務をおこなっている。その結果、業務が属人化してしまい特定の人しか業務の流れや全体を把握できていなかったり、担当者が不在だと業務が滞ってしまう可能性も考えられた。

属人化を避けることが、経理担当者の負担を軽減するための重要なポイントと考えられる。

昨年度の一人三役に取り組みで、業務総数142項目に対し課員3名全員が業務を通常通り1名でできるレベルまで達した。その結果1名休んでも支障なく通常業務が可能になり負担も軽減された。

(文責:徳永 勝則)

介護事業部

1. 業務内容・活動内容

「認知症対応型共同生活介護(介護予防認知症対応型共同生活介護)」定員 9 名

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境のもとで、食事、入浴、排泄等の日常生活の世話及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援することを目的としています

- ・ 認知症の診断が付き要支援 2~要介護 5 の要介護認定を受けた方が、少人数で生活する地域密着型の家庭的な施設
- ・ 1 年を通じて営業を行い、全室個室にて 9 名で 1 エットを構成、2 エット 18 名の入居が可能
- ・ 久留米市在住の方のみが利用できる地域密着型サービス
- ・ エットごとに職員を 8 名以上配置し、日中は入居者 3 名に対し職員 1 名以上が勤務
- ・ 早出、日勤、遅出、夜勤の交代勤務体制
- ・ サービス提供体制強化加算(Ⅰ)、医療連携体制加算(Ⅰ)、認知症専門ケア加算(Ⅰ)、生活機能向上連携加算、看取り介護加算、介護職員処遇改善加算(Ⅰ)特定介護職員処遇加算、ベースアップ等支援加算科学的介護推進体制加算を算定

2. 2023 年の目標

- ・ 食事の準備や介助、入浴、散歩、農作業、ドライブ、買い物、裁縫、貼り絵、機能訓練等入居者個々の能力・楽しみに応じた時間の提供と入居者・ご家族様のニーズに合わせたサービスの提供を目指します
- ・ 平均稼働率 98%以上

3. 実績

2023 年の入居率は 97.1%でした。令和 6 年も令和 5 年の目標と同様に入居率 98%以上を確保する事を目標とします。

2023 年は 7 月の水害により施設運営に多大なる被害がありましたが、サクライ聖峰への避難誘導は的確で全入居者様を安全に救助出来ました。これは、普段からの防災訓練や防災への意識付けによるものと思います。また、法人内職員や災害ボランティアのご協力も、早急な施設運営再開に繋がりました。

面会制限も一部緩和し、入居者様やご家族が対面面会可能となったことで喜びの声も聞かれました。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 日本認知症グループホーム協会福岡県支部会員

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格
介護福祉士養成実務者研修(小林恵美)

6. 実習指導
水害の影響で該当なし

7. 振り返りと今後の展望

2024年は感染対策を継続しながら地域に根付き、入居者様が生きがいや楽しみを持って、安全・安心して生活できる居心地の良い生活環境づくりに励みます。

また、災害に強い事業所を目指し、職員一同一丸となって取り組みます。

更に、全職員が楽しく働きやすい職場作りを目指します。

(文責: 妹川 誠)

1. 業務内容・活動内容

「認知症対応型共同生活介護(介護予防認知症対応型共同生活介護)」定員 18 名

認知症によって自立した生活が困難になった利用者様に対して、家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄等の日常生活のお世話及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を送って頂くことを目的としています

また、利用者様がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるよう支援することも目的としています。

当施設は、認知症の診断がつき要支援2～要介護5の要介護認定を受けた方が、少人数で生活する地域密着型の家庭的な施設です。

1年を通じて営業を行い、全室個室にて1ユニット9名の入居が可能です

- ・ 久留米市在住の方のみが利用できる地域密着型サービス
- ・ エットごとに職員を8名以上配置し、日中は入居者3名に対し職員1名以上が勤務
- ・ 日勤、夜勤の交代勤務体制
- ・ サービス提供体制強化加算(1)④、医療連携体制加算(3)、認知症専門ケア加算(1)、聖活機能向上連携加算、介護職員処遇改善加算、特定介護職員処遇加算、ベースアップ等支援加算科学的介護推進体制加算を算定
- ・ 慢性疾患や体調不良時など医療機関への受診が必要な場合の援助
- ・ 2ヶ月毎の地域運営推進会議、身体拘束等の適正化、対策委員会の実施
- ・ (行政機関・区長・民生委員・家族・入居者・職員で構成)
- ・ 地域清掃、地区道路愛護への参加
- ・ レクリエーション、季節ごとのドライブ、外出、誕生会、創作活動、畑の野菜栽培
- ・ ひまわり 2号館瓦版、ひまわり2号館入居者様のご家族へお便りの発行(2ヶ月毎)

- ・ 4月 新任館長就任 6月 カラオケ大会 7月 手作りおやつ会
- ・ 8月 花火大会 9月 敬老会 10月 手作りおやつ会
- ・ 11月 コスモス見学(ドライブ)12月 クリスマス会

2. 2023年の目標

- ・ I. 法人としての質の向上
 1. 人的資源の充実 2. 物資資源の充実 3. 組織力の強化
- ・ II. 安心住み続けられる地域作り
 1. 災害・感染に強い法人 2. 地域活動への積極的参加 3. 街作りの中心役割

- ・ Ⅲ. 健全な法人経営を実現
- ・ 年間稼働率目標 98%以上

3. 実績

年間稼働率 95.68%

4. 对外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 勿体島地区 お宮掃除・道路愛護
- ・ 高齢者・障害者施設等における感染症予防研修会
- ・ 久留米市介護福祉サービス事業者協議会 アンガーマネジメントの基本
- ・ 介護ネットワーク・セミナー
- ・ 介護支援専門員部会 ケアマネジメントの基本を振り返ろう

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

介護職員初任者研修:鈴木 雅子

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

2023年は、ご入居者様の入れ替わりが多く平均して毎月1名の入退居がありました。

地域包括支援センターをはじめ、サンライフ聖峰や各所にあいさつ回りを実施すると共に、新たなご縁を結ばせていただく機会を得る事が出来ました。

来年は、ご入居者様に安定した生活を送って頂くようサポートすると共に、毎月のイベントや畑の復興活動を行い、利用者様が更に楽しい生活を送って頂くことが目標です。

(文責:日下 聡美)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 認知症対応型共同生活介護(介護予防認知症対応型共同生活介護) 定員 18 名
- ・ 認知症によって自立した生活が困難になった利用者様に対して、家庭的な環境のもとで、食事や入浴、排泄等の日常生活のお世話及び日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者様がその有する能力に応じ可能な限り自立して営むことができるようご支援することを目的としています
- ・ 認知症の診断をうけており、要支援2～要介護5の要介護認定を受けた方が、少人数で生活する地域密着型の家庭的な施設
- ・ うきは市に住民票のある方のみが利用できる地域密着型サービス
- ・ 日中は入居者3名に対し職員1名以上が勤務
- ・ 2ヶ月毎の地域運営推進会議、身体拘束等の適正化、対策委員会の実施(行政機関・区長・民生委員・家族・入居者・職員で構成)
- ・ 地区道路愛護への参加
- ・ レクリエーション、季節ごとのドライブ、外出、誕生会、創作活動、畑の野菜栽培
- ・ ひまわり通信、ひまわり3号館入居者様のご家族へお便りの発行

2. 2023 年の目標

- ・ 年間入居率 98%以上達成を目標とします
- ・ 入院時退居時の円滑な調整を行います
- ・ 入居者様が安心して楽しみや生きがいを持って生活できる環境づくりを行います
- ・ 職員がやりがいも持って働くことができ、ストレスなく働ける環境づくりを行います
- ・ 地域やご利用者にとって必要とされる事業所づくりを行います

3. 実績

月	延利用者数(人)	稼働率(%)
1 月	549	98.4
2 月	495	98.2
3 月	552	98.9
4 月	540	100
5 月	558	100
6 月	540	100
7 月	558	100
8 月	558	100
9 月	540	100
10 月	558	100
11 月	530	98.1
12 月	558	100
合計・平均	6,536	99.5

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

高齢者虐待身体拘束研修会 5名参加

うきはブロック介護事業連絡会

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

介護支援専門員更新研修・・・伊藤 若菜

認知症介護実務者研修・・・橋本 渉

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

2023年の入居率は99.5%でした。2名が退居されましたが、その後の空室期間が短く、安定した稼働実績と事業運営を行うことができました。

施設内では昨年同様新型コロナウイルス感染防止の為、ワクチンの適時接種を含め、感染対策を徹底しています。コロナ禍であっても入居者様に安心して楽しみをもって生活して頂けるよう、スタッフが協力し取り組むことが出来ました。

(文責:横山 敦)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 利用者様の人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ったサービスの提供
- ・ 個別の介護計画を作成し、利用者様が必要とする適切なサービスを提供
- ・ 入浴、排泄、食事、着替え等の介助など、日常生活上の手伝い
- ・ 日常生活の中での機能訓練、相談援助を行い、安心して暮らせる環境を作っていきます

2. 2023年の目標

- ・ 利用者様が必要とする適切なサービスの提供
- ・ 安心して暮らせる環境づくり
- ・ スタッフ1人1人が働きやすい環境づくり

3. 実績 (％)

令和5年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
稼働率	100	100	100	100	100	100	100	95.0	100	94.6	100	96.4

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 日田支援学校 交流会 7月
- ・ 研修・・・毎月の院内研修参加

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 認知症対応型サービス事業管理者研修 : 松岡 剛功
- ・ 認知症介護基礎研修 : 矢野 尚子

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

開設3年目となり、スタッフの動きも良く、仕事に対する自主性が出てきたことで、より良い支援が出来るようになってきました。

年間稼働率は 98.8%を達成できました。前年と同様、入院時の退院時期の調整に難航しましたが、2週間程度で調整が出来た為にスムーズな退院とつながりました。今後については体調管理や転倒予防を行い、怪我や入院しないよう心掛けていきます。

(栗木 昭治)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 当事業所は、小規模多機能型居宅介護の位置付けです
- ・ 利用者様が住み慣れた地域で安心して生活が出来るように「通い」「訪問」「泊り」の組み合わせで、24時間・365日在宅生活を支援するサービスを行っています
- ・ ケアマネージャーが1名、常勤で勤務しているので、柔軟なサービスを提供することが出来ます
- ・ 看護師1名(正看護師)が常勤にて勤務。医療的な面もカバー出来ています

2. 2023年の目標

- ・ 登録者数 :26.7名以上
- ・ 月平均収入:518万円以上

3. 実績

- ・ 登録者数 :26.8名
- ・ 月平均収入:511万円

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 久留米小規模部会:4月・7月・9月・11月・R6.1月 研修会参加
- ・ 久留米市感染症予防研修会参加
- ・ 久留米市高齢者権利擁護推進虐待予防研修会参加
- ・ GHさくら館合同避難訓練
- ・ 光陽高校実習生受け入れ(2名)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 認知症対応型サービス事業管理者研修:柴尾 幸男
- ・ 認知症介護基礎研修:原田 脩平

6. 実習指導

実施なし

7. 振り返りと今後の展望

今年度は、感染対策を徹底したうえで、様々な行事を取り行うことが出来ました。

その企画にあたっては、利用者様が楽しんで頂けるようにスタッフ全員で内容を検討、実施することで事業所全体の活気に繋がりました。

また、登録者数も安定しており、柔軟な受け入れを行うことが出来ました。

そして、新規のご利用者を受け入れるごとに支援の内容や業務についての改善を、多く話し合うことが出来ました。

令和 6 年度は、スタッフがやりがいをもって業務が出来る環境作り、また利用者様にも寄り添った介護が出来るよう、意識改革を行っていきたいです。みんなが笑いあえる職場環境作りを目指していきます。

(文責:上村 啓介)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 通いサービスを中心に訪問サービス、宿泊サービスを行い健康管理や入浴サービスの他、リハビリ体操や個別リハビリ運動、レクリエーション、居室での歓談、作品制作、散歩・ドライブ、利用者様一人一人の趣味や能力に応じたサービスを提供する事、地域の行事にも参加し生きがいのある在宅生活を継続できるように支援させて頂いています。
- ・ 笑顔溢れる職場作りを实践する為、毎月の誕生日会や季節の行事、季節に応じた作品制作等にも力を入れております。
- ・ 地域の一員として積極的に地域活動、イベント(吉井地区自治協議会鯉のぼり作成、うきは商工会青年部主催盆踊り大会出店、道の駅うきはかかしコンクール展示、うきは市民文化祭作品展示)道路愛護、資源物回収当番に参加しております。

2. 2023年の目標

- ・ 平均登録数 26.3名以上
- ・ 平均収益 518万円以上

3. 実績

2023年1月～2023年12月

平均登録数 24.4名

平均収益 517万円

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

運営推進会議(年6回)

グループホーム部会(3回)

日田小規模部会(年6回)

日田市&大牟田市小規模多機能型居宅介護連絡会研修交流会発表(市内で初めて新型コロナウイルス感染、クラスター発生時の状況、対応について)

地域活動(道路愛護・資源物回収当番・子供110番・吉井地区自治協議会鯉のぼり作成・道の駅うきはかかしコンクール参加・うきは商工会青年部主催盆踊り大会出店・うきは市民文化祭展示参加)

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 資格名(介護福祉士):井上 博美

6. 実習指導

2023年7月24日～2023年7月28日:内容 令和5年度 福岡県立久留米筑水高等学校 社会福祉科 1年生介護実習Ⅰ「認知症対応型共同生活介護(グループホーム)・小規模多機能型居宅介護」

7. 振り返りと今後の展望

新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり行動制限が緩和されましたが、スタッフ一丸となり引き続き感染対策を徹底し、感染拡大することなく安定した運営ができています。

地域活動にも積極的に参加し、うきは市民文化祭への作品展示 3年ぶりの復活や、うきは商工会青年部主催盆踊り大会に知名度の向上と盆踊り大会盛り上げの為に、初めて出店させて頂きました。今後も地域から必要とされる事業所を目指したいと思います。

登録利用者様の契約終了や新規登録の入れ替わりが多かったですが、「変わらずスタッフ全員で笑顔溢れる介護」を念頭に、利用者様が一日を大切に楽しく過ごして頂けるよう、今後も支援させて頂きたいと思います。

(文責:古賀 裕昭)



ひまわりの郷吉井 外観

1. 業務内容・活動内容

- ・ 家庭的な雰囲気の中で、「通い」「泊り」「訪問」を組み合わせてサービスができます
- ・ 一日の流れは、健康管理・入浴サービス・レクリエーション等をしています
- ・ 訪問では、安否確認や服薬確認・お風呂交換・掃除・食事準備・受診援助をしています
- ・ 毎月行事予定を計画し、季節に応じてドライブや運動会や焼き芋会を実施し、毎月楽しく過ごして頂いています

2. 2023年の目標

- ・ 月平均登録者 : 27名
- ・ 月平均収入 : 613万円以上

3. 実績

平均登録者 : 26.3名

平均介護度 : 1.78

平均収入 : 595万円

登録者27名(定員29名)

(要支援6名・要介護21名) 平均介護度 1.60 ※令和5年12月31日時点

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

小規模多機能ひた部会 「個人の価値観の違いについて」

9月12日【参加者2名】 11月6日【参加者2名】

グループホーム部会 「身体拘束・虐待について」 11月15日【参加者4名】

年2回道路愛護に参加

小規連絡会ひた 定例会に参加

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

資格名(認知症介護基礎研修): 井手 太郎

6. 実習指導

「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

- ・ 令和5年の春頃は登録者数が伸び悩んでいましたが、6月より徐々に増加し、登録27件となりました。しかし、7月に入院や施設入所が重なったこと、8月より訪問体制強化加算の

算定が出来なくなったことから、大幅な減収となりました。通期としては、毎月新規利用者を受け入れることができたこともあり、安定した運営となりました。

また、感染症対策を強化し、手指消毒・健康観察を徹底することで、感染拡大することなく運営することができています。

今後も小規模多機能の機能を活かしながら、利用者様に喜ばれるサービスを提供し、利用者様が住み慣れた地域の中で、不安を安心に変えて生きがいのある在宅生活が送れるよう心配りをするとともに、利用者様やご家族、地域の方々に信頼され必要とされる事業所を目指します。

(文責:山崎 祐治)

介護事業部 地域密着型サービス課 さくらの郷 日田

1. 業務内容・活動内容

- ・ 「利用者様の人生を支える、安心・楽しみ・心地よさを感じる事業所でありたい」を理念とし、お一人お一人を大切に家庭的な雰囲気でも過ごして頂けるよう心掛けております。独居生活のご利用者様が多く、買い物支援・病院受診支援・購買車利用・家事援助と生活を支える支援も大切にしております。
- ・ 季節行事にも力を入れており、ご利用者様に喜んで頂けるよう事業所全体で毎月、企画しております。
- ・ 地域活動とし、毎月の民生委員会議出席・年2回道路愛護・個別避難計画での自治会参加を行っております。
- ・ 住み慣れた地域で安心して過ごして頂ける様、地域資源・他業種との連携を図り在宅生活を支援しております。

2. 2023年の目標

- ・ 平均登録数 27.58名以上
- ・ 収益 601万円以上

3. 実績

- ・ 2023年1月～2023年12月
平均登録数 26.6名
収益 593万円

- 4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
運営推進会議(年6回)

1. 業務内容・活動内容

【認知症対応型通所介護】

- ・ 1日の利用定員:12名 宿泊定員:4名
- ・ 認知症の方専門のデイサービスで、介護保険外で宿泊サービスも実施
- ・ 日々、健康チェック・レクリエーション・入浴等を行っています
- ・ 毎月季節毎の行事を企画したり、ドライブや工作、壁画の作成などを中心として楽しく過ごして頂いています

2. 2023年の目標

- ・ 平均利用者:1日9名以上(1日定員12名)
- ・ 稼働率:75%以上

3. 実績(2023.1月～2023.12月)

- ・ 平均利用者:1日平均7.6名
- ・ 平均稼働率:63.2%
- ・ 収入 :317万円
登録者20名(令和5年12月31日時点)
(要支援1名・要介護19名) 平均介護度1.86

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)
通所サービス部会「腰痛予防について」

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格)
資格名(キャリア段位評価者講習):橋本 さおり

6. 実習指導
「該当なし」

7. 振り返りと今後の展望

宿泊サービスの縮小化や利用者様の入院・入所が相次いだこと、連泊の受け入れが出来ない事により、稼働率が上がらない月が続きました。それでも、毎月の居宅支援事業所への訪問時にサービスの説明などの声掛けを継続して行ってきました。
事業所内でも現在利用されている方に楽しんで来て頂ける様、ドライブや行事の計画を行い、実践しています。

感染対策面では、看護師を中心として健康管理・手指消毒を徹底する事により、感染拡大を未然に防ぐ事が出来ました。

今後も地域密着型の名において地域の役に立てる事業所を目指しながら、利用者様・ご家族様に寄り添ったきめ細やかなサービスの提供を行なっていくとともに、スタッフ自身も笑顔で働く事が出来る事業所を目指していきたいと考えています。

(文責:橋本 さおり)

1. 業務内容・活動内容

●「認知症対応型通所介護(介護予防認知症対応型通所介護)」

1日の利用定員 12名 泊まり 4名

地域密着型サービスとして、在宅生活が継続できるように「デイ」を中心に「泊り」「早朝利用」「時間延長」などを組み合わせて利用者・家族のニーズに添うサービスの提供を行っています。

また、「グループホームさくら」や「さくらの郷」との連携を行っています

●「居宅支援事業」

心身の状態、家族の状況及び希望に添い、その方らしい生活が送れるように適切なサービスを提供しています

- ・ 「おひとりおひとりに合った 心やすらぐ介護をおこないます」の理念の基に取り組み、利用者様の都合に合わせ、急な宿泊・時間延長など可能な限りの受入を可能としています。
- ・ 重度の認知症にも対応の出来るスタッフの育成にも取り組んでいます。

2. 2023年の目標

・ デイサービス

稼働率 平均 85%以上

・ ケアプラン

【1人の場合】

目標件数 月33件

月間目標 32万3千円/人

年間収益 387万6千円/人

【2人の場合】

目標件数 月66件

月間目標 64万6千円/人

年間収益 775万2千円/人

3. 実績

平均稼働率 76.0%

令和5年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
実績件数	257	264	289	283	277	267	299	276	285	302	274	262
稼働率 %	69.1	77.3	77.7	78.6	74.5	74.2	80.4	74.1	79.2	81.2	76.1	70.4

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

●デイサービス

日田支援学校 交流会 7月(七夕交流会)

研修・・・毎月、院内研修に参加。その他、施設内研修 身体拘束、感染予防等実施。

9/15 甲種防火管理者研修

●ケアプランサービス

1/27 介護支援専門員のためのマインドフルネス

2/2 ストレスケアとモチベーションマネジメント

2/17 支援専門職の使命とやりがい

3/1 日田市認知症アセスメント力向上研修

5/17 個別避難計画作成について

10/1 法令遵守研修

10/17 君の介護に根拠はあるか？

10/21 介護殺人の実態と予防に向けた視点

11/15 身寄りのない方の支援について

11/22 予防プラン研修

12/19 自立支援のためのアセスメントの理解を深める

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

甲種防火管理者 栗野洋平

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

新規利用者様 7名に対し、利用終了者様10名と中止になる利用者様が上回った。

理由としては、利用回数の多い方が、他施設への入所されることや亡くなられたり、入院されることが多く、稼働率の伸び悩みました。

今後は、新規利用者様を毎月1名以上を目指していきたいです。

(文責:栗木 昭治)

1. 業務内容・活動内容

- ・ サンライフ聖峰の施設運営に係る届出及び設備の管理、介護保険請求
- ・ サンライフ聖峰が対象となる補助金の申請
- ・ サンライフ聖峰の年度予算作成
- ・ その他、介護事業事務局で発生する一部の業務(代行請求など)

2. 2023年の目標

- ・ 請求関連で過誤請求の防止
- ・ 補助金において、申請可能なものについて確実に取り扱う

3. 実績

- ・ 補助金申請：2件(久留米市社会福祉施設等物価高騰対策支援補助金)

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

実績なし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

サンライフ聖峰の事務業務は、専門的な知識と様々な用途に応じるスキルが求められます。業務を効率よく遂行するために役割分担をしていますが、属人化しているものも多ので、複雑な請求業務と施設運営に係る事務全般を担うにあたり、次年度は業務負担を偏りなくするとともに、円滑に業務遂行できる体制を整えていきたいです。また、年度予算においては収支バランスに着目し、全職員が意識をもって、削減可能な経費は確実に見直していきます。

(文責:中原 和美)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 施設名 デイケアセンターひまわり
- ・ 介護老人保健施設サンライフ聖峰併設のみなし(予防)通所リハビリテーション事業所
- ・ 要介護認定を受けた方が自宅から通い、身体や生活機能の維持・向上を目指す
- ・ 医師の指示と居宅サービス計画に基づき、リハビリテーション、入浴や排せつの介助、レクリエーション等、個々の計画に応じて介護サービスを提供し在宅生活を支援
- ・ 看護職員常駐による医学的管理、生活行為向上リハビリテーションマネジメントに対応できるリハビリ専門職を配置
- ・ サービス提供時間：日曜・1月1・2日を除く、6～7時間(短時間は応相談)
- ・ 中重度利用者向けにリフト付きの福祉車両、特殊浴槽(ミスト浴)も整備

2. 2023年の目標

- ・ 自然災害と新型コロナウイルス感染症の影響を最小にとどめ、営業を継続する
- ・ 「やりたいことを実現する」、「自立支援」、「重度化予防」を合言葉に多職種で取り組む
- ・ ICTを積極活用した情報連携と、業務効率化を図る
- ・ 従事する職員が働きやすい環境を整える

3. 実績

- ・ 1日平均利用者数 : 29.94名 (※1参照)
- ・ 平均介護度 : 2.05
- ・ 7月豪雨による浸水被害の影響で3日間の完全休業、9日間は部分営業
- ・ アスリート介護職の採用 : ラグビーチームより(ルリーロ福岡、ナナイロプリズム)

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

通所介護や認知症グループホームと「生活機能向上」の連携：リハビリ専門職の派遣
久留米市主催 シニアアート展：利用者様の作品出展(2月)
テレビ取材：BSテレ東 日経ニュースプラス9(11月)
「データで読む 地域再生～人手不足解消へ 異例のラグビーチーム～」

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

生活行為向上リハビリテーションマネジメント研修 修了：1名
認知症介護基礎研修 修了：4名

6. 実習指導

2023年6月：福岡リハビリテーション学院 4学年

地域リハビリテーション実習 5日間 1名

7. 振り返りと今後の展望

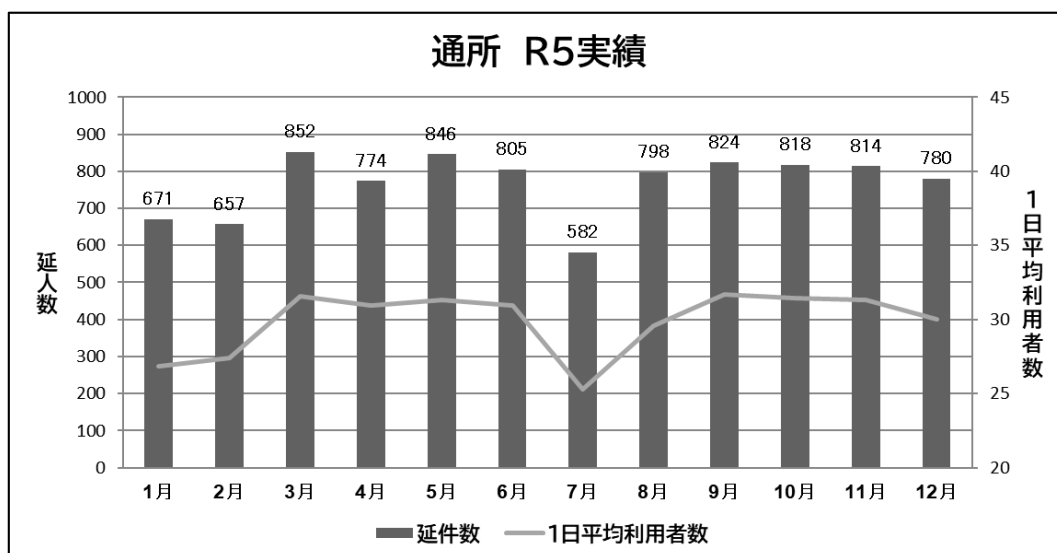
ご利用者層は、介護度が中重度、医療的ケアの必要な方の利用ニーズが多かったです。

新型コロナウイルス感染症の流行は防げましたが、大規模改修完了で内覧会(5月)を終えたばかりの7月に豪雨被害を受けてしまいました。自然災害や感染症に対する事業継続計画を今後も検討していきます。

職員の働きやすい環境の整備として、介護に関する人材の確保が厳しくなっています。

その対応として、効率的な業務体制への見直しを進めていきます。

※1



1. 業務内容・活動内容

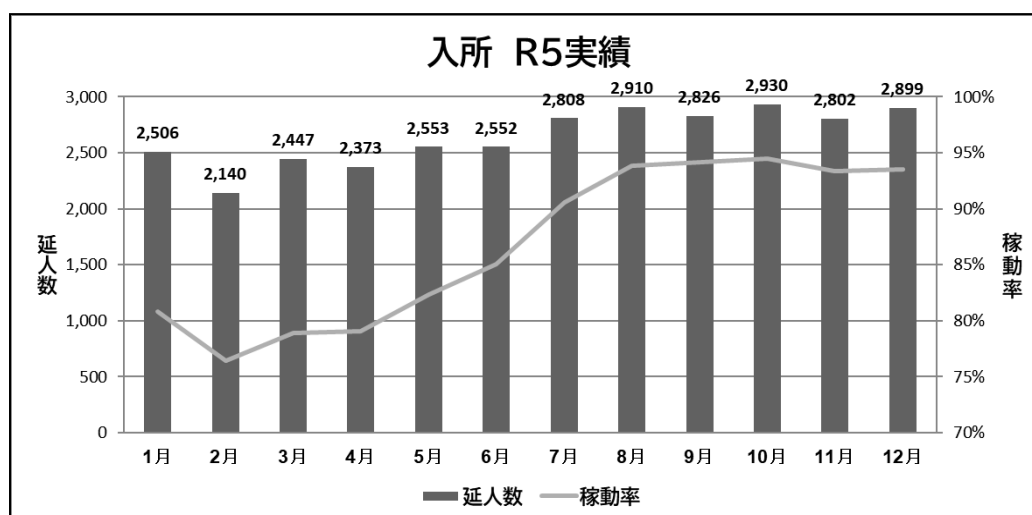
- ・ 施設名 サンライフ聖峰
- ・ 田主丸中央病院を協力医療機関とする介護老人保健施設で、施設サービスを提供
- ・ 老健みなしで短期入所療養介護、通所リハビリテーションの居宅サービス事業を併設
- ・ 介護保険の施設サービス計画に基づき、要介護高齢者の療養生活を支援
- ・ 法人内外との連携を図り、「超強化型」の施設類型を維持

2. 2023年の目標

- ・ 大規模改修期間中も安全に配慮したサービスを提供と改修後の稼働率回復
- ・ 自然災害と新型コロナウイルスの影響を最小にとどめる
- ・ ICTを積極活用した情報連携と、業務効率化を図る
- ・ 従事する職員が働きやすい環境を整える

3. 実績

- ・ 平均稼働率 : 86.9%
- ・ 平均介護度 : 3.32
- ・ 施設類型 : 超強化型施設



4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

実績なし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

介護福祉士 : 2名

認知症介護基礎研修：2名

6. 実習指導

2023年7月 :西日本短期大学2学年 実習(I)-3 7日間 1名
2023年8月～9月 : 同上 実習(II) 21日間 1名
2023年11月 :小郡特別支援学校高等部2学年 現場実習 5日間 1名

7. 振り返りと今後の展望

2023年5月中旬までの大規模改修工事により、稼働率が低迷せざるを得ず、業績悪化要因となりました。

改修後は稼働率を上げるため病院等からの受け入れを行いました。その結果、8月からは稼働率93%以上となり、超強化型老健の運営を維持できました。

8月に入所利用者さまの新型コロナウイルス感染が判明しましたが、感染対策の徹底により拡大が防止できました。

今後は、引き続き感染対策を徹底するとともに、稼働率97%以上を目標とし、超強化型老健の維持に取り組んでいきたいです。

(文責:大隈 ひとみ)

1. 業務内容・活動内容

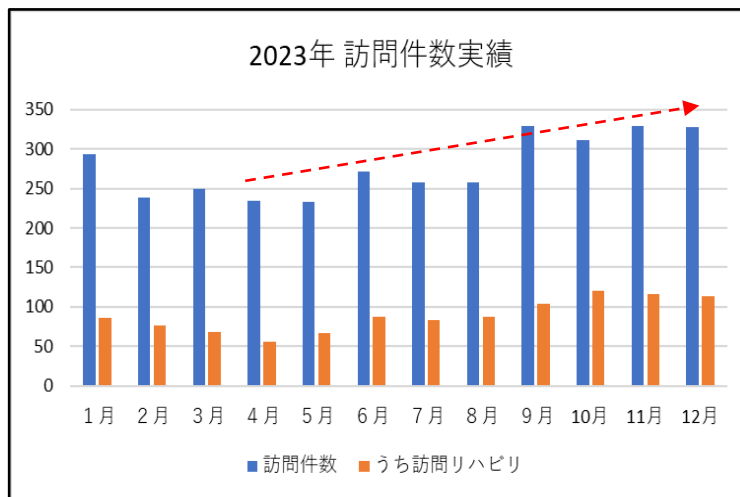
- ・介護保険法・医療保険法に基づき、指定訪問看護・指定介護予防訪問看護サービスを提供しています。医師の指示のもと、介護保険ではケアマネジャープランに沿って利用者宅に訪問し看護ケアを行います。
- ・訪問看護師が利用者宅に訪問し、病状や療養生活状況を専門的視点で観察し、必要なケアや処置を行います。ご家族へは介護負担を軽減できるようアドバイスを行い、利用者・家族双方のQOLの向上に努めています。
- ・在宅での看取りにおいて、ご本人・ご家族に寄り添いながら、訪れる最期を安心して迎えられるよう支援しています。
- ・バイタルサインなどの状態把握から、服薬管理や入浴介助などの看護ケア、留置カテーテル管理、輸液、酸素吸入管理、人工呼吸器管理、人工肛門管理、創傷や褥瘡の管理、血糖やインスリンの管理指導、訪問リハビリなど多岐にわたり行っています。
- ・看護師特定行為実施(在宅・慢性期パッケージ)しています。

2. 2023年の目標

- ・経営分析の強化と経営へのフィードバックを行い、訪問件数 240 件/月を達成する
- ・本人・家族の『帰りたい』を支え、地域・在宅での生活を支援する

3. 実績

2023年 利用者の推移		
	新規	終了
1月	5	5
2月	6	5
3月	3	6
4月	4	2
5月	3	7
6月	7	0
7月	3	5
8月	5	2
9月	7	4
10月	4	3
11月	2	1
12月	5	0
計	54	40



4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・看護専門学校 地域・在宅看護援助論 I 非常勤講師
- ・浮羽医師会 研修・実践発表
- ・第13回日本在宅看護学会学術集会 参加

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6. 実習指導

- ・ 久留米大学医学部看護学科: 1/10~1/19(2人)
- ・ 高尾看護専門学校: 5/9~5/19(1人)
11/14~11/24(2人)
- ・ 精華女子高等学校看護専攻科: 6/5~6/16(2人)
10/2~10/13(2人)
10/16~10/27(2人)

7. 振り返りと今後の展望

管理者の交代に伴い、改革に取り組んだ1年でした。7月に豪雨災害で被災し、ステーションも被害に遭いましたが、スタッフ一同団結し乗り越えることができました。8月に看護師1名、10月にセラピスト(理学療法士)2名ステーション所属となり、コンスタントに新規利用者獲得できました。

緩和ケア病棟、一般病棟、他の病院から医療依存度の高い利用者様や終末期の利用者様を切れ目のなく受入れることができました。また、急な依頼にも対応できるようにスタッフ一同業務改善に取り組み、業績を伸ばすことができました。

今後は今以上に個々のスタッフが、利用者様一人一人に寄り添い、多様性に対応し、『自宅に帰りたい・自宅で過ごしたい』を支えられるように、柔軟性に特化した質の高いケアを提供できるステーションを目指します。

訪問対象地区は在宅療養者の殆どが高齢者で占めており、今後も在宅医と共に利用者様・ご家族が住みなれた地域で安心して過ごして頂けるように、支えていきたいと考えています。

(文責:古賀 慶子)

1. 業務内容・活動内容

- ・ フィットネスクラブ 運営管理
- ・ 久留米市・うきは市介護予防日常生活支援総合事業運営管理
- ・ 健康づくり教室(田主丸総合支所連携)
- ・ 介護予防事業・ヘルス入居者へ運動指導(ひじり会連携)

2. 2023年の目標

- ・ フィットネスクラブにおける会員数の向上
- ・ 元気デイ・うきはデイにおける登録者数の向上
- ・ 施設周知度の向上

3. 実績

フィットネスクラブにおける一般会員数の変動(名)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
129	129	125	128	130	126	128	121	121	103	102	101

元気デイ・うきはデイにおける登録者数の変動(名)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
元気デイ	28	29	32	31	34	34
うきはデイ	4	5	5	6	7	7
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
元気デイ	34	34	33	34	34	32
うきはデイ	7	7	5	5	5	5

施設周知度の取り組み

SNSの活用(2023年9月Instagram開設)

パンフレットリニューアル

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

該当なし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

フィットネスフラインストラクター:江口 雅代

チェアフラ:江口 雅代

6. 実習指導

該当なし

7. 振り返りと今後の展望

フィットネスクラブにおいて、6月末までは、1日平均利用者数の増加は見られましたが、7月の豪雨災害により、休館、営業再開後の営業時間短縮に伴い、会員数の減少が見られました。元気デイ、うきはデイにおいて、登録者数の向上は見られ、地域における本事業の必要性を今後も発信していきたいと思います。豪雨災害による復旧では、ボランティアの方々にも助けられ何とか営業再開できる運びとなりました。これからも地域の方々の健康寿命延伸のため、運動を通じて交流ができる場を提供していきたいと思います。

(文責:平山 幸輝)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 介護保険認定を受けられている方(要支援者、要介護者)が利用できる通所リハビリテーション
- ・ 「自立」「社会参加」を目標に、通所リハビリでの運動と自宅での運動の両立を図り、健康の維持・増進を目指し各個人に合った運動メニューにて、楽しみや張りのある生活が送れるよう支援
- ・ 一日の流れとして、利用者様をご自宅までお迎えに行き、施設に到着後、看護師によるバイタルチェックを実施
- ・ 理学療法士・運動指導士が中心となり、個別訓練の実施や体操、その他入浴に課題がある方には、入浴サービスを実施
- ・ 午後から運動指導士による集団体操、介護福祉士によるレクリエーションといったプログラムを実施
- ・ 上記を行い、「動くこと」をテーマに利用者様とスタッフが一体となり、日々のトレーニングに励んでおり、リハビリ終了後は、ご自宅までお送り
- ・ 月に1回、体力測定を実施しており、握力・脚力・バランス能力・歩行時間など課題を要する分野を把握し、定期的にリハビリメニューの見直しを実施
- ・ 利用者様をスタッフ担当制にし、医学的管理の徹底を強化し、利用者様の日々の変化に気付けるように、質の高いサービスが提供できる通所リハビリテーションを目指す

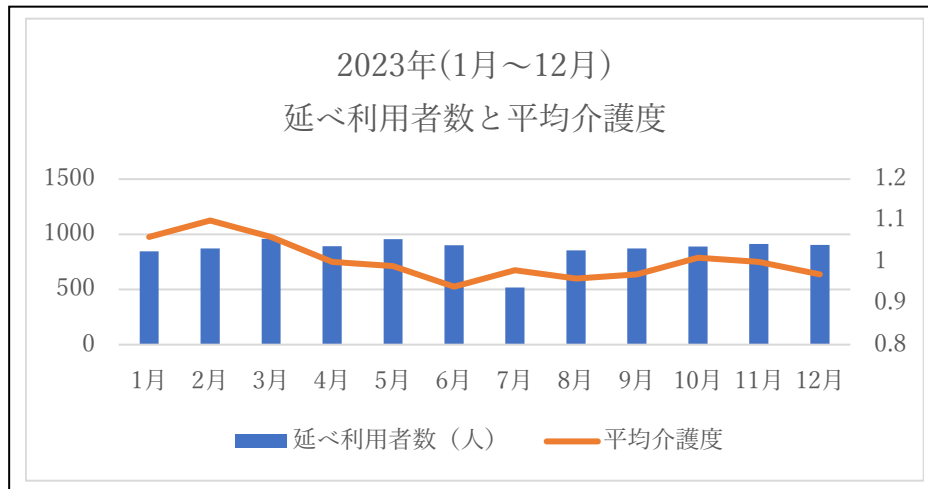
2.2023年の目標

- ・ 利用者様一人一人に寄り添い、住み慣れた住居で末永く安心して生活できるように、運動面・精神面からサポート
- ・ 利用者様及びご家族、他の関連機関から信頼される事業所を目指す
- ・ 2022年の実績を上回る事ができるような業績を目指す

3.実績

2023年の1月は、例年とほぼ同じ業績でスタートしましたが、2月以降はご利用者数の増大に伴い、徐々に業績が回復致しました。4月以降には要介護の終了者様が徐々に増大しました。7月には豪雨被害もあり、業績が低迷した結果となっております。8月以降は、徐々に利用者獲得を図る事ができ、前年度よりやや低い水準まで業績回復が図れております。

2023年12月末時点での登録者数は142名と、前年度同月139名に比べ3名増大(要介護者4名増、要支援者1名減)、平均介護度は1.07から0.97へ減少している状況です。



4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 「耳納の市」参加予定するも中止の為、不参加
- ・ 「介護予防フェスタ in 田主丸」参加予定するも中止の為、不参加
- ・ 学会発表:該当者なし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6. 実習指導

- ・ 医療福祉専門学校緑生館:見学実習(2023年2月5日間)
- ・ 精華女子高等学校看護学生:見学実習(2023年6月19日・20日, 9月29日, 10月10日・30日・31日)

7. 振り返りと今後の展望

今後、通所リハビリ施設の利用者は益々高齢化することが予想されます。基礎疾患を多く抱えておられる高齢者にとっては、体調の異変にいち早く気づき、早めの受診が必要であると考えます。その一翼を担う施設でありたいと思っております。その取り組みと当施設での適度な運動により、少しでも健康寿命の延伸に繋がる事を目指しております。

今後も感染対策の徹底を図り、当院、近隣病院、その他の介護支援事業所との更なる連携を強化し、利用者様に愛される通所施設を築いていきたいと考えております。

(文責 堀川 邦之)

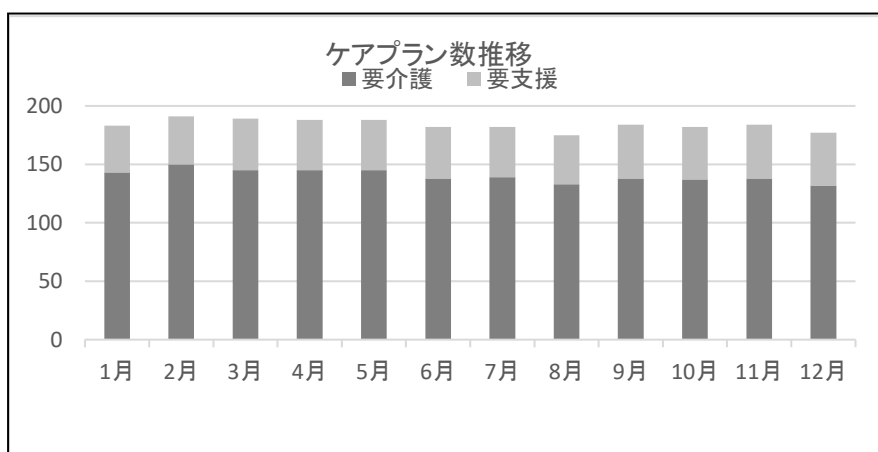
1.業務内容・活動内容

- ・ 介護保険に関する一般相談
- ・ 要介護認定申請代行、介護保険に関する書類作成
- ・ ケアプラン作成
- ・ 住宅改修相談・調整
- ・ 福祉用具貸与・購入相談
- ・ 在宅サービス提供事業所、行政機関との連絡調整
- ・ 給付管理
- ・ 苦情受付
- ・ 入所に関する情報提供
- ・ 他法人と共同で地域の居宅介護支援事業所向けの研修会実施

2.2023年の目標

- ・ 入職後の教育方法とケアの見直し
- ・ 研修会で習得した取り組みの実施
- ・ 運動習慣を身につける
- ・ 計画的な備品納入
- ・ 全員参加型の運営
- ・ BCPマニュアル作成

3.実績



4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

他法人と共同で研修会実施(耳納の会)

1月11日 感染症蔓延のため中止

3月9日 令和4年度反省会

4月13日 令和5年度計画

7月13日 生活支援課招いての勉強会(水害のため不参加)

10月12日 事例検討会、

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

1月11日 内容:久留米大学医学部看護学科学生2名に介護保険制度説明

5月9日 内容:高尾看護専門学校学生1名に介護保険制度説明

6月5日 内容:精華女子高等学校学生2名に介護保険制度説明

10月2日 内容:精華女子高等学校学生2名に介護保険制度説明

10月17日 内容:精華女子高等学校学生2名に介護保険制度説明

11月14日 内容:高尾看護専門学校学生2名に介護保険制度説明

7. 振り返りと今後の展望

5月に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症となりましたが、まだまだ高齢者世帯の中には感染症を警戒する方がおられることから、市役所が行なう介護保険の認定調査について、令和5年度末まで現行の要介護度を引継ぎ有効期間延長する取り扱いが続いています。

7月には大雨で床上浸水受けるなど異常気象を痛感する年でもありました。

2024年は介護保険制度の改正の年で、より広範囲な知識が求められるようになります。

また、来年は看護学校からの新規実習生受け入れや介護支援専門員実務研修生の受け入れも控えています。

通常の業務に加えて育成業務、法改正に伴う研修などもありますので、効率良い働き方をしていきたいと考えています。

(文責:堤 猛)

1. 業務内容・活動内容

介護保険法令の趣旨に従って利用者が可能な限りその居宅においてその有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにケアプランの作成を行ないます。また居宅介護支援サービスを通して地域の高齢者の方の健康維持・増進に役立つことを年頭に業務を行なっています。

・訪問エリア 久留米市(太郎原、山本、草野、善導寺、大橋)

・スタッフ

・主任介護支援専門員 4名 (内1名:管理者:堤 将司)

※職員退職のため令和5年4月のみ3名体制。

・業務内容(現在取り組む業務)

・24時間体制の対応で必要に応じた相談受付業務

・下記の内容の検討会を週に1回程度開催し日々の業務に取り組んでいます。

(1)現に抱える処遇困難ケースについての具体的な処遇方針

(2)過去に取り扱ったケースについての問題点及びその改善方策

(3)地域における事業者や活用できる社会資源の状況

(4)保健医療及び福祉に関する諸制度

(5)ケアマネジメントに関する技術

(6)利用者からの苦情があった場合は、その内容及び改善方針

(7)その他の必要な事項等

・要介護者等が心身の状況等に応じた適切なサービスが利用できるように各関係機関との連絡調整。

・利用者の状況、希望により、入所・入院の援助。

・各市町村(介護保険の保険者)の依頼を受け、要介護認定の委託調査も実施。

2 2023年の目標

・新人職員の教育の充実

・担当件数の目標

・職員の健康づくり

・研修会等参加

・環事業場境整備

・書類整理廃棄の実施

・国保のケアプランデータ連携システムの導入に向けた学び

・BCPマニュアル作成のための勉強会等受講

3. 業績(業務)報告

2024年 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
介護保険件数	75	72	76	75	76	75	77	72	72	78	77	78
介護予防件数	35	35	36	34	33	30	30	32	33	35	36	35
計(件数)	110	107	112	109	109	105	107	104	105	113	113	113

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣なども含む)

- ・介護予防ケアマネジメントスキルアップ研修:参加
- ・主任介護支援専門員の役割について:参加
- ・自立支援ケアマネジメントについて:参加
- ・ケアプラン点検①:参加
- ・ケアプラン点検②:参加
- ・気付きに繋がる事例のとらえかた:参加
- ・みのうの会事例検討『妄想や作話があり対応に苦慮している事例』:参加
- ・みのうの会 成年後見制度について:参加
- ・感染・医療安全:参加
- ・介護保険制度及び地域包括ケアシステムの動向:参加
- ・リハビリテーション及び福祉用具の活用に関する事例:参加
- ・看取り等における看護サービスの活用に関する事例:参加
- ・認知症に関する事例:参加
- ・入退院時における医療との連携に関する事例;参加
- ・家族への支援の視点が必要な事例:参加
- ・社会資源の活用に向けた関係機関との連携に関する事例;参加
- ・状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例:参加
- ・医療暴力・ハラスメント予防と対策:参加
- ・心不全の緩和ケア:参加

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

主任介護支援専門員 横山恵理子

6. 実習指導

令和5年は介護支援専門員の実習指導を実施はありませんでした。

7. 振り返りと今後の展望

令和5年7月の水害被災では竹野校区をはじめ、大橋校区や草野校区の利用者様に対して緊急の対策等を行いました。

令和2年度に私ども事業所では、災害に関するアンケートを実施し、必要な準備を行っていましたが、巨勢川や筑後川沿いのエリアにおける内水氾濫等についての対策準備が中心で、耳納山脈沿いの災害については想定していませんでした。今後はその反省を踏まえて、平素より災害を想定した対策をきめ細かに行っていきたいと思います。

また、定年退職者がありましたが、その後新たな職員を迎えることができました。十分に経験のある職員で、早速主任ケアマネ取得等の必要な研修を早々に実施し、層の厚い相談体制の構築に向けて努力をしております。

(文責:堤 将司)

委員会

DPC 委員会

1. 委員会の目的

- ・【DPC 対象病院施設基準】多職種で構成された委員会を年4回以上開催すること。
- ・適切な DPC コーディングを行うこと。
- ・病院の利益確保/経営支援に資する DPC データを用いた収支分析等を行うこと。
- ・病床管理に資する症例分析・運用検討を行うこと。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 委員会の開催 2023/08/29 2023/10/27 2023/12/08 ※2024/02/22
- ・ DPC の分析・適切なコーディングの検討
- ・ 加算等算定状況分析（収益確保に向けた運用改善）
- ・ 医局での周知等の実施

3. 振り返りと今後の展望

多職種（医師・看護師・薬剤師・事務）により構成されたメンバーによって、DPC の特性やコーディングの妥当性を分析・検討し、適切な請求を行うと共に、病院の収益確保を確保する。ほか、DPC に関わる様々な分析・検討を行った。上記開催日※について、電子カルテ更新と水害対応により、年度での4回開催とした。

出来高差乖離症例の再確認など、1例あたりの出来高差が2022年ごろから大幅に改善傾向にある。今後も、適切かつリアルタイムなコーディングの実施に向けて検討していく。

4. メンバー

- ・ 委員長: 鬼塚一郎(医師)
鬼塚明子、後藤伸、野田祐司、島松淳一朗、西原功(医師)、橋口亮(薬剤師)、赤穂弘枝(看護師)、石飛隆敏、宮竹優、水谷駿介、宮川圭、石井佑一(事務)、城崎俊典(外部委員)

(文責:水谷駿介)

NST 委員会

1. 委員会の目的

NSTとは Nutrition Support Team の略で、栄養サポートという意味です。効果的な栄養療法を選択・実施する医療チームであり、栄養状態に問題のある患者様に適切な栄養療法を選択・実施することにより、治療効果を高め、在院日数の短縮、医療費の削減に貢献します。さらに活動を通して病院全体の医療レベルの向上と自己啓発を図ることを目的としています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 院内全体研修の開催(1回/年)
- ・ NST 回診の実施(1回/週)
- ・ 勉強会の実施(12 回/年)
- ・ NST ニュースの発行(4 回/年)
- ・ 合同カンファレンスの開催(12 回/年)

3. 振り返りと今後の展望

本年は電子カルテ入れ替えに伴い、NST システムについて新システムへの切り替えのため、ワーキングにて検討を重ね 4 月に導入となりました。委員会全体の目標については「各部署の課題を明確にし栄養改善に取り組む」とし、各部署ごとに年間小目標を決め活動を行いました。さらに NST 主催による全体研修は、テーマ「認知症患者の摂食嚥下と食支援」について、Web研修を開催しました。院内参加者 425 名、参加率 72.1%でした。その他、「NST ニュース」の発行や勉強会を通してスキルアップの向上に努めました。また連携活動として褥瘡チーム、感染チームとの合同カンファレンスを行う取り組みを開始することができました。

今後は、早期介入に向け、多職種連携の他、各チームと情報の共有を行うことで低栄養や褥瘡の改善、さらに重症化予防に繋げていきたいと考えます。

4. メンバー

- ・ 委員長(医師):篠崎 広嗣
- ・ 専任(管理栄養士):刈茅 靖子
- ・ 歯科医師:鬼塚 徹
- ・ 看護部長:赤穂 弘枝
- ・ 病棟看護師:手島 由貴、日野 実夏、森岡 詩和、毛利 夏海、松尾 茉莉奈、本石 玲渚、田代 照美、高浪 さおり、浦 紀子、藤川 慶輔、富永 幸子、田邊 宏美、末

次 恵理、中村 梓、井浦 浩子、江藤 美帆

- ・ 薬剤師：坂田 昇平
- ・ 言語聴覚士：近藤 良太、瀧野 ちひろ
- ・ 歯科衛生士：小楠 遼子

(文責：刈茅 靖子)

安全衛生委員会

1. 委員会の目的

労働安全衛生法の主旨に沿い、医療法人聖峰会の定める就業規則に基づき法人の運営する事業場の労働安全衛生管理に関する基本的事項を定め、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保することを目的とする。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 毎月の定例会と院内巡視
- ・ 年間計画に沿って実施（安全衛生, 健康, 職場環境, 教育, 防災訓練 等）
- ・ 全体研修：2023.11 「安全衛生委員会の目的と活動内容」

3. 振り返りと今後の展望

- ・ 令和5年度計画
 1. 過重労働、長時間労働の管理を行い、メンタルヘルス不調者を発生させない（高ストレス者、長時間労働者に対する医師面談実施等のケア促進）。
 2. 令和5年度有給休暇取得率を向上(全体70%以上目標)とする。年次有給休暇5日以上取得の定着化促進。
 3. 法人管理フィットネスセンター(サンヘルス聖峰)の積極的な利用を促進し、職員の健康増進を図る。
 4. 安全運転管理の徹底(交通災害0件)。
 5. 定期健康診断・特殊健康診断の受診率を100%にし、2次検診を受診させる。
 6. アルコールチェック義務化の法改正に伴い、運用管理を強化し、飲酒運転根絶を推進する。

年間計画に沿って推進活動は一定程度実施できたが、今後も新たな計画を策定し、継続していく。

4. メンバー

- ・ 委員長:林田 昭彦(事務)
- ・ 加藤 宏司(医師), 野田 祐二(医師), 赤穂 弘枝(看護師), 上原 辰則(看護師),
- ・ 今村 里美(看護師/医療安全), 橋口 亮(薬剤師/職員協議会), 木村 知子(保健士), 角野 浩一(放射線技師), 刈茅 靖子(管理栄養士), 松尾 鎌太(介護福祉士), 魚谷
- ・ 和夫(施設), 山本 和雄(事務), 宮竹 優(事務), 古賀 友和(事務), 清水 啓祐(事務), 内海 幸雄(事務), 林田 圭祐(事務)...

(文責:林田 昭彦)

医薬品安全管理委員会

1. 委員会の目的

医療法(昭和23年法律第205号)第6条の10、及び医療法施行規則の一部を改正する省令(平成19年厚生労働省令第39号)第1条の11、第2項第2号の規定に基づき、医療法人聖峰会田主丸中央病院(以下、当院)における医薬品に係る安全管理のための体制に関し、必要な事項を定める。業務手順書の作成及び変更、業務手順書に基づく業務の実施及び確認、医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施、医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施を行う委員会である。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 業務手順書の作成及び変更
- ・ 医療従事者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施(麻薬について、レブラミドの取り扱いについて)
- ・ 業務手順書に基づく業務の実施及び確認
- ・ ハイリスク薬の見直し
- ・ 院内製剤取り扱いの手順の見直し
- ・ 未承認薬・適応外使用薬の取り扱い手順の見直し

3. 振り返りと今後の展望

2023年4月より委員会規程及びメンバー構成を見直し、より実務的な内容を議論、実施するようになった。そのため今年度は、手順書を含めマニュアルの見直しに限定した活動が多くなってしまった。今後、実務に即し、かつ分かりやすい手順書やマニュアルを完成させた後、しっかり運用することで医薬品の安全使用が順守されてようサポートしていく。

4. メンバー

常時メンバー

- ・ 委員長:島松 淳一郎(医師)
委員:赤穂 弘枝(看護師) 平山顕行(看護師) 甲 布美子(事務) 橋口亮(薬剤師)
- ・ 必要時招集メンバー
角野 浩一(放射線技師) 石飛 隆敏(事務) 今村 里美(看護師)

(文責:橋口亮)

1、業務内容、活動内容

- ・医療ガス供給元設備の維持管理。
- ・病棟等の医療ガス末端設備（アウトレット）の維持管理
- ・聖峰会全職員の医療ガス安全管理の知識啓発及び向上

2、2023年の目標

- ・医療ガス設備を良好な状態に維持するとともに、保全を継続して行う
- ・医療ガス設備の故障、事故等を未然に防止する

3、実績

- ・(株) エフエスユニによる医療ガス供給元設備年次保守点検を年4回実施
- ・(株) 福岡酸素による液体酸素供給設備年次保守点検を実施して、医療ガスの正常適正な供給に努めました。
- ・医療ガス安全管理委員会を開催し、委員全体の情報共有に努めました。

4、対外活動

- ・なし

5、2023年に新たに取得した専門・確定資格

- ・なし

6、実習指導

- ・職員全体研修にて、令和5年7月10日の大規模水害時における医療ガス設備の現状、今後の対策等の研修を行ないました。

7、振り返りと今後の展望

- ・7月の大規模な水害によって、医療ガス供給元設備である圧縮空気供給設備が水没して故障した為、仮設の供給設備を(株) エフエスユニの提供により設置し、水害時においても正常なガス供給ができました。
新規供給設備の設置計画もあり、今後も正常、適正な医療ガス供給に専門業者と連携して努めてまいります。

(文責：林田秀樹)

2023年 医療安全管理委員会

1. 委員会の目的

田主丸中央病院医療安全管理委員会は、田主丸中央病院における「質の高い医療の提供」に不可欠な安全管理体制を維持していくために、医療事故への安全対策を実施することによりその発生を防止することを目的とする。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 定例報告(インシデント及びアクシデント件数・転倒転落件数・事例共有・地域連携相互ラウンド:加算1連携・加算1.加算2連携)
- ・ 下部組織報告(セーフティマネージャー会・5S推進会)と各種委員会報告(医薬品安全管理委員会・医療機器安全管理委員会・透析安全管理委員会・医療ガス安全管理委員会・診療放射線安全管理委員会)
- ・ 医療安全週一カンファレンス実施(毎週金曜日開催)
- ・ 医療安全情報発信(外部情報と院内事例関連:毎月)
- ・ 超音波赤外線センサー動作チェック開始(2月)
- ・ 転倒転落予防同意書作成(3月)
- ・ 委員会メンバー見直しと変更(3月)
- ・ 報告書タイトル変更:「インシデント報告書」から「出来事報告書」へ(5月)
- ・ 禁忌情報登録手順変更(9月)
- ・ 末梢静脈確保フロー作成(9月)
- ・ 持参薬返却手順変更(10月)
- ・ リストバンド装着フローと未装着申請書作成(10月)
- ・ 全体研修:テーマは患者誤認防止(6月・11月 参加率:100%)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
レベル0	7	7	4	7	5	6	6	12	10	6	8	5	83
レベル1	30	17	22	15	14	13	5	22	15	22	23	19	217
レベル2	7	2	29	16	17	10	11	14	6	20	13	13	158
レベル3a	56	38	56	6	10	10	10	7	13	15	4	12	237
その他	2	6	3	3	1	2	0	2	4	1	4	1	29
レベル3b	2	5	4	4	0	2	3	3	2	2	0	1	28
レベル4a	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
レベル4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
レベル5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合併症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	104	76	119	51	47	43	35	60	50	66	52	51	754

3. 振り返りと今後の展望

23年4月より、委員会体制を見直しメンバーを変更しました。また、同年4月より、電子カルテ更新に伴い報告書入力システムの変更となり、報告書入力の周知が全職員の実施に時間を要してしまったことで出来事報告の件数が極端に減少してしまいました。レベル 4a 以上の医療事故は発生しませんでした。重大事例に繋がるかもしれない小さなインシデントを見落としてしまっている可能性があると考えます。上がった報告書から改善に繋がった事例を更に発信し、自ら報告する体制を整え、報告された内容から安全文化の構築へ繋げていこうと考えています。

今年は、末梢静脈確保部位の静脈炎からの皮膚壊死事例が2例発生しました。観察及び、カンファレンスが適切に実施出来ていなかったこと等の課題が見えたので、継続して「教育」と「カンファレンスの内容」等の検討を行い、同様事例の発生を予防したいと考えております。

4. メンバー

委員長：本田 順一(医師)・副委員長：今村里美(看護師)・野田 祐司(医師)・赤穂 弘枝(看護師)・林田 昭彦(事務)・橋口 亮(薬剤師)・高浪 公通(臨床工学技士)・石飛 隆敏(事務)・樋口 昭子(臨床検査技師)・角野 浩一(臨床放射線技師)

(文責：今村 里美)

医療機器安全管理委員会

1. 委員会の目的

ME 機器使用時における安全管理体制の見直しや、医療安全情報の報告及び本院での安全対策の検討を行うことで、医療事故発生率の低減と重症化の予防を目的としています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 病棟機器チェックリスト問題点等の協議・改訂
- ・ ME機器に関するヒヤリハットの情報共有
- ・ 機器の更新、仕様変更に伴う操作説明
- ・ ME機器に関する物品、書類、掲示物等の見直し
- ・ 災害時医療機器チェックについての協議
- ・ 5項目の機器テスト実施と結果のフィードバック
(酸素ポンプ、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器、NPPV)
- ・ 各部署委員会担当者へのレクチャー実施

3. 振り返りと今後の展望

医療機器の安全管理において、医療機器に関する医療事故・ヒヤリハットについての情報共有、対策の協議を行い、再発防止に努めています。また例年、医療機器に関する問題点、意見を臨床工学科、各部署より収集し、それを議題としておりますが、本年は豪雨災害に被災し、その振り返りと見えてきた課題への対策や検討も併せて行っております。

教育面では病棟機器テストを実施し、結果のフィードバックを行っています。また、各部署の委員が部署内で医療機器に精通できるよう、委員会内でもレクチャーを行ない医療機器の知識向上を図っています。

今後は臨床工学科と看護部の連携をますます強化し、医療機器を安全に使用できる環境を整え、医療機器関連の事故0を目指し活動を行っていきます。

4. メンバー

- ・ 医療機器安全管理責任者：高浪 公通(臨床工学技士)

- ・ 合澤 伸一郎(臨床工学技士)、中村 真樹(臨床工学技士)、今村 里美(看護師)、右田 早苗(看護師)、平野 詩織(看護師)、吉松 璃莉華(看護師)、森 小夏(看護師)、森山 靖之亮(看護師)、別府 幸美(看護師)、猪口 優美(看護師)、原田 沙希(看護師)、丸山 穂佳(看護師)、星野 朋子(看護師)、田邊 宏美(看護師)、桑野 真奈(看護師)、池田 佳代(看護師)、山下 江梨那(看護師)、江藤 美帆(看護師)、惠良 海紗希(看護師)、酒井 ゆかり(看護師)

(文責:合澤 伸一郎)

医療放射線管理委員会

1. 委員会の目的

放射線診療のプロトコール管理及び被ばく線量管理並びにこれに付随する業務を行う。また、放射線業務従事者等の被ばく管理・研修等を行う。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・管理・記録対象医療機器等(CT装置・血管造影装置・放射性同位元素等)を用いた放射線診療時の被ばく線量管理及び記録
- ・放射線業務従事者の被ばく線量管理及び特定業務健診の管理
- ・医療放射線研修(院内職員対象)の実施(2023.1.16-1.25)
- ・医療放射線管理委員会(2023.10.20)

3. 振り返りと今後の展望

放射線医療機器の管理、放射線診療を受ける者の被ばく線量の管理・記録、院内スタッフへの研修および放射線業務従事者の被ばく管理、健診の実施・記録を予定通り行った。

本年は豪雨災害でほぼ全ての放射線機器が更新となったため、新たにシステムの再構築を行った。今後はより安全・安心に放射線診療が行えるよう努める。

4. メンバー

- ・ 医療放射線安全管理責任者:野見山 圭太(放射線科医師)
- ・ メンバー:加藤 宏司(循環器内科医師)、角野 浩一(診療放射線技師)、石橋 英紀(診療放射線技師)、田中 智哉子(看護師)

(文責:角野 浩一)

1. 委員会の目的

病院において感染症の予防に関する事項を調査審議し、課題について見解の答申、病院としての方針を決定する。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 報告事項(病棟別耐性菌検出状況、CD 感染症発生報告、コロナ感染症発生状況、インフルエンザ発生報告、針刺し切創報告、部署別擦式消毒剤使用量、抗菌薬使用状況、ゴミ分別間違いの状況、全体研修、加算1相互ラウンド報告、感染向上加算関連)
- ・ コロナ感染性廃棄物容器をペール缶→段ボールへ変更(3 月)
- ・ 吸引チューブ単回使用へ変更(口腔内、気切吸引マニュアル改訂)(7 月)
- ・ 手指消毒剤使用量低下部署(北 3 階、北 1 階)より原因と対策を報告
- ・ 病棟入浴場の清掃状況確認ラウンド(7 月)
- ・ 食器洗剤の詰め替え禁止(9 月)
- ・ CVカテーテル関連血流感染、血液培養コンタミ率報告(2023 年 4 月～9 月分)(10 月)
- ・ 院内感染マニュアル改訂(第 2.0 版発行)、部門別感染対策マニュアル発行(11 月)

3. 振り返りと今後の展望

23 年の動きで大きかった事は、院内感染対策マニュアル第 2.0 版が発行できたことである。感染対策の手順を提示することでローカルルールを減らし業務の効率化が図れる。また紙運用を中止し電子版にしたことで常に最新版を確認することができ乖離が防げる。しかし、作った事に満足せず必ず 1 年に 1 回以上は最新知見に沿った更新を継続する。

院内コロナ感染症に関しては各病棟から院内発生した。

課題として、職員の接触予防策の理解と正しい防護具の着脱手順(どこでどのように脱ぐのか)が不足していると感じた。また感染対策の基本である標準予防策の概念の理解と具体的な手順を理解し実践できるよう次年は感染リンク、ICT への教育を行っていく。

院内の感染率に関しては、今年を中心静脈カテーテルのみだったが、次年は手術創部感染、尿道留置カテーテル関連感染、呼吸器関連肺炎に関しても当院のデータベースを算出し、感染率低減に向けた取り組みを開始したい。

4. メンバー

委員長:本田順一(医師) 副委員長:右田早苗(看護師) 鬼塚一郎(医師)

林田昭彦(事務部) 赤穂弘枝(看護師) 樋口昭子(検査技師) 橋口亮(薬剤師)

(文責:右田 早苗)

栄養委員会

1. 委員会の目的

病院給食の質の向上、安心・安全な食の提供及び個々の身体状況に応じた栄養管理と効率的な運営を図ることを目的にしています。そのために、問題や改善に向けた事項を検討し、かつ医師、看護師、事務部門やその他部門との調整や連携を行い、サービス向上の適正化や円滑な運営に努めています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 栄養指導の実施(外来・入院・糖尿病教室)
- ・ 栄養基準及び食種内容の見直し
- ・ 栄養補助食品の使用検討
- ・ 献立内容(行事食・個別対応食)の検討
- ・ 嗜好調査の実施

3. 振り返りと今後の展望

本年の取り組みとして、栄養基準や食種の見直しを行いました。これにより、嚥下調整食、クォーター食が追加となりました。また、栄養補助食品について、病棟ごとに補助食品提供患者一覧表を作成し、委員会で報告、難渋する症例に対しては委員会内で意見交換を行うなど適正使用に努めました。今後も、安心・安全な食の提供及び低栄養の改善、QOL の維持・向上にむけ、多職種協働で活動を行っていきたいと思います。

4. メンバー

- ・ 委員長(医師):鬼塚 明子 ・副委員長(副看護部長):福嶺 初美
- ・ 病棟看護師長:小柳 敬、大熊 俊洋、畑 晶子、江藤由美、井手 由理恵、高橋 由紀子、村田 修一、國武 朱美、上原 辰則、平山 顕行
- ・ 事務長:林田 昭彦
- ・ 言語聴覚士:渡橋 一雄
- ・ 管理栄養士:刈茅 靖子、穴見 智子
- ・ 受託責任者:佐藤 由美子、川野 洋平

(文責:刈茅 靖子)

緩和ケアチーム委員会

1. 委員会の目的

緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族に対し、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチであると定義されています。

緩和ケアチームは、患者・家族の QOL を向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術により、病院内及び地域の医療福祉従事者に対するコンサルテーション活動を行います。また、患者とその家族に対し、全人的苦痛への対応や治療・療養に関する意思決定支援、遺族への支援、ケアに関わる医療福祉従事者自身の苦悩に関する支援、終末期の諸問題への対応（鎮静の適応判断と実施、治療の差し控えと中止、悲嘆への対応など）、教育・啓発活動を行います。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・緩和ケアチーム委員会会議の開催(2回/年)
- ・緩和ケアチームによるコンサルテーション活動
- ・緩和ケアマニュアルの改訂
- ・看護部ラダー研修:終末期ケア

3. 振り返りと今後の展望

今年の緩和ケアチームコンサルテーション数は 20 名でした。ここ3年程、年間20件以上のコンサルテーションが行われており、院内で緩和ケアチームが周知されるようになったためと思われます。依頼時期は治療前が79%を占め、依頼内容は疼痛以外の身体症状が47%を占めています。病状の進行から、苦痛症状の改善が困難な場合もありますが、多職種によるチームメンバーの強みを生かしながら最善に向けた取り組みや意見交換が行えています。しかし、依頼された患者様に対する活動の評価・改善、推奨が採択されなかった場合の理由確認など、介入後の評価が十分に出来ていないことが課題としてあげられます。また、緩和ケアチーム主催の勉強会を予定していましたが、院内研修のスケジュール調整がつかず、延期となりました。今回は、薬剤師による緩和ケア領域で使用される薬剤の紹介を実施する予定です。今後も、年1回程度の勉強会を実施し、教育・啓発活動を行っていく方針です。

4. メンバー

- ・身体担当医師:島松 淳一郎
- ・精神担当医師:光安 博志

- ・緩和ケア認定看護師:新川 恵美
- ・薬剤師:飯干 高明、阿部 諒
- ・栄養士:刈茅 靖子

(文責:新川 恵美)

診療録管理委員会

1. 委員会の目的

【診療録管理体制加算施設基準】診療諸記録の適正な保存・管理および適正な電子カルテ利用のために確認を行うこと。また、診療諸記録の精度を高めるため、量的監査/質的監査を実施・監督するための委員会。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 委員会の開催(1回/月)

2023/01/13 2023/03/10 2023/04/14 2023/05/12 2023/06/09

2023/08/18 2023/09/08 2023/10/13 2023/11/10 2023/12/08

※2023.2 は定例報告のみ実施

※2023.7 は水害の影響で中止

3. 振り返りと今後の展望

電子カルテの更新もあり、文書類の発行や保管に大きな変更があった。運用変更に伴い、文書類のフォーマット作成・確認を行った。

今後は、記録の質の向上・医療の質の向上のために、質多職種による質的監査の充実を図っていきたい。

4. メンバー

- ・ 委員長:後藤伸(医師)
- ・ 恒吉豪(医師)、赤穂弘枝、井手由里恵(看護師)、
飯田美樹子、水谷駿介、中島雅仁、石井佑一(事務)

(文責:水谷駿介)

透析安全管理委員会

1. 委員会の目的

田主丸中央病院で透析治療を行うにあたり、医療機器を安全に使用するため日常点検及び定期点検、部品交換などの計画・実施し、保守管理を行っております。また、人工透析における透析液の水質検査を行い、エンドトキシン・生菌が基準値内であることを確認し、感染症を起こさないため透析安全管理委員会を設置しております。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ エンドトキシン・生菌測定結果報告(毎月)
- ・ 透析用患者監視装置、透析液溶解装置、多人数用供給装置の点検及びオーバーホール実施報告
- ・ 災害訓練

3. 振り返りと今後の展望

透析液採取に関する手技の徹底とカットフィルター交換を定期的に行っていることでエンドトキシン・生菌は基準値内に保てています。定期点検においては年間予定表通り実施できました。オーバーホールは今年度中に行う予定としており、順次オーバーホールを行っていきます。今後も安全に患者様が透析治療を受けられるよう機器点検をしっかりと行ってまいります。災害訓練は「地震」「火災」を想定し、訓練を実施しております。災害時にスタッフと患者が安全に避難できるようにしていきたいと考えております。

4. メンバー

- ・ 透析液安全管理者:福島 朱里(臨床工学技士)
- ・ 透析液製造担当者:森 健祐(臨床工学技士)
- ・ 品質管理者:別府 史肅(臨床工学技士)
- ・ 機器・設備管理担当者:小川 裕(臨床工学技士)
- ・ 上原 辰則(看護師)、江崎 美香(看護師)、森山 希(看護師)、田中 由香里(看護師)、石井 留里(看護師)、坂田 美紀(看護師)、酒井 ゆかり(看護師)、中島 宏一(看護師)、合澤 伸一郎(臨床工学技士)、中西 哲也(臨床工学技士)、山本 烈(臨床工学技士)、林田 知優(臨床工学技士)

(文責:小川 裕)

1. 業務内容・活動内容

- ・ 防火・避難施設、消防設備等の点検・維持管理に関すること
- ・ 自衛消防組織の運用体制・装備等に関すること
- ・ 自衛消防訓練に関すること
- ・ 火災予防・防災教育及び変更に関すること
- ・ 水害時の避難確保に関すること
- ・ その他防火・防災管理上必要な事項

2. 2023年の目標

- ・ 防火・避難施設、消防設備等を良好な状態に維持し、安全で安心して過ごしていただける環境を提供
- ・ 防火・防災訓練を計画的に実施して、災害に強い法人への取り組みを行う。
- ・ 近年、多発する水害に備えて水害対策を行う。

3. 実績

- ・ 避難施設、消防設備等を良好な状態を維持し、安全な環境を提供することができた。
- ・ 夜間想定防火訓練及び地震想定防災訓練を実施しました。特に7月10日の水害時は、前年の垂直避難訓練の成果もあり全員を無事に避難させることができました。
- ・ 水害対策検討会において水位監視カメラの設置、院内への止水板設置及び病院周りへの防水壁設置を検討しました。

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ なし

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ なし

6. 実習指導

- ・ 2023年 3月11日:防火訓練(夜間想定)
- ・ 2023年11月 7日:防災訓練(地震想定)

7. 振り返りと今後の展望

7月10日の水害時に、北1階病棟の患者様を北2階病棟に垂直避難させましたが、防火・防災管理者指揮のもと夜勤者一丸となり、短時間で全員無事に垂直避難を完了することができました。昨年実施した垂直避難訓練の成果だと考えています。

今後の水害対策として、病院外周に防水壁を設置し、ライフライン設備を高所に移設するために機械棟を新設する計画が進行中であり、患者様、利用者様に安全で安心して過ごしていただける環境を提供していきたいと思います。

災害拠点病院として、災害時においても継続して医療を提供できる体制を整備するため防火・防災管理委員会の役割を果たしていきたいと思います。

(文責:魚谷 和夫)

薬事審議委員会

1. 委員会の目的

医薬品の進歩と多種多様化に伴い、有効性・安全性・経済性・利便性を前提に、医薬品の評価・選定を行うこと、患者の立場で医薬品の適正使用を推進することを目的として必要な事項を調査、推進、審議する委員会である。当会において、治験薬を除いて、医薬品の使用、購入にあたり、すべて審査承認を行う。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 薬品(放射性医薬品・消毒薬・血液製剤を含む)の適正な使用、購入に関する事項
 - ・ 新規購入する医薬品の調査及び管理に関する事項
 - ・ 医師その他医療従事者および患者への医薬品情報の周知徹底に関する事項
 - ・ 在庫医薬品の効率的使用及びその管理に関する事項
 - ・ 同種、同効医薬品の調整に関する事項
 - ・ その他、後発医薬品への切替を含めた医薬品の円滑な調整に関する事項
 - ・ 製薬メーカーより医局説明会の申請があった際における開催可否に関する事項
- 医薬品の採用に可否に伴う審議(17品目採用、9品目廃薬)
医局説明会(13回開催)

3. 振り返りと今後の展望

後発率の維持・上昇を目指し、まずは前年の薬剤使用量を算出し、使用量の多い薬剤の中で後発のある先発品を抽出し優先的に後発医薬品へ切替えていった。一方でDPC・包括病棟を多く抱えていることから、前年の購入額の高い医薬品についてもリスト化し、後発のある先発品についても率先して後発医薬品へ切替える戦略のもと活動していった。ただし、昨今の医薬品供給の不安定さから、逆に先発品へ切替をせざるを得ない薬剤もあり難しい判断を強いられた。今後の同様の戦略のもと審議すべき医薬品を選定していき後発率の維持に努めたい。一方で院内フォーミュラリーの策定も行い、医薬品の適正使用を推進していく。

4. メンバー

- ・ 委員長:力丸 徹(医師)
- 委員:恒吉 豪(医師) 篠崎 広嗣(医師) 赤穂 弘枝(看護師) 石飛 隆敏(事務) 山本和雄(事務) 橋口 亮(薬剤師)

(文責:橋口亮)

輸血療法委員会委員会

1. 委員会の目的

医療法人聖峰会田主丸中央病院輸血療法に関する事項を検討する委員会として設置されました。厚生労働省から通知されている「血液製剤の使用指針」、「輸血療法の実施に関する指針」に沿って輸血が行われているか監視をし、適正な輸血療法を目的としています。

また、血液製剤の使用状況を把握し輸血管理料Ⅱ及び輸血適正使用加算を取得するための条件を常に満たしているかを監視、臨床へフィードバックを行っています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 2ヶ月ごと各血液製剤の使用状況と使用目的について適正であるか検証
- ・ 電子カルテ更新による輸血療法各手順の見直しと検証
- ・ 8月:輸血シンポジウム参加(日赤主催)
- ・ アルブミン製剤使用時同意書についての検討
- ・ 委員会規約の見直し
- ・ 機能評価に向けた緊急時の輸血マニュアル作成
- ・ 福岡県合同輸血療法委員会参加

3. 振り返りと今後の展望

2022年より引き続き2023年も、電子カルテ更新に伴う様々な手順の見直しとその周知を行ってきました。また、常時、各血液製剤の使用単位数と破棄数、使用目的を確認し血液製剤が適正に使用されているかを監視し、管理料及び加算の取得基準を満たすことができています。2023年は輸血304件、アルブミン製剤66件の実施がありましたが投与後の事故は起きておらず、今後もより安全な輸血療法を目指し活動を行ってまいります。

4. メンバー

- ・ 委員長:緒方 峰雄(医師)
- ・ 今村 里美(看護師)、國武 朱美(看護師)、佐々木 美和(看護師)、伊藤 由香(医療事務)、橋口 亮(薬剤師)、坂田 昇平(薬剤師)、樋口 昭子(検査技師)、古山 佳奈(検査技師)、平 裕太(検査技師)

(文責:樋口 昭子)

臨床検査運営委員会

1. 委員会の目的

医療法人聖峰会田主丸中央病院における臨床検査の管理、運営に関する事項を検討するために設置された委員会であり、臨床検査に関する機器管理、院内実施検査の検討、精度管理、感染症検査(コロナ検査)の実施状況等の報告等を行い、臨床検査の適正化を図っています。また、検体管理加算Ⅱ取得のための体制を整えることを目的としています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 協同医学ミーティングの報告
- ・ 新型コロナ検査数報告
- ・ 水害による機器更新について
- ・ 免疫装置更新に伴う肝炎検査院内実施の検討
- ・ 電子カルテ変更に伴う生理検査システムの更新について
- ・ 外部精度管理参加(日臨技臨床検査精度管理調査・九州臨床検査精度管理研究会)
- ・ 委員会規約の見直し

3. 振り返りと今後の展望

7月の水害により、多くの検査機器が浸水したことで予定通りに実施できなかったことも多くありましたが、その中でも例年通りに外部精度管理に参加し、内部精度管理も滞ることなく実施し、検査の精度を保つことが出来ました。また、肝炎検査の院内実施を開始し、当日中に結果報告まで出来るよう取り組みを行いました。

来年には診療報酬の改定が行われる予定となっています。現在のFMS契約による検査ごとの単価等検証し、また、来年度の機能評価受申に向けて委員会規約の見直し等を行い更なる臨床検査の適正化に取り組んでいきたいと考えております。

4. メンバー

- ・ 委員長:緒方 峰雄(医師)
- ・ 今村 里美(看護師)、國武 朱美(看護師)、佐々木 美和(看護師)、伊藤 由香(医療事務)、橋口 亮(薬剤師)、坂田 昇平(薬剤師)、樋口 昭子(検査技師)、古山 佳奈(検査技師)、平 裕太(検査技師)

(文責:樋口 昭子)

褥瘡対策委員会

1. 委員会の目的

褥瘡ケアに関する質の向上及び褥瘡発生率低下と重症化の低減を図る。

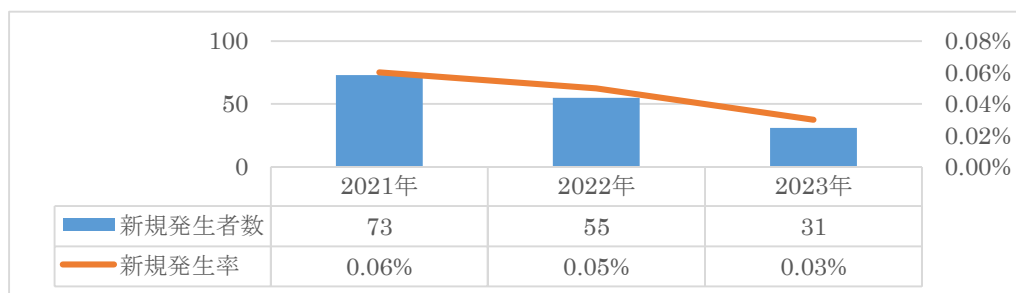
2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 褥瘡に関する危険因子評価の指導、褥瘡診療計画書の作成と評価(褥瘡対策チーム)
- ・ 褥瘡ケアや治療に関する指導(褥瘡回診を含む)
- ・ 体圧分散用具の管理
- ・ 褥瘡発生率等の調査
- ・ 院内研修会の実施、各部署勉強会の実施
- ・ 学会参加 2023年5月20日 日本褥瘡学会九州・沖縄地方会 3名参加
2023年9月1日～9月2日 日本褥瘡学会学術集会 1名参加

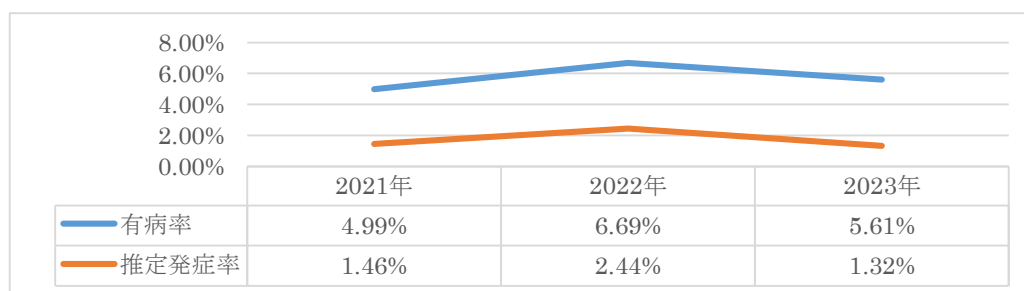
3. 振り返りと今後の展望

●実績

- ・ 新規褥瘡発生者数/発生率 31名 / 0.03%
- ・ 新規褥瘡発生率と発生者数の推移



- ・ 褥瘡推定発症率、有病率の推移



・体圧分散寝具の設置状況

エアマット 122 台(リース 100 台、購入 22 台)、静止型マット(リース 198 枚)

その他 体圧分散クッション、車いす用クッション

・褥瘡対策委員会主催研修会

「褥瘡対策について」全職員対象 web 研修

「ポジショニングについて」(実技試験あり)看護部、リハビリテーション科対象

今年度は、カンファレンスの機会を増やすことや、ポジショニングに関する研修を 看護部やリハビリテーション科へ実施することで、知識が向上し、褥瘡予防対策を意識して実践することができたことが、発生率の減少につながったと考えます。

褥瘡対策チームメンバーが主体的に、各病棟での褥瘡対策についてリーダーシップを発揮し、ここ数年は発生者数が飛躍的に減少しています。発生部位によっては、予防を行うことで防ぐことができる損傷もあったため、さらに、予防ケアに力を入れ、褥瘡対策に努めてまいりたいと思います。

4. メンバー

・ 委員長:野田 祐司(医師) 褥瘡管理者:横山 絵麻(看護師)

・ 褥瘡対策チームメンバー

野田 祐司(医師)江藤 由美(看護師)小柳 敬(看護師)庄山 徹(看護師)

原田 舞里香(看護師)、北島 愛(看護師)、松添 清華(看護師)、古賀 ゆめの(看護師)

田中 ゆみ(看護師) 溝口 倫史(看護師)、佐藤 洋子(看護師)、長田 直子(看護師)

諫山 美由紀(看護師)、江上 麻紀子(看護師)、今村 佳(看護師)、岡 実里(看護師)

村上 優美(看護師)高浪 さおり(看護師)、谷口 るみ(看護師)、御厨 孝志(看護師)

中川 加奈子(看護師)、山田 千晴(看護師)、藤村 周平(看護師)、高島 佑美(看護師)

末次 知恵(看護師)、松原 孝志(看護師)、近藤 美奈枝(看護師)、岡本 香凛(看護師)

池田 佳代(看護師)、森 由美(看護師)、木下 真由美(看護師)、相川 綾子(看護師)

・その他メンバー

池田 くるみ(看護師)、鳥巢 はるか(看護師)、荒巻 瞳(看護師)、

石井 留里(看護師)、田中 由香合(看護師)、村山 優介(理学療法士)

古舘 貴典(理学療法士)、飯干 高明(薬剤師)、渡辺 美和(薬剤師)、

武津 真裕子(栄養科)、宮本 圭一(事務)、宮崎 依里(事務)、日野 莞奈(事務)

(文責:横山 絵麻)

医療法人聖峰会
聖峰会マリン病院

看護部 外来

1. 業務内容・活動内容

- ・ 常勤看護職員 9 名、非常勤看護職員 6 名、看護補助者 1 名にて構成。内科・呼吸器内科・循環器内科・外科・整形外科の診療にあたり患者に寄り添う看護を念頭に日々の活動に従事しています。

2. 2023 年の目標

- ・ 医療と介護を通じて地域の発展に寄与する。
- ・ デジタル機器の導入と運用の構築、多職種連携。
- ・ 地域包括システムの構築。
- ・ 地域活動への積極的参加。
- ・ 働き方改革への取り組みと推進。

3. 実績

【外来】

※救急受け入れ件数:1025 件

※内視鏡件数

上部内視鏡:259 件

ERCP/EST:2 件

PEG:15 件

下部内視鏡:94 件

ポリペク:8 件

※その他

KM-CART:11 件

整形外科・外科系処置:25 件

【手術室】

※整形外科手術:169 件

※外科手術:29 件

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 姪北校区夏祭り(救護班として):1 名
- ・ 看護協会活動(まちの保健室):1 名
- ・ 福岡マラソン(救護班として):1 名

- ・ 救急病院協会意見交換会:1名
- ・ 福岡救急医学会:1名
- ・ 看護協会 5 地区研究発表:1名

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- 県医師会、看護管理研修:1名
- 救急病院協会ICLS研修:1名
- 救急病院協会防災研修:1名

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

2023年は、新型コロナウイルス感染症分類がⅡからⅤに引き下げとなり、従来の診療体制に戻しつつも、感染者数は引き続き継続または増加傾向となり、まだまだ調整が必要な状況は続いています。この経験を通して災害や感染に対応する当院の存在意義は大きいと考え、地域に根付く医療・介護の提供の為、課題を考え基盤づくりをすすめていきます。また、救急医療だけではなく健康維持・増進、予防医療への働きかけや、地域のニーズの分析を基に当院のあり方を見直し今後も地域の為になる病院を目指し業務に迫りたいとおもいます。

次年度からの新たな診療体制の構築、経営参画に積極的に取り組み、それに応じた人材育成や業務改善を引き続き行っていきます。

(文責:塚根 恵美子)

1 業務内容・活動内容

■相談業務

- ・ 外来受診・入院相談 患者窓口相談
- ・ レスパイト入院の調整
- ・ 介護保険に関する説明
- ・ 身体障害者手帳の申請援助
- ・ 訪問看護、訪問診療の利用相談窓口

■他医療機関等からの入院や他院への紹介・逆紹介支援

- ・ 紹介入院連絡、転院相談、他病院への予約受付
- ・ 医療情報提供の管理
- ・ 地域連携パス

■入院・退院支援

- ・ 転院・施設入所等相談調整

■在宅診療部門支援

- ・ 在宅訪問診療(地域・施設)に関する相談・調整
- ・ 在宅訪問診療先施設の健康診断管理

■病床管理支援

- ・ データ管理による病院経営への参画

2. 2023 年の目標

- ・ 相談窓口としての充実
- ・ 地域に密着した病院連携・病診連携・施設連携

3 実績

地域医療連携室では始業時の連絡報告、業務内容の進捗把握に努め、入退院支援状況を管理している共有データベースでの情報管理システムへと改善しました。その成果として早期の段階で退院阻害要因に対するスクリーニングや情報収集を行うことが可能となり、患者様のさまざまなご相談・ご不安等の医療ニーズへ解決に向けて病院全体でのチーム支援につながっていると思います。また担当以外の業務については側面的にサポートすることを基本としながらも、部署内での業務上の課題については協議し常に意見交換していく相互理解を重要な視点と捉えスタッフ一人一人が患者様方へきめ細かな医療を提供できるような体制を整えるべく日々研鑽に励み、今後ご紹介いただいた皆様との信頼あるつながりを目指してまいります。

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
紹介率	22.45%	24.70%	22.17%	19.20%
逆紹介率	18.29%	17.27%	14.78%	14.47%

(紹介率と逆紹介率)

1. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・地域連携パス実績報告会(脳卒中、大腿骨)参加
- ・心不全再入院防ぐ取り組み(心不全手帳運用)ネットワークの会参加
- ・福岡市保健医療局健康医療部:在宅医療・介護連携のための社会資源調査参加
- ・身寄りがない人の入院および医療に係る意思決定困難な人の支援に関するガイドライン勉強参加

2. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

3. 実習指導

該当なし

4. 振り返りと今後の展望

2020年4月、新型コロナウイルス感染症が猛威の中、当院の地域医療連携室は開設されました。全国の感染拡大に伴い『不要不急の外出禁止』や『ソーシャルディスタンス』など患者様へのサービスや地域連携の要となる「集う」という機能を大きく制限された状況で始まり、人とのつながりの重要性を改め考えさせられた中でのスタートとなりました。そんな試行錯誤の数年を経た現在、地域包括システムを見据えた退院調整の取組体制の整備を課題に掲げ、医師、看護師をはじめ理学療法士・薬剤師・管理栄養士等他職種と、また院外においては、在宅療養を支える往診医師、施設看護師、訪問看護師、地域包括センター介護支援専門員の方々との協働による退院支援の強化や退院前カンファレンスも徐々ではありますが提案定着しつつあります。今後も急性期からリハビリ期を経て在宅生活獲得まで地域の医療機関や施設の皆様と連携し、切れ目のない医療資源・介護サービス提供に向けて安心の架け橋となれるよう地域に根ざした病院として職員一同取り組んでまいります。

(文責:長野 佳代)

1.業務内容・活動内容

- ・ 外来リハビリテーション診療業務
- ・ 入院リハビリテーション診療業務

2.2023年の目標

- ・ 早期リハビリテーションの介入
- ・ 学会発表、研修会への参加

3.実績

- ・ 昨年度の新たな実績はなし

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ マリン病院・西区医科歯科連携合同企画 市民講座にて体操指導
- ・ 第25回日本骨粗鬆学会への参加
- ・ 西区多職種連携研修会への参加
- ・ COPD、心不全に関する勉強会への参加

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 骨粗鬆症マネージャー:2名取得

6.実習指導

- ・ 2023年7月～9月:臨床実習(理学療法)

7.振り返りと今後の展望

数年前まではスタッフの確保が安定せず(退職、産休・育休による)、患者様に満足のあるリハビリテーションを提供することが困難な状態でした。しかし、一昨年あたりからスタッフの採用、育休からの復帰により、徐々に安定したリハビリテーションの提供が可能となりました。一人一人に寄り添ったリハビリテーションを行うことで、患者様の満足度の向上にもつながっていると感じています。今後も多職種と連携したリハビリテーション診療を行うとともに、積極的に学会発表、研修会への参加を促し、療法士としてのスキルアップを図っていきたいと思います

(文責:山口 佳介)

1.業務内容・活動内容

- ・臨床診療と治療
患者様の診断、治療、手術などの臨床業務
各医師が専門的な分野において患者様の治療に携わる
- ・医学教育
研修医への指導や教育
- ・臨床研究
- ・学術発表と情報交換
- ・カンファレンス、ミーティングへの参加

2.2023年の目標

- ・高度な臨床ケア:専門的な診療において成果を上げていく
- ・先進的な臨床研究
- ・学術的な発信:学会発表、論文執筆など研究成果を共有していく
- ・連携とコミュニケーション:他の診療科や関連部署との連携を強化し、円滑な医療連携を促進

3.実績

- 外科手術症例数:45 症例
- 整形外科手術症例数:163 症例
- 内視鏡:検査(GS,CS 等):399 症例
治療(PEG,EST,ポリペク等):33 症例
- 学会発表など

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・地域公民館での講習会(骨粗鬆症治療について)

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当無し

6.実習指導

- 整形外科研修医指導

7.振り返りと今後の展望

医局として、高度な臨床ケアに取り組みつつ、最新の医療知識の導入、研究の推進に注力してい

かなければなりません。デジタル技術の活用や、先端技術の導入、患者参加型の医療への対応、そして、他の病院や診療科、関係部署との更なる連携の強化など、変化する医療環境に適応していくことが求められてきます。同時に、医局メンバーのワークライフバランスやスキル向上のサポート、患者ニーズに柔軟に対応できる環境を構築していくことが重要と考えています。

(文責:大田 謙一郎)

1.業務内容・活動内容

- ・ 給食・衛生管理業務
- ・ 栄養管理業務
- ・ 栄養食事指導業務

2.2023年の目標

- ・ 1人部署のため、代理業務が他スタッフでは行えないこともあり、増員を図りたい
- ・ 業務内容の継続的な見直しを行い、残業の削減に取り組む

3.実績

2023年の事業計画を基本とした実績として、
優秀な人材が確保でき、業務の充実を図ることができた
業務を分担することによって、残業時間の削減に取り組むことができた

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- 9月 内浜校区 グラウンドゴルフ大会参加
- 10月 3世代交流会 BBQ への参加
- 11月 バスで行く 柿狩りへの参加
- 12月 年末餅つき大会への参加
- 2月 ボーリング大会への参加

- ・ 2023年に新たに取得した専門・認定資格
- ・ 肝炎医療コーディネーター

5.実習指導

- ・ 2023年9月4日～2023年9月9日:内容 病院給食実習

6.振り返りと今後の展望

栄養科はこれまで管理栄養士1名体制で業務を行ってききましたが、今回増員され、2名体制になりました。今まで行き届かなかった部分もありましたが、マンパワーの充足により解消されました。引き続き、患者様のために何ができるかを考え、状態に応じた適切な栄養管理、食事内容の充実を図っていきます。

そのためには、他の医療スタッフとの情報共有、連携を強化し、患者様の栄養ケアを行っていくよう、専門的な知識を深め、必要な資格の取得を目指し、取り組んでいきます。

また、施設へ退院される患者様には、施設の管理栄養士との情報共有、ご自宅へ退院される患者様には、ご本人様、ご家族様への栄養指導を実施し、健康的な食習慣、栄養状態の改善を行い、食事の面から健康と福祉に貢献できるように努めていきたいと思ひます。

(文責:古藤 真梨)

1.業務内容

57床一般急性期病棟で10対1看護師配置
 整形外科、呼吸器内科、外科、内科、循環器の急性期患者の受け入れ
 看護師と看護補助者による看護活動の実践と医療の提供
 多職種で協働し患者とその家族に寄り添った医療や看護の提供
 積極的な院内外の連携
 医療安全、感染対策、褥創対策の積極的な活動の実施

2. 2023年の目標

患者とその家族に寄り添い立場に立った看護の提供をおこなう
 57床の病床を効率的に稼働させ、断らない救急医療をめざす
 ICTチームを中心に、必要とされるコロナ患者の入院対応をおこない地域医療を支える。
 医療・看護の実践にあたり専門職としての自覚を持ち個々の研鑽に努める。
 チーム内・チーム間の連携と他部署との連携協力体制の強化

3.実績

(急性期病棟10:1 入院基本料2) 各種データ

平均患者数	新入院数	退院数	平均在院日数	病床稼働率	在宅復帰率	看護必要度数
46.9(人)	92.7(人)	92.1(人)	15.9(日)	87.3(%)	76.2(%)	28.3(%)

一般病床は、新規入院患者のほとんどが救急からの入院です。いつでも受け入れが出来るように連携室や外来とも情報を共有しながらベットコントロールし地域の患者を積極的に受け入れていきました。外科、循環器などの患者をはじめ、専門性をいかした呼吸器疾患や整形外科の紹介患者も増加しました。

入院患者の年齢層は高齢者が多く認知症の進行予防や安全管理、褥創予防対策などを多職種と連携しながら取り組んできました。そして、患者や家族への説明をおこない介護などの相談にも耳を傾け相手の立場に立った看護に努めています。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

褥創学会
 救急医学会
 FLS学会
 地域の運動会救護班活動
 中学生職場体験の受け入れ

2.2023年に新たに取得した専門・認定

骨粗鬆症マネージャー

認定看護管理者教育課程セカンドレベル

3.実習指導

該当なし

4.振り返りと今後の展望

今年度は、救急医療体制の向上を目指し病院全体でシュミレーションによる研修や整形外科患者の二次骨折予防のための体制の強化をおこないました。病棟としてまたチームとして看護力を発揮するため、スタッフ間のコミュニケーションの充実を図り活気ある病棟づくりを目指しました。スタッフ間の知識・技術の習得や連携を図るコミュニケーションが増え、共に90人を超える入退院の受入れをすることが出来ました。また課題解決のために、昼カンファレンスを行い業務改善にも取り組むことで、患者対応がスムーズに行えるようになりました。次年度は、新たに心臓カテーテル検査が再開されるため、勉強会開催を追加し、引き続き病棟全体で知識・技術の向上を図り、地域から信頼される質の高い医療・看護の提供が出来るよう病棟の体制強化を早急に行い努めていきます。

文責：山下 直美

1.業務内容・活動内容

- ・ 病床数 28 床の地域包括ケア病棟 看護配置 13 対 1 看護師 14 名での看護活動の実践と医療の提供
- ・ 地域包括ケアシステムにおける積極的な院内外の連携
- ・ 地域連携室やりハビリなど多職種で協働し、個々に応じたカンファレンスと在宅復帰支援の実施
- ・ 医療安全、感染対策の研修会参加や業務改善などの実施

2.2023 年の目標

- ・ 「地域のために、地域とともに」という病院理念のもと、専門職としての自覚を持ち、知識・技術の向上に努める。
- ・ 看護の質の向上を図り、患者様の QOL(Quality of Life)を高める。
- ・ 平均入院患者数 26 名を目標にベッドコントロールし病床運営を安定化させる

3.実績

2023 年 1 月～2023 年 12 月の患者数平均は 24.9 名

在宅復帰率に関しては毎月 80%以上

地域の方の緊急入院先としての機能や、急性期を脱した患者の受け入れ病床としてリハビリの継続や入退院調整にあたりました。また、在宅復帰に向けては、安心して退院できるよう患者や家族の意向を確認しながら医療や看護の実践に努めました。特に、患者の意思決定支援への取り組みは、患者と家族にとって安心と満足できる医療の提供のため研修活動や広報活動などの強化をはかりました。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

第 9 回 地域包括ケア病棟研究大会

- ・ 地域の夏祭り救護班としての活動
- ・ 地域の中学生職場体験の受け入れ

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6.実習指導

該当なし

7.振り返りと今後の展望

2023 年は、全員病院経営への参画としてスタッフへ病床稼働率の一覧等を情報共有することで意識改革が起き、ダイレクト入院や急性期病床からの転入を積極的に受け入れる体制を構築する事が出来ました。

この基盤を崩すことなく引き続き、2024 年度は患者数平均 27 名/月を目標に、地域連携室や各コメディカルとより連携を深め入退院支援を活発化させていきます。また、2024 年度当院の方針である「地域で一番働きやすい病院、そして地域で一番患者さんに優しい病院」を目指すべく、人材育成及び業務改善に取り組んでいきたいと思ひます。

(文責:澤田 渉)

1.業務内容・活動内容

- ・ 生理機能検査:12 誘導心電図、長時間心電図、血圧脈波検査、トレッドミル負荷心電図、呼吸機能検査、聴力検査、睡眠ポリグラフ検査、超音波検査(心臓・腹部・頸部・乳房・頸動脈・血管・その他)、心臓カテーテル検査など
- ・ 生化学検査
- ・ 血液学検査:検血一般、血液凝固(PT・APTT)
- ・ 免疫学検査:CRP、血液型、交差適合試験、不規則抗体スクリーニングなど
- ・ 一般検査:尿、穿刺液、排出液など
- ・ 血液ガス分析
- ・ 外注検査受付
- ・ その他

2.2023年の目標

- ・ 院内検査項目の増加
- ・ 収益率の改善
- ・ リスクマネージメント

3.実績(主な院内検査)

生化学検査	8878 件
CRP	6710 件
NH3	40 件
血液ガス分析	384 件
末梢血液一般検査	9156 件
末梢血液像	7045 件
赤血球沈降速度	32 件
尿定性検査	1987 件
尿沈渣	1187 件
便潜血	92 件
血液型	206 件
交差適合試験	71 件
肺炎球菌抗原(尿)	31 件
レジオネラ抗原(尿)	31 件
トロポニン T	49 件
HFABP	47 件
インフルエンザ抗原定性	1208 件
ノロウイルス抗原定性	21 件
A 群β 溶連菌抗原定性	45 件
プロカルシトニン	45 件
SARS-Cov-2 (PCR)	2199 件
SARS-Cov-2 抗原定性	1059 件
心電図	2849 件
ホルター心電図	93 件
血圧脈波検査	180 件
肺機能検査	168 件
睡眠ポリグラフ検査	5 件
超音波検査(心臓)	790 件
超音波検査(腹部)	423 件
超音波検査(体表・血管)	214 件
運動負荷心電図検査	10 件

4. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 日本超音波医学会第96回学術集会参加

5. 2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 日本不整脈心電学会 心電図検定2級

6. 実習指導

- ・ 該当なし

7. 振り返りと今後の展望

近年、コロナ禍や社会情勢の影響により、検査試薬や消耗品の価格上昇、安定供給の確保、保険点数の引き下げなど検査室運営については厳しい状況が続いています。

また、正確性や精度の確保、検査機器の保守管理など少ない人員での運営には限界があり、これらを改善するために検査室の運営形態をFMS(Facility Management Service)としました。

運営形態がFMSとなったことで、検査試薬、消耗品などが検査センターから供給されます。さらに検査機器の更新なども検査センターが計画的に行ってくれるので、経年劣化による故障のリスクが軽減されます。

検査結果についても検査センターと比較検討しながら正確性や精度を確保することが可能となりました。

今後は、ランサムウェアやコンピューターウイルス、自然災害など病院や検査室の機能が大きく障害を受けた場合に、最低限の機能を維持しつつ、いかに短時間で元の機能を回復させるか検討する必要があります。

(文責:中尾 栄二)

事務部 医事課

1.業務内容・活動内容

- ・ 外来医事(受付)業務
- ・ 入院医事(受付)業務
- ・ 保険請求業務
- ・ 医事統計業務

2.2023年の目標

- ・ 各自の知識(医事)向上
- ・ 受付時の感染対策の継続
- ・ 感染症流行期(混雑時)における柔軟かつ適切な対応

3.実績

- ・ 業務マニュアルの見直しを行い、新入職者に対し、マンツーマンで指導することによりそれぞれのペースで無理なく指導ができました。
レセプト査定率を維持するために、医事課の勉強会に積極的に参加したことは、評価できると思います。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 西区・早良区 医事勉強会(2か月に1度)

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当無し

6.実習指導

- ・ 該当無し

7.振り返りと今後の展望

コロナが5類に類下げとなり、世の中の暮らしがコロナ前に戻りつつあります。しかし、病院内は、感染症対策を含め、今まで通りの忙しさでしたが、離職者が今年度出なかったことは評価できると思います。

今後の展望としては、新入職員や、パート職員の働く幅を広げ、一人一人の仕事の負担が減るよう改革していき、仕事とプライベートのバランスを保てるよう構築していこうと思います。来年度は診療報酬の改定もあるため、勉強会への参加を促進し、どんな変化にも対応できる知識、スキルを身につけられるよう取り組みます。

(文責:玉置 巧伍)

1.業務内容・活動内容

- ・ 総務全般
- ・ 人事全般
- ・ 経理全般

2.2023年の目標

- ・ 福利厚生の見直し(コロナ陽性の職員や家族を持つ職員への休暇対応)
- ・ 人事考課と給与体系の見直し 及び 優秀な人材の確保と育成、離職防止
- ・ 適切なコスト管理

3.実績

2023年の事業計画を基本とした実績として、
優秀な人材の確保、そして人財になるための育成 に取り組みを始めたこと。
始めに担当部署による価格交渉、その次に総務担当者による価格交渉・確認をおこない、適切なコスト管理に努めた。
コロナ関連、処遇改善、光熱費に関する適切な補助金申請。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 姪北校区 夏祭り参加
- ・ 内浜校区 グランドゴルフ参加
- ・ 内浜校区 運動会参加

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6.実習指導

- ・ 該当なし

7.振り返りと今後の展望

病院全体が COVID-19(以下、コロナ)の感染対策を徹底する中、総務課もできる限りの感染予防対策を取りながら業務に取り組んできました。2023年5月から5類に引き下げられ、コロナ前のような生活に少しずつ戻ることを実感した1年でした。おかげさまで校区の行事も再開し、それに参加することができました。

総務課は、コロナに負けず患者さんのために一生懸命働いた聖峰会マリン病院の職員の皆さんが安心して働ける職場づくりを目指したいと思っています。また、何か困ったときに、職員が気軽に話しをしてもらえるような雰囲気作りをおこなっていきたいと思います。

(文責:中谷 美佳)

1.業務内容・活動内容

カルテの管理・運用

- ・ 診療情報を体系的・一元的に管理する業務
- ・ 診療情報を安全に保存・管理する業務
- ・ 診療情報を点検・管理する業務
- ・ 個人情報としての診療情報を保護する業務
- ・ 病院の管理・運営のための業務
- ・ 診療情報の活用に向けたデータ処理・提供業務

2.2023 年の目標

- ・ 医療 DX や診療報酬改定など、医療の変化に対応できる体制づくり
- ・ 自然災害やシステム障害など起こり得るトラブルを想定し、セキュリティ対策を講じる

3.実績

- ・ データ提出
一度も遅延なく厚労省へ提出し、データ提出加算 1 を維持
日々のデータの蓄積により厚労省が求めるデータ加工ができている
- ・ 開示
患者様やご家族様などの求めに応じカルテ開示を行っており、
様々なニーズに合わせて情報提供ができるように適切な管理・点検を心掛けている
- ・ 診療録管理体制加算 1
質の高い診療情報を確立すべく、各部署を集い意見交換の場として委員会を開催
また、適切なデータ管理を行い、加算を維持。

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 該当なし

5.2023 年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当なし

6.実習指導

- ・ 該当なし

7.今後の展望

医療 DX、AI などの技術が進んでいる今、医療の精度や質の向上、業務の効率化が期待されています。

医療の発展に伴い、管理するデータの増加や複雑化も予想されるため診療情報を管理する業務はより重要になっていきます。診療情報管理室はその変化に対応できる体制を整え、病院と患者様へ貢献できるよう努めてまいります。

また、医療の安全管理として自然災害やシステム障害などの非常に備えた医療情報システムのバックアップを複数の方式で確保し、医療情報システムの対応や復旧についての業務継続計画を取り入れていきたいと思っております。

(文責:西村 好代)

1.業務内容・活動内容

- ・ 放射線業務全般

2.2023 年の目標

- ・ 新たな体制への柔軟な対応
- ・ MRI 装置の安定的な稼働を築く
- ・ 診療科が増えることへの柔軟な対応

3.実績

- ・ 昨年度の新たな実績はなし

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 放射線に関わる学会への参加諸々

5. 2023 年に新たに取得した専門・認定資格

該当なし

6. 実習指導

- ・ 該当なし(コロナのため受け入れ休止中)

7. 振り返りと今後の展望

一昨年度から責任者として FLS 委員会を発足し、近隣の病院との共同連携セミナーに参加したり、甘木中央病院との情報交換会に参加したり FLS 委員会メンバーから市民講座の講師として参加、また R6 年 1 月にはマリン病院主催でのハートネット病院との共同セミナーを開催したりと FLS での活動が充実してきておりました。

この度当院から骨粗鬆症マネージャーの資格を 3 名取得したタイミングで責任者を有資格者のマネージャーに移行したが、FLS には今後も変わらず関わっていきます。

今後、4 月より院長が変わるとのことで、心カテ検査の再開(4~5 ぶり)、新たな診療科が増えることへの対応、MRI 装置の更新といった放射線科に関わる事が待ち構えております。まずはそれらに対する安定的な稼働を目指す為に体制を整えて行く予定です。また、スタッフも限られた人数のため、協力し合いながら検査の拡充を図り検査数増に向けて取り組んでいきます。

(文責:野元 一広)

薬剤科

1.業務内容・活動内容

- ・ 薬剤管理指導の充実
- ・ ポリファーマシー対策の推進
- ・ 二次骨折予防継続管理の参加

2.2023年の目標

- ・常勤薬剤師の増員
- ・病棟薬剤業務管理加算の申請
- ・薬剤科よりリスクマネージャーを1人取得
- ・学会参加

3.実績

二次骨折予防継続管理委員会への参加
近隣の歯科医院との医科歯科連携協議

4.対外活動(学会発表・参加、講師派遣などを含む)

- ・ 骨粗鬆学会への入会
- ・ 地域公民館での講習会(骨粗鬆症治療について)

5.2023年に新たに取得した専門・認定資格

- ・ 該当無し

6.実習指導

- ・ 該当無し

7.振り返りと今後の展望

常勤薬剤師の増員が出来ず、病棟薬剤師配置加算の申請が出来ませんでした

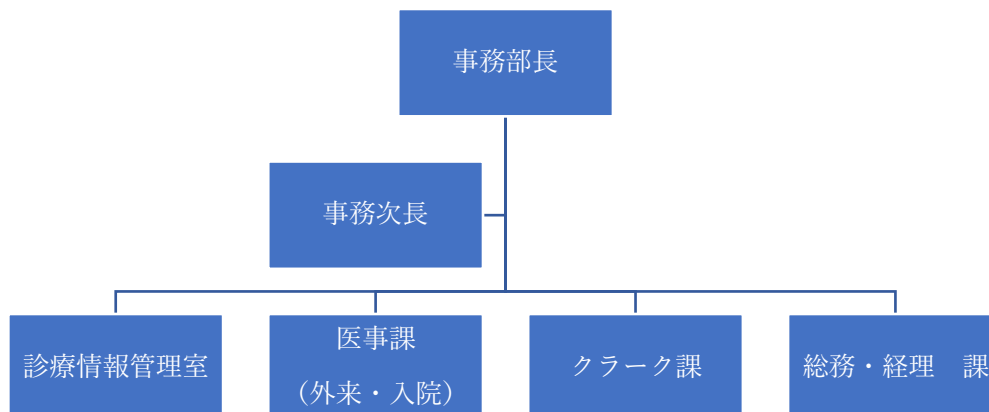
高齢化社会や新興感染症の増加に伴い、医療ニーズが拡大しています。

薬剤師として、患者の健康管理や薬物療法の専門家としてますます重要視され、複合的な業務に挑戦していきたいと思います。

(文責:富田 成美)

事務部

1. 体制



2. スタッフ

事務部長

事務次長

診療録管理室 1名

医事課 外来係 5名(非常勤含む)、入院係 3名(非常勤含む)

総務・経理 課 2名

クラーク課 6名(非常勤含む)

3. 業務内容(現在取り組む業務)

医事受付・請求業務全般

診療録管理室としての業務全般

総務・経理 業務全般

各部署でのクラーク業務(病棟、放射線科・検査科、リハビリテーション科、薬局)

4. 1年の経過と今後の業務

医事請求業務については、返戻・再請求・保留に関してはデータ(件数)を取ることでより正確な請求業務に努めるようにしてきました。

また、地域の医療機関と、医事勉強会とリーダー研修(マネジメントに関する勉強会)を開催・参加しました。他医療機関との交流は非常に有意義であったと思っており、今後も継続していきたいと考えています。

各部署での人員配置といたクラーク職員については、事務部所属とし産休・育休時に柔軟な対応ができるような体制としました。これにより、部署間での異動も可能となると考えています。

5. 業績(業務)報告

特になし

6. 対外活動(学会発表・参加、講師派遣なども含む)

- ・内浜校区夏祭り・運動会 運営スタッフとして
- ・姪北校区夏祭り・運動会 運営スタッフとして
- ・医事勉強会(西区、早良区 内の複数の医療機関参加)
- ・リーダー育成共同研修会(西区、早良区 内の複数の医療機関参加)
- ・麻生医療福祉専門学校 教育課程編成委員会 の編成委員

7. 実習指導

- ・麻生医療福祉専門学校(医療秘書科、診療情報管理士科)
- ・福岡医療秘書福祉専門学校(医療秘書課、診療情報管理士科)
- ・F・C フチガミ医療福祉専門学校(医療秘書科、診療情報管理士科)

8. 専門・認定資格

- ・診療情報管理士 2名
- ・施設基準管理士 1名
- ・JMIP 認定調査員 1名

(執筆責任者 井上将彦)

委員会

NST 委員会

1. 委員会の目的

入院時、全患者様を対象に、医師、管理栄養士をはじめ、看護師、薬剤師、臨床検査技師が協力し、栄養管理に伴う合併症の予防や早期発見に努めています。患者様の栄養管理が良好に保たれるよう活動していくことを目的としています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・症例検討会
- ・回診、栄養療法の提言
- ・研修会、勉強会への参加

3. 振り返りと今後の展望

振り返りとしては、主に食事を摂取することができず、栄養が十分に取れていない患者様の病状の回復のために、治療、適切な栄養管理、合併症の予防を行い、早期復帰の支援など、幅広い活動をチームとして展開してきました。

今後の展望としては、医療の進歩や患者様の多様なニーズに柔軟に対応していくことが求められてきます。新たな栄養管理法や病院内外との連携強化など更なる努力が必要となってくることと思います。定期的な研修や情報交換を通じて、委員会メンバーのスキル向上を図っていこうと思います。

4. メンバー

病院長、事務長、看護部長、看護師、薬局長、管理栄養士主任、検査技師長、医事課

(文責:古藤 真梨)

安全管理委員会

1. 委員会の目的

院内での医療事故を防ぐとともに、医療の質を高め、安全な医療を提供するために平成 14 年 9 月より医療安全委員会を設置し活動をおこなってきました。院内における安全で質の高い医療を提供するため多職種で構成しあらゆる面から医療安全対策を総合的に企画、実施しています。また、患者様の安全だけではなく医療従事者の安全も守り適切に対応することを目的としています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 安全管理委員会実施 事例報告、安全管理に関連する情報共有(1 回/月)
- ・ 事故防止のための院内のラウンドの実施(1 回/週)
- ・ インシデント・アクシデントレポート掲示作成
- ・ インシデント・アクシデントレポート全職員間の情報共有
- ・ 第 1 回 安全管理全体研修 インシデント、アクシデントレポートの分析、評価
- ・ 第 2 回 安全管理全体研修 KYT 写真を使用しての実施
- ・ e-ラーニングを使った学習支援
- ・ 医療安全管理者養成研修の受講
- ・ 医療事故調査・支援研修の参加
- ・ 医療安全マニュアルの作成、更新

3. 振り返りと今後の展望

年間のインシデント・アクシデントレポート総数は、200 件を越えています。インシデントやアクシデントの内容を丁寧にひろい上げ分析し早期に対策を実行してきました。内容としては、転倒転落に関するインシデントが最も多く、対策としてセンサーマットの使用などについて多職種カンファレンスをおこない患者の苦痛を最小限かつ安全が担保できるよう取り組みを強化しました。また、加齢による難聴や認知症患者が同姓同名・類似名やフルネームでの呼び出しにおいて返事されることが増えています。このような事例は増加が予想されることから高齢化により起こりうる問題をアセスメントし、アクシデントを回避できるよう活動してきます。

今後も積極的に研修会の参加し情報の収集や次世代のリスクマネージャーの育成も視野に院内の教育をおこないます。

地域の医療提供については、ITの活用などの範囲を広げ、多職種が意見を出し合い職員全体で病院の安全を守っていくという風土作りへ広げていきたいと思えます。

4. メンバー

- ・ 委員長：医師、事務長、看護師、薬局長、放射線科技師長、検査技師長、リハビリテーション
 科室長、栄養課主任、連携室室長、医事課

文責 真鍋小百合

院内感染対策委員会

1. 委員会の目的

内感染対策委員会は、院内感染の予防と対策を目的として設置し、職員及び患者の感染症の予防・管理及び環境管理を行っています。

また院内感染対策委員会の下部組織として ICT(infection control team)をもち、実働部隊として対策を実践しています。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 感染対策委員会(月1回)
- ・ ICT 会議(月1回)
- ・ 院内感染対策委員会主催全体勉強会
 - 「新型コロナウイルス感染症に関する PCR 検査のための鼻腔・咽頭拭液の採取のための研修」(2023年2月7日～2023年2月18日 オンデマンド配信)
 - 「手指衛生」(2023年8月30日 会議室)
- ・ 週1回の感染対策ラウンド
- ・ 感染対策マニュアルの作成、改訂
- ・ 職員の職業感染対策
- ・ 福岡地区の他医療機関との連携
- ・ 感染対策向上加算1を申請している保険医療機関との合同感染対策ラウンド
- ・ 感染対策向上加算1を申請している保険医療機関が主催するカンファレンスへの参加
- ・ 抗菌薬使用量、手指消毒薬の使用量、薬剤耐性菌の検出率等のサーベイランスの参加

3. 振り返りと今後の展望

新型コロナウイルス感染症は発生から4年近くが経過しましたがいまだに流行と寛解を繰り返しています。また、今後も完全に終息することはなく、現在の状況が続いていくと考えられます。

2023年も複数回の大きな流行がありました。市中で流行が起これば職員や職員の家族も感染し、勤務できない職員も増加します。さらに、通常より嚴重な感染対策が求められ大変厳しい一年でした。そんな中一時はクラスターが発生する場面もありましたが、職員一人ひとりの努力によって何とか乗り越えてきました。

新型コロナウイルス感染症がどんなに流行していても、薬剤耐性菌など他の感染症もこれまで同様に注意を払う必要があります。

当委員会では毎週院内の感染情報をまとめたレポートを作成するとともに、地域の他の医療機

関とも連携し、各種サーベイランスにも参加しています。

今後も、患者さまが安心して治療に専念していただけるよう、継続的に活動していきたいと考えています。

4. メンバー

- ・ 委員長：病院長
- ・ 委員：副院長、事務長、医事課、看護部長、南病棟師長、北病棟主任、外来師長、医療連携室長、薬局長、臨床検査技師長、リハビリ室長、栄養科主任、放射線科副主任

(文責：中尾 栄二)

診療情報管理委員会

1. 委員会の目的

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理上および診療記録に関する事項を検討、討議する事を目的とし、診療情報管理委員会を設置している。

2. 1年間の活動内容

- ・ 診療情報管理委員会（2か月に1回開催）
～委員会内容～
 - 1) 診療録の記載の適正性に関する審査と評価
 - 2) 診療情報管理業務の取り扱いに関する事
 - 3) 診療情報管理に関する院内規定に関する事
 - 4) 診療録及び関連資料の様式ならびに記載要領に関する事
 - 5) 診療情報提供における診療情報管理業務に関する事
 - 6) その他、診療情報管理業務の改善と推進に関する事

3. 振り返りと今後の展望

診療録の記載内容、記載項目の確認など質的点検と量的点検を主とし、委員会を通して各部署と情報共有を行うことで精度の高い診療録を目指しています。

今後は、医療情報のデジタル化や情報技術の進化に伴い、管理するデータの増加や複雑化が予想されますが、多様な診療情報を収集・分析することで質の高い医療の提供や病院経営に貢献できることが期待できます。

診療情報管理委員会ではこれらの日々蓄積されたデータを元に、各部署を交え評価し、今後の方向性や改善すべき点を確認しあうことが今後の課題になっていくのではないかと考えています。

4. メンバー

- ・ 委員長：診療情報管理士
- ・ 委員：病院長、看護部長、事務長、南病棟師長、北病棟主任、外来師長、医療連携室長薬局長、臨床検査技師長、リハビリ室長、栄養科主任、放射線科技師長
- ・

（文責：西村 好代）

薬事委員会

1. 委員会の目的

委員会は病院長直轄の諮問機関で、病院内で使用する全ての医薬品の医学的及び薬学的評価を行い、その選択、購入、及び使用などに関する事項を審議し、適正かつ円滑な業務を図ることを目的とする。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 医薬品の採用及び削除に関すること
 - ・ 薬品の適正な使用及び管理に関すること
 - ・ 病院医薬品集等の編集及び約束処方の改廃に関すること
 - ・ 医薬品の情報に関すること
 - ・ 医療従事者の医薬品に関する教育の企画に関すること
- 以上の内容について審議を行った

3. 振り返りと今後の展望

医薬品や医療機器の安全性や有効性を確保し、規制する役割を果たしています。
これまでの振り返りでは、新たな医薬品の承認や安全性の確認が重要な焦点でした。
将来に向けてはバイオテクノロジーの進展や個別化医療の台頭に伴い、より複雑な医薬品の取り扱いや評価が求められる事が予想されます。
そういった医療情勢に柔軟に対応出来るように協議していきたいと思えます

4. メンバー

委員長:病院長・内科

副委員長:薬局長

委員:副病院長・循環器科、副会長・外科、外科医師、整形外科医師、呼吸器内科医師
麻酔科医師、事務長、看護部長

(文責:富田 成美)

褥瘡対策委員会

1. 委員会の目的

病院職員は、褥瘡に関する基礎的な知識を持ち、日常的な医療・看護・介護において、褥瘡発生の予防と早期治療について配慮しなければなりません。病院内における褥瘡対策を討議・検討しその推進を図るため、褥瘡対策委員会を設置し、褥瘡対策に関する事項についてその結果を職員に報告することで、幅広く褥瘡対策に努めていく必要があります。

褥瘡対策委員会は、聖峰会マリン病院における院内褥瘡対策を討議、検討して効率的な推進を図り、褥瘡ケアに関する質の向上及び褥瘡発生率と重症化の低減を図ることを目的に設置された委員会です。

2. 1年間の活動内容(院内研修、勉強会等も含む)

- ・ 定例委員会(1回/月 第2火曜日)
- ・ 褥瘡回診(毎週火曜日)
- ・ 日本褥瘡学会 九州・沖縄地方会 学術集会(1回/年)参加
- ・ 褥瘡対策に関する診療情報計画書の作成・評価
- ・ 褥瘡評価(褥瘡経過表作成、看護計画の評価・立案、毎月の褥瘡新規発生者・入院時褥瘡保有者の管理、毎月の褥瘡に関する統計処理)
- ・ 各種研修会への参加(看護協会・WEB など)
- ・ 褥瘡対策院内勉強会(1回/年+必要時)
- ・ 体圧分散用具の提供及び管理
- ・ 褥瘡対策に関する診療計画書・経過表・報告書などの見直し
- ・ 褥瘡対策マニュアルの見直しと改訂

3. 振り返りと今後の展望

当院の褥瘡対策委員会は、2002年に新設された施設基準である褥瘡対策未実施減算に対応すべく編成されました。委員会目標は①褥瘡発生率の低減②チーム連携③体圧分散寝具の整備とし日々褥瘡対策に取り組んできました。

2023年、当院入院患者数1129名のうち、院内発生数は39件でした。そのうち、d2で発見した褥瘡は29件、D3は1件、DTIは2件、DUは6件でした。入院中に治癒した褥瘡は、12件でした。治癒する前に転院や退院、亡くなられた方もいました。今後は、「褥瘡を発生させない病院、褥瘡が治る病院」として地域から信頼される医療サービスを提供したいと思います。次年度は、体圧分散寝具の整備、人材育成が課題としてあげられるため、計画的に取り組む方針です。

4. メンバー

- ・ 委員長:院長
- ・ 褥瘡専任看護師
医師、看護部長、看護師、薬局長、リハビリテーション科室長、検査技師長、栄養科主任、医
事課

(文責:富田 夏美)